

# Parallels<sup>®</sup> Plesk Panel

---

## Parallels Plesk Panel 9.5

### クライアントガイド

# 著作権表示

ISBN: N/A

Parallels

660 SW 39<sup>th</sup> Street

Suite 205

Renton, Washington 98057

USA

電話 : +1 (425) 282 6400

FAX : +1 (425) 282 6444

Copyright 1999-2009,

Parallels, Inc.

All rights reserved

著作権保有者による書面による事前の許可なしに、いかなる形式によっても本書もしくはその派生物を配布することを一切禁じます。

特許を取得した技術は、アメリカ合衆国の特許番号7,328,225、7,325,017、7,293,033、7,099,948、7,076,633により保護されます。

Patents pending in the U.S.

ここに記載の製品名およびサービス名は、それぞれの権利保有者の商標です。

# 目次

<b>序文</b>	<b>8</b>
表記規則 .....	8
フィードバック .....	9
<b>はじめに</b>	<b>10</b>
Parallels Plesk Panel にログインする.....	11
パスワードを忘れた場合 .....	12
Parallels Plesk Panel に慣れる .....	13
連絡先情報およびパスワードの変更.....	17
<b>グローバルアカウントの設定</b>	<b>18</b>
グローバルアカウントの作成.....	18
ローカルアカウントをグローバルアカウントに接続 .....	19
アカウントの切り替え.....	20
グローバルアカウントパスワードの変更.....	20
グローバルアカウントからローカルアカウントを接続解除.....	21
<b>コントロールパネルのカスタマイズ</b>	<b>22</b>
ホームページのカスタマイズ.....	23
ドメイン管理者アカウントのホームページのカスタマイズ.....	24
コントロールパネルのインターフェース言語とスキンの設定 .....	25
カスタムロゴの設定 .....	26
ハイパーリンクボタンの追加および削除.....	27
<b>ホスティングパッケージに含まれるリソース割り当てとホスティング機能の表示</b>	<b>29</b>
ホスティングパッケージに含まれる IP アドレスの表示 .....	30
アカウントのリソース割り当ての表示 .....	31
コントロールパネルで実行できる操作の一覧表示 .....	33
勘定残高の表示 .....	34
<b>ウェブサイトの設定の簡略化</b>	<b>35</b>
<b>Web サイトのホスティング</b>	<b>42</b>
パッケージ済みブランドデフォルトサイトページ（仮想ホストテンプレート） .....	43
Web サイトのホスティングアカウントの設定 .....	44
1つのサイトで消費可能なリソースの量の制限 .....	49
サイト所有者にコントロールパネルへのログインを許可 .....	52
サイトの作成および公開.....	55

Sitebuilder を使用した Web サイトの作成と公開.....	55
FTP 経由でのサイトの公開.....	56
Parallels Plesk Panel ファイルマネージャ経由でのサイトの公開.....	61
SSH 接続によるサイトの公開.....	62
Microsoft FrontPage によるサイトの公開 (Windows ホスティング).....	63
追加の Microsoft FrontPage アカウントの使用 (Windows ホスティング).....	66
Microsoft FrontPage 設定の変更 (Windows ホスティング).....	68
Adobe Dreamweaver によるサイトの公開.....	69
サイトのプレビュー.....	70
ASP.NET の設定 (Windows ホスティング).....	71
ドメインの ASP.NET 設定.....	72
仮想ディレクトリの ASP.NET 設定.....	75
デフォルト ASP.NET 設定の復元.....	77
ドメインの .NET フレームワークのバージョン変更.....	78
仮想ディレクトリの .NET フレームワークのバージョン変更.....	79
ドメインの PHP バージョンの設定 (Windows ホスティング).....	79
データベースの配置.....	80
データベースの作成またはインポート.....	81
データベースユーザアカウントの作成.....	82
データベースユーザパスワードの変更.....	83
データベースユーザアカウントの削除.....	83
データベースの削除.....	83
外部データベース (Windows ホスティング) からデータにアクセス.....	84
外部データベースへの接続の作成.....	84
既存の ODBC 接続設定の変更.....	85
外部データベースへの接続の削除.....	85
Adobe ColdFusion のデータソース名の設定 (Windows ホスティング).....	85
新規データソース名の作成.....	86
データソース名の設定の変更.....	86
データソース名の削除.....	87
アプリケーションのインストール.....	88
Java Web アプリケーションのインストール.....	91
ASP.NET Web アプリケーションのインストール (Windows ホスティング).....	93
Ruby Web アプリケーションのインストール (Linux ホスティング).....	95
IIS アプリケーションプールの使用.....	97
IIS アプリケーションプールの設定.....	98
IIS アプリケーションプールの無効化.....	99
Google ウェブサイト サービスの使用法.....	100
Web サイトの保護.....	102
SSL (セキュアソケットレイヤー) 暗号化による E-コマーストランザクションの保護.....	103
サイトの帯域幅使用量の制限.....	111
サイトへの同時接続の制限.....	112
サイトを帯域幅流用から保護 (Windows ホスティング).....	112
パスワード保護による Web サイトのリソースへのアクセス制限.....	113
ファイルおよびディレクトリのアクセス権限の設定 (Linux ホスティング).....	116
ファイルおよびディレクトリのアクセス権限の設定 (Windows ホスティング).....	117
サブドメインを含むサイト構造の編成.....	123
サブドメインの設定 (Linux ホスティング).....	124
サブドメインの設定 (Windows ホスティング).....	126
サブドメインの削除.....	128
サイトの追加ドメイン名の設定 (ドメインエイリアス).....	129
ドメインエイリアスの設定.....	130

ドメインエイリアスのプロパティの修正 .....	131
ドメインエイリアスの削除 .....	132
仮想ディレクトリの使用 .....	133
仮想ディレクトリの作成 .....	134
仮想ディレクトリ設定の変更 .....	137
MIME タイプの追加および削除 .....	140
仮想ディレクトリの PHP バージョンの設定 .....	143
仮想ディレクトリの削除 .....	143
Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング .....	144
Web ページ所有者の FTP パスワードの変更 .....	145
Web ページ所有者へのディスク容量の割り当ての増加 .....	146
Web ページ所有者のアカウントの削除 .....	146
サーバへの anonymous FTP アクセスの設定 .....	147
Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ (Linux ホスティング) .....	149
Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ (Windows ホスティング) .....	152
ドメインの DNS ゾーン設定のカスタマイズ .....	154
リソースレコードの追加 .....	155
リソースレコードの変更 .....	157
リソースレコードの削除 .....	159
元のゾーン設定の復元 .....	160
外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給 .....	161
Web ホスティングタイプを物理的から転送へ変更 .....	163
他のサーバにホストされているサイトのドメイン名の使用 (ドメイン転送) .....	164
Web サイトホスティングアカウントのアップグレード .....	165
多数の Web ホスティングアカウントへの類似の変更の実行 .....	166
Web サイトの中断および中断解除 .....	167
Web サイトの削除 .....	168

## メールサービスの使用 169

メールボックスの作成 .....	171
メールにアクセス .....	172
Microsoft Office Outlook 2007 の設定 .....	173
Microsoft Outlook Express 6 の設定 .....	176
Mozilla Thunderbird の設定 .....	180
Apple Mail の設定 .....	185
スパムからのメールボックスの保護 .....	190
補足的ディスポーザブルメールアドレス (メールエイリアス) の設定 .....	191
SpamAssassin スパムフィルタの設定 .....	192
ウイルスからのメールボックスの保護 .....	197
アンチウイルス保護の有効化 .....	197
アンチウイルス保護の無効化 .....	198
メールボックスの中断および中断解除 .....	199
メールボックスの削除 .....	200
アカウントのメールボックスフォワーダへの変更を決定した場合のメールボックスサービスの無効化 .....	200
単一メールアドレスへのメール転送の設定 .....	201
メールフォワーダの中断および中断解除 .....	202
複数メールアドレスへのメール転送の設定 .....	203
受信者アドレスの追加および削除 .....	204
複数メールアドレスへのメール転送の無効化 .....	205
メールフォワーダの削除 .....	205

自動応答の設定 .....	206
自動応答の無効化 .....	208
存在しないユーザ宛メールの処理に対するサイト単位のプリファレンス（メール転送） .....	209
複数のメールアドレスへの類似変更の同時処理の導入 .....	210
メーリングリストの保守 .....	211
メーリングリストの設定 .....	212
ユーザの登録および登録解除 .....	213
メーリングリストへの投稿 .....	213
メーリングリストの削除 .....	214

---

## 統計の表示 215

WebalizerによるWeb統計表示のプリファレンスの調整 .....	217
自分のサイトおよび他のサイトからの内部参照の表示および非表示 .....	218
他のサイトからの参照のグループ化とグループ解除 .....	219
ダイレクトリクエストの表示と非表示 .....	220
レポート生成とメールによる配信の自動化 .....	221
ログファイルの表示およびログファイルの再利用の設定 .....	223

---

## データのバックアップと復元 224

FTPリポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定 .....	225
ドメインを含むアカウントのバックアップ .....	226
個別ドメイン（Webサイト）のバックアップ .....	227
データベースのバックアップ（Windowsホスティング） .....	228
バックアップのスケジューリング .....	229
バックアップアーカイブからのデータの復元 .....	230
データベースの復元 .....	231
孤立したデータベースユーザの回復 .....	232
バックアップファイルリポジトリの維持 .....	233
バックアップファイルのサーバへのアップロード .....	233
サーバからのバックアップファイルのダウンロード .....	234
サーバからのバックアップファイルの削除 .....	234
データベースのバックアップファイルリポジトリの維持（Windowsホスティング） .....	235
サーバへデータベースのバックアップファイルのアップロード .....	236
サーバからデータベースのバックアップファイルのダウンロード .....	237
サーバからデータベースのバックアップファイルの削除 .....	237

---

## タスクのスケジューリング 238

タスクのスケジューリング（Linuxホスティング） .....	239
タスクのスケジューリング（Windowsホスティング） .....	241
タスク実行の中断および再開 .....	242
タスクのキャンセル .....	243

---

## コントロールパネルへの接続とFTPサービスのモニター 244

コントロールパネルへの接続のモニタリング .....	244
FTPサービスへの接続のモニタリング .....	245
リモートデスクトップ（Windowsホスティング）経由でサーバにアクセス .....	247

<b>ヘルプデスクを使用した顧客の問題解決およびプロバイダへのサポート要求</b>	<b>249</b>
ヘルプデスクでのトラブルチケットの表示 .....	250
サービスプロバイダへの問題レポートの提出 .....	251
トラブルチケットへのコメントおよびクローズ .....	251

# 序文

## このセクションの内容:

表記規則.....	8
フィードバック.....	9

---

## 表記規則

特殊な意味を持つ箇所は、以下のフォントで区別しています。

フォント	意味	例
特殊太字	メニューオプション、コマンドボタン、リスト内の項目など、選択する必要のある項目。	[QoS] タブに進みます。
	章、セクション、サブセクションのタイトル。	「 <b>基本管理</b> 」の章をご参照ください。
斜体	初出用語または実際の名前や値に置き換えられるコマンドラインのプレースホルダーの指定などの、重要な箇所を強調。	システムはいわゆる <i>ワイルドカード</i> 文字検索に対応しています。
固定幅	スタイルシートセレクタの名前、ファイルおよびディレクトリ、CSS フラグメント。	ライセンスファイルは <code>license.key</code> と呼ばれています。



書式設定済み太字	入力した文字をコンピュータ画面上の出力と区別。	Unix/Linux: <code># cd /root/rpms/php</code> Windows: <code>&gt;cd %myfolder%</code>
書式設定済み	コマンドラインセッションでのコンピュータ画面上への出力、XML や C++ やその他のプログラミング言語のソースコード。	Unix/Linux: <code># ls -al /files</code> total 14470 Windows: <code>&gt;ping localhost</code> Reply from 127.0.0.1: bytes=32 time<1ms TTL=128

---

## フィードバック

当ガイドの表記ミスを見つけた場合や、当ガイドをより良いものにするアイデアがある方は、[sales@parallels.co.jp](mailto:sales@parallels.co.jp)宛てにお知らせいただければ幸いです。間違いを見つけた場合は、章、セクション、サブセクション名や該当部分の文章を提示して問題を特定しやすいようにしていただきますようお願い致します。

## 第 1 章

# はじめに

Parallels Plesk Panel は、ウェブサイトのホスティングおよび管理に使用するプログラムです。

ドメイン名やウェブサイトを自分で管理したり、個々のドメインを他のユーザが管理できるように権限を委託することができます。委託の際には個別のドメイン管理者コントロールパネルが自動的に作成され、定義した権限に応じてサイトおよびメール管理の機能がユーザに提供されます。

ドメイン管理者コントロールパネルを使用して、サイト所有者は以下の操作を実行できます。

- FTP 経由のコントロールパネルへのアクセスやウェブスペースに対するパスワードの変更
- ウェブサイトの発行および閲覧
- データベースおよびウェブアプリケーションのインストール、管理、削除
- オンライン取引保護のため SSL 証明書の注文およびインストール (他のウェブサイトと共有でない、専用 IP アドレスでホストされたウェブサイトにのみ可能)
- サブドメインの設定、管理、削除
- 他のユーザのパーソナルウェブページのホスティング
- ウェブサイトのパスワード保護
- ウェブサーバのエラーメッセージのカスタマイズ
- ウェブサイトをデータベースおよびアプリケーションごとバックアップおよびリストア
- 自動バックアップのスケジューリング
- メールボックスの作成、編集、削除、およびスパムやウイルスからの保護
- メールボックス所有者に対する個々のメール管理パネルへのアクセス許可 (メールホスティング業務を行ったり、他のユーザのメールボックスを作成するときなどに)
- メールフォワーダの作成、編集、削除、および自動応答
- メールリングリストの作成、編集、削除、ユーザの登録および登録解除

上記の機能へはご自分のコントロールパネルからアクセスできますので、ドメイン管理者コントロールパネルやメール管理者コントロールパネルを使用する必要はありません。

ドメイン管理者コントロールパネルについての詳細は(ドメイン管理者ガイド)をご覧ください。

## この章の内容:

Parallels Plesk Panel にログインする .....	11
Parallels Plesk Panel に慣れる .....	13
連絡先情報およびパスワードの変更 .....	17

---

# Parallels Plesk Panel にログインする

➤ **Parallels Plesk Panel にログインするには、以下を実行してください。**

1. Webブラウザを開き、アドレスバーにParallels Plesk Panelの配置されているURLを入力します。  
例えば<https://your-domain.com:8443>では、your-domain.comの部分がWebホストのドメイン名となります。
2. ENTERキーを押します。Parallels Plesk Panelログイン画面が開きます。
3. [ログイン] ボックスと [パスワード] ボックスに、プロバイダーから与えられたログイン名とパスワードをそれぞれ入力します。
4. 初めてログインする場合、コントロールパネルで使用する言語を [インターフェイス言語] ドロップダウンボックスで選択します。以前にインターフェイス言語を指定し、それをインターフェイスのプリファレンスに保存している場合は、 [ユーザデフォルト] を選択したままにします。
5. [ログイン] をクリックします。

## このセクションの内容:

パスワードを忘れた場合 .....	12
-------------------	----

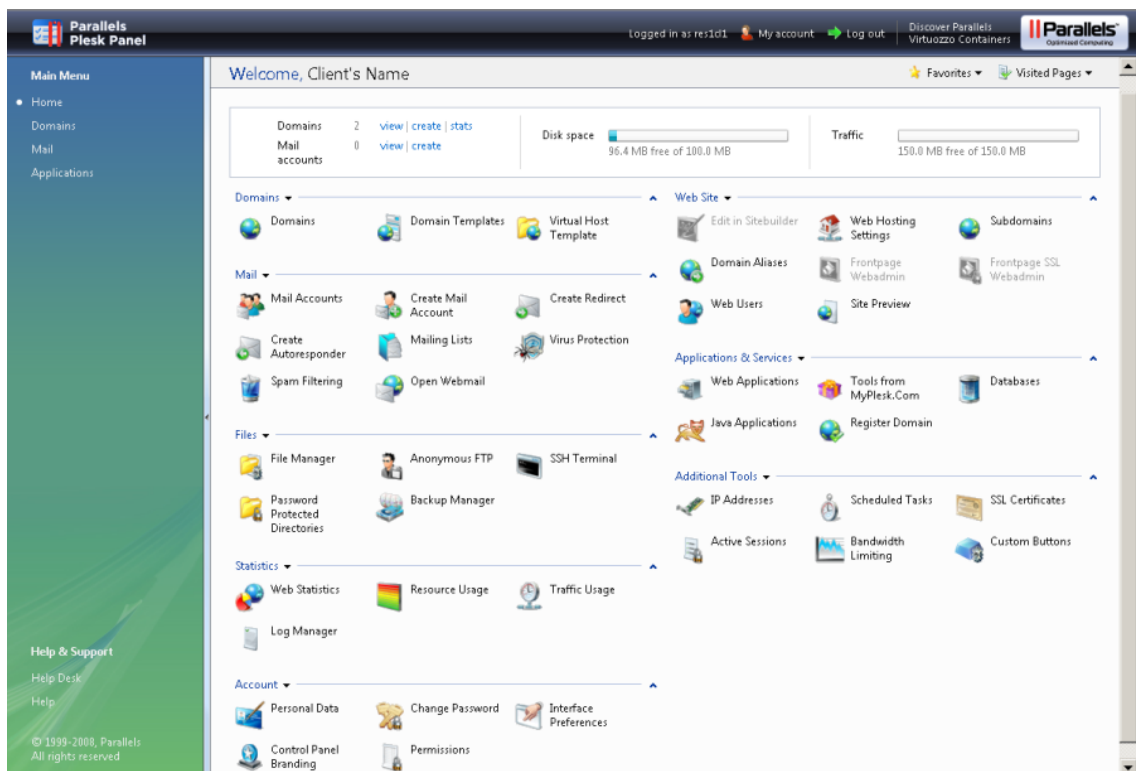
## パスワードを忘れた場合

➤ **忘れたパスワードを復元するには以下を実行してください。**

1. WebブラウザのアドレスバーにParallels Plesk Panelが配置されているURL (例 : <https://your.domain.com:8443>) **を入力します**。
2. ENTERを押します。  
Parallels Plesk Panel ログイン画面が開きます。
3. **[パスワードを忘れましたか?]** リンクをクリックします。
4. ログイン名を **[ログイン]** ボックスに、システムに登録されているメールアドレスを **[メールアドレス]** ボックスにそれぞれ入力します。
5. **[OK]** をクリックします。  
パスワードがメールアドレスに送られます。

## Parallels Plesk Panel に慣れる

Parallels Plesk Panel にログインすると、よく実行する操作へのショートカットがホームページに表示されます。



トップバナーエリアから、以下の機能へアクセスできます。

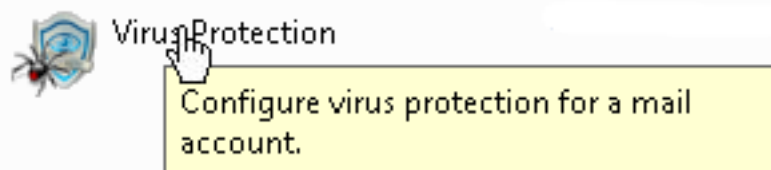
- **マイアカウント。** ここでコントロールパネルの言語およびテーマの選択や、連絡先情報の変更を行います。
- **ユーザ切替。** ここでユーザアカウントのユーザ切替を行います。このショートカットは、単一サインオンテクノロジーがサーバ上で使用可能な場合に限り表示されます。
- **ログアウト。** コントロールパネルでの作業が終了したら、ここでセッションを閉じます。

左側のナビゲーションペインは、以下の一連の機能へのアクセスを提供します。

- **ホーム。** ここでコントロールパネルの作業を開始します。実行する必要がある操作のほとんどは、このエリアからアクセスできます。
- **ドメイン。** ここでウェブサイトの操作を行います。コントロールパネルのこのエリアから、以下のタスクを実行できます。
  - ウェブサイトの追加（DNSのセットアップ、ホスティング設定の実行、リソース使用量制限の設定）、ホスティング設定の変更、ウェブサイトの削除

- ウェブサイトホスティングテンプレート（ドメインテンプレートとも呼ばれます）の作成、変更、削除
- **メール。** ここでメールアカウントの操作を行います。コントロールパネルのこのエリアから、以下のタスクを実行できます。
  - メールボックスのセットアップと管理。
  - メーリングリスト、自動応答、メール転送をセットアップします。
- **アプリケーション。** ウェブサイトのアプリケーションを表示およびインストールできます。
- **グローバルアカウント。** このショートカットは、ホスティングサーバでシングルサインオン機能がオンになったときに Parallels Plesk Panel に表示されます。シングルサインオン技術によって、1つのグローバルログイン名およびパスワードで様々な Parallels 製品にログインできます。このショートカットを使用して、グローバルログイン設定を変更します。
- **ヘルプデスク。** コントロールパネルと統合されたヘルプデスクシステムです。ナビゲーションペインにこのショートカットが表示された場合は、プロバイダがそれを使用していると思われるので、それを使用してプロバイダのテクニカルサポート担当に問題の報告ができます。プロバイダがビルトインのヘルプデスクを使用していない場合は、Panel にこのリンクが表示されません。その場合は、他の方法でプロバイダにお問い合わせください。
- **ヘルプ。** コンテキストヘルプを提供します。

ツールまたはページ上の項目の詳細を見るには、項目の上にカーソルをクリックせずに置くと、その項目の補足情報が記載された小さなボックスが表示されます。

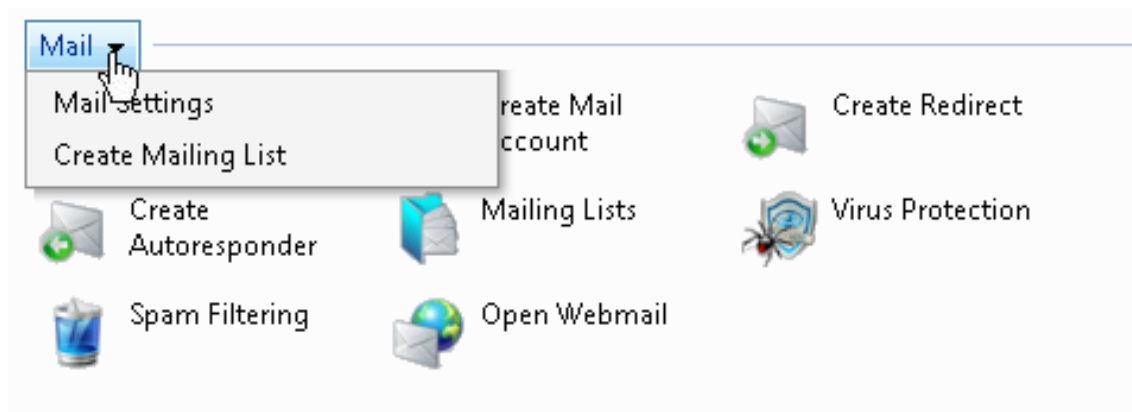


ホスティングプランに、Parallels Plesk Sitebuilder によるウェブサイトの作成および管理サービスが含まれている場合、以下のショートカットもコントロールパネルのナビゲーションペインで【Sitebuilder 管理者】グループの下に表示されます。

- **ホームページ。** タスク指向のウィザードへのショートカットが提供されます。ここから、Sitebuilder システム経由でアカウントおよびウェブサイト上のあらゆる操作を実行できます。詳細は [http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja\\_JP/html/using\\_desktop\\_interface.htm](http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/using_desktop_interface.htm) をご覧ください。
- **ユーザ。** ここで顧客のユーザアカウントおよびサービスプランを追加および管理できます。詳細は [http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja\\_JP/html/signing\\_up\\_customers.htm](http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/signing_up_customers.htm) をご覧ください。
- **サイト。** ここでサイトを追加および管理できます。詳細は [http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja\\_JP/html/managing\\_sites.htm](http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/managing_sites.htm) をご覧ください。

- **サーバ。** ここで以下のシステム設定を表示および管理できます。
  - **トライアルサイト設定。** ここで、見込み客が作成したトライアルサイトの設定を行うことができます。詳細は [http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja\\_JP/html/setting\\_up\\_sitebuilder\\_wizard\\_for\\_anonymous\\_visits.htm](http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/setting_up_sitebuilder_wizard_for_anonymous_visits.htm) をご覧ください。
  - **ブランディング。** ここで、見込み客のロゴおよびタイトル設定を行うことができます。詳細は [http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja\\_JP/html/setting\\_up\\_logo\\_and\\_title\\_bar\\_text.htm](http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/setting_up_logo_and_title_bar_text.htm) をご覧ください。
  - **通知。** ここで、Sitebuilder からユーザに送信される通知の設定を行うことができます。詳細は [http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja\\_JP/html/configuring\\_email\\_message\\_sent\\_at\\_trial\\_site\\_publishing\\_attempt.htm](http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/configuring_email_message_sent_at_trial_site_publishing_attempt.htm) をご覧ください。
  - **モジュール。** ここで使用可能なモジュール一覧を参照できます。詳細は [http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja\\_JP/html/viewing\\_and\\_configuring\\_sitebuilder\\_wizard\\_presets\\_and\\_modules.htm](http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/viewing_and_configuring_sitebuilder_wizard_presets_and_modules.htm) をご覧ください。
  - **ページセット。** ここで使用可能なページセット一覧を参照できます。詳細は [http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja\\_JP/html/viewing\\_and\\_configuring\\_sitebuilder\\_wizard\\_presets\\_and\\_modules.htm](http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/viewing_and_configuring_sitebuilder_wizard_presets_and_modules.htm) をご覧ください。
  - **サイトファミリー。** ここで、デザインテンプレートおよびページセットを結合する使用可能なテンプレート一覧を参照できます。詳細は [http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja\\_JP/html/viewing\\_and\\_configuring\\_sitebuilder\\_wizard\\_presets\\_and\\_modules.htm](http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/viewing_and_configuring_sitebuilder_wizard_presets_and_modules.htm) をご覧ください。

右側のメイン作業エリアで、ナビゲーションペインで選択したコントロールパネルの現行セクションで使用可能なツールへアクセスできます。追加操作は、グループタイトルをクリックすると表示されるドロップダウンメニューからアクセスできます。



Parallels Plesk Panel のナビゲートにはパスバーを使用できます。画面右側のバナーエリアの下に一連のリンクが表示されます。

Home ▶ Domains ▶ example.com ▶ Mail Accounts ▶

パスバーの右側に、【お気に入り】および【訪問ページ】メニューがあります。【訪問ページ】メニューは、最近訪問したコントロールパネル画面へのショートカットを保存します。これらのショートカットは自動的に追加されます。【お気に入り】メニューは、手作業でお気に入りに追加した画面へのショートカットを保存します。【お気に入り】メニューのショートカットで作業する詳細については、「ホームページのカスタマイズ」(23 ページ)のセクションをご覧ください。

前の画面に戻るには、パスバーのショートカットを使用するか、画面右上の上位レベルアイコンを使用します。

ユーザアカウント、ドメイン名、またはメールアカウントの設定を変更する場合は、設定を変更する別のユーザアカウント、ドメイン名、またはメールアカウントも選択できます。それには、ユーザ名、ドメイン名、またはメールアドレスの右側の小さな矢印アイコンをクリックします。



すると、選択可能なユーザアカウント、ドメイン名、またはメールアカウントのリストが開きます。



特定のパラメータでリストを昇順または降順に並べ替えるには、カラムのヘッダ一部分のパラメータ名をクリックします。パラメータタイトルの隣の小さな三角印は並び順を表します。



---

## 連絡先情報およびパスワードの変更

➤ **連絡先情報を更新もしくはパスワードを変更するには、以下の操作を実行します。**

1. ホームページで [個人データ] をクリックします。
2. 必要に応じて情報を更新もしくは新しいパスワードをパスワードを入力して、 [OK] をクリックします。

➤ **パスワードを忘れた場合は、以下を実行してください。**

1. Webブラウザのアドレスバーに、Parallels Plesk Panelの配置されているURLを入力します。
2. 例えば、<https://your-server.com:8443>となります。
3. ENTERを押します。 Parallels Plesk Panelログイン画面が開きます。
4. [パスワードを忘れましたか?] リンクをクリックします。
5. ログイン名を [ログイン] ボックスに、システムに登録されているメールアドレスを [メールアドレス] ボックスにそれぞれ入力し [OK] をクリックします。

パスワードがメールアドレスに送られます。

# グローバルアカウントの設定

グローバルアカウントはシングルサインオン (SSO) テクノロジー機能であり、1つのグローバルログイン名およびパスワードを用いて、様々な Parallels 製品にログインできます。Parallels Plesk Panel に複数のアカウントをお持ちの場合、それらをすべてグローバルアカウントに接続して、それらのアカウントを毎回パスワードを入力せずに切り替えることができます。他の Parallels 製品のアカウントをグローバルアカウントに接続して、それらのアカウントを証明書を入力せずに切り替えることもできます。

## この章の内容:

グローバルアカウントの作成.....	18
ローカルアカウントをグローバルアカウントに接続.....	19
アカウントの切り替え .....	20
グローバルアカウントパスワードの変更 .....	20
グローバルアカウントからローカルアカウントを接続解除.....	21

---

## グローバルアカウントの作成

グローバルアカウントを作成してそれにローカルアカウントを接続すると、グローバルアカウントでログインした場合はグローバルアカウントに接続しているどのアカウントも選択できます。

➤ **グローバルアカウントを作成するには以下を実行してください。**

1. Parallels Plesk Panel にログインして [グローバルアカウント] に進み、  
[グローバルアカウントに接続する] をクリックします。
2. [新しいグローバルアカウントの作成] を選択して、グローバルアカウントのログイン名とパスワードを入力します。
3. [OK] をクリックします。

グローバルアカウントがアクティブになりましたので、そこに他のアカウントを接続することができます。詳細は「ローカルアカウントをグローバルアカウントに接続」(19 ページ)のセクションをご覧ください。

---

## ローカルアカウントをグローバルアカウントに接続

➤ **ローカル Parallels Plesk Panel アカウントをグローバルアカウントに接続するには、以下を実行してください。**

1. 接続するローカルアカウントでParallels Plesk Panelにログインします。
2. [グローバルアカウント]に進んで[グローバルアカウントに接続する]をクリックします。
3. [既存のグローバルアカウントを利用する]オプションが選択されていることを確認し、接続するグローバルアカウントのログイン名およびパスワードを入力します。
4. [OK] をクリックします。

必要に応じて他のローカルアカウントについてもステップ 1 から 4 を繰り返します。

➤ **SSO 対応の他の製品のアカウントをグローバルアカウントに接続するには、以下を実行してください。**

1. 接続するアカウントで、SSO対応のソフトウェア製品にログインします。
2. 各ソフトウェア製品の説明書の記述に従って、グローバルアカウントに接続します。既存のグローバルアカウントの資格情報を提供できるようにご用意ください。

必要に応じて他のアカウントまたは製品についてもステップ 1 から 2 を繰り返します。

---

注：ソフトウェア製品によっては、グローバルアカウント機能の名称が異なる場合があります（Federated ID、グローバルログイン、など）。詳細は各ソフトウェア製品の説明書をご覧ください。

---

必要なアカウントをすべてグローバルアカウントに接続したら、グローバルアカウントに接続しているローカルアカウントがあるあらゆる製品において、グローバルアカウントでいつでもログインできます。グローバルアカウントでログインするたびに、そこに接続しているローカルアカウント一覧が表示されるので、その時に使用するアカウントを選択できます。いつでも好きなときに他のアカウントへ切り替えることができます。詳細は「アカウントの切り替え」のセクションをご覧ください。

---

## アカウントの切り替え

➤ **他のアカウントに切り替えるには以下を実行してください。**

1. 右上隅の【ユーザ切替】をクリックします。
2. 切り替え先のアカウントを選択します。
  - グローバルアカウントに接続しているアカウント一覧から、所要のローカルアカウントを選択します。  
または
  - 【他のアカウントのクレデンシャルを指定する】を選択して、グローバルアカウントに接続していないローカルアカウントのログイン名とパスワードを入力します。【インターフェース言語】メニューからコントロールパネルの言語を指定することもできます。以前にそのアカウントのインターフェース言語を指定し、それをインターフェースのプリファレンスに保存している場合は、【デフォルト】を選択したままにします。
3. 【OK】をクリックします。

---

## グローバルアカウントパスワードの変更

➤ **グローバルアカウントのパスワードを変更するには、以下を実行してください。**

1. グローバルアカウントまたはそこに接続しているローカルアカウントで Parallels Plesk Panel にログインします。
2. 【グローバルアカウント】に進んで【パスワードを変更する】をクリックします。
3. 今までのパスワードと新しいパスワードを入力して【OK】をクリックします。

---

## グローバルアカウントからローカルアカウントを接続解除

➤ **グローバルアカウントからローカルアカウントの接続を解除するには、以下を実行してください。**

1. 接続を解除するローカルアカウントでParallels Plesk Panelにログインします。
2. [グローバルアカウント]に進んで[グローバルアカウントより接続解除する]をクリックします。
3. 接続解除を確認して [OK] をクリックします。

必要に応じて他のローカルアカウントについてもステップ 1 から 3 を繰り返します。

## 第 3 章

# コントロールパネルのカスタマイズ

### この章の内容:

ホームページのカスタマイズ .....	23
ドメイン管理者アカウントのホームページのカスタマイズ .....	24
コントロールパネルのインターフェース言語とスキンの設定 .....	25
カスタムロゴの設定 .....	26
ハイパーリンクボタンの追加および削除 .....	27

---

## ホームページのカスタマイズ

➤ **ホームページから項目を追加または削除するには以下を実行します。**

1. [ホーム] > [アカウント] グループタイトルメニュー > [ホームページのカスタマイズ] に進みます。
2. 該当項目のチェックボックスを選択して、ホームページに表示されるサーバ情報および統計を指定します。
3. ホームページに表示するアクションを指定します。 [選択したアクション] リストはどのショートカットが既にホームページに配置されているを示します。 [利用可能なアクション] リストはホームページにまだショートカットが配置されていないタスクを示します。
  - ホームページにショートカットを追加するには、[利用可能なアクション] リストで必要なタスクを選択し [追加>>] をクリックします。
  - ホームページからショートカットを削除するには、[選択したアクション] リストから必要のないタスクを選択し [<<削除] をクリックします。
4. 該当のチェックボックスを選択して、ホームページのドロップダウンメニューに表示されるアクションを指定します。
5. [OK] をクリックします。

➤ **ホームページの [お気に入り] メニューにコントロールパネル画面へのショートカットを追加するには、以下を実行します。**

1. 必要なコントロールパネル画面に進みます。
2. [お気に入り] メニューで、[お気に入りに追加] を選択します。

➤ **ホームページの [お気に入り] メニューのショートカットの説明を変更するには、以下を実行してください。**

1. ホームページで [お気に入り] メニューを開きます。
2. ショートカットの上にマウスポインタを置いて、[お気に入りを編集] をクリックします。
3. ショートカットのタイトルと説明を入力して [保存] をクリックします。

- **[お気に入り] メニューからショートカットを削除するには、以下を実行してください。**
1. ホームページで [お気に入り] メニューを開きます。
  2. 削除するショートカットの上にマウスポインタを置いて、[お気に入りから削除] をクリックします。

---

## ドメイン管理者アカウントのホームページのカスタマイズ

- **ドメイン所有者のホームページをカスタマイズするには、以下を実行してください。**
1. [ホーム] > [ドメイン] > [ドメイン] グループタイトルメニュー > [ホームページのカスタマイズ] に進みます。
  2. 該当項目のチェックボックスを選択して、ホームページに表示されるドメイン情報および統計を指定します。
  3. ホームページに表示するアクションを指定します。 [選択したアクション] リストはどのショートカットが既にホームページに配置されているを示します。 [利用可能なアクション] リストはホームページにまだショートカットが配置されていないタスクを示します。
    - ホームページにショートカットを追加するには、[利用可能なアクション] リストで必要なタスクを選択し [追加>>] をクリックします。
    - ホームページからショートカットを削除するには、[選択したアクション] リストから必要のないタスクを選択し [<<削除] をクリックします。
  4. 該当のチェックボックスを選択して、ホームページのドロップダウンメニューに表示されるアクションを指定します。
  5. [OK] をクリックします。



---

## コントロールパネルのインターフェース言語とスキンの設定

➤ コントロールパネルのインターフェース言語とテーマ (スキン) を選択するには以下の操作を実行してください。

1. ホームページで [インターフェースプリファレンス] をクリックします。
2. 希望のインターフェース言語およびスキンをそれぞれのメニューから選択します。

Parallels Plesk Panel のインターフェースは多くの言語に翻訳されていますので、ご希望の言語がリストにない場合はそのランゲージパックをインストールをプロバイダーにご依頼ください。

3. [OK] をクリックします。

## カスタムロゴの設定

➤ **Parallels Plesk Panel にカスタムロゴイメージを設定するには、以下を実行してください。**

1. ホームページで [アカウント] グループタイトルメニューを開き、[コントロールパネルブランディング] を選択します。
2. [参照...] をクリックして、ご自分のローカルコンピュータ上にある設定したいイメージへ進みます。  
イメージは高さ 50 ピクセルで、GIF または JPEG または PNG 形式であり、ダウンロード時間を最小限にするため 100 キロバイト以下であることが推奨です。
3. ロゴイメージにハイパーリンクを添付するには、その URL を [ロゴの URL を入力] ボックスに入力してください。
4. [OK] をクリックして送信します。

➤ **Parallels Plesk Panel のロゴイメージに戻すには以下を実行します。**

1. ホームページで [アカウント] グループタイトルメニューを開き、[コントロールパネルブランディング] を選択します。
2. [デフォルトロゴ] をクリックします。

---

## ハイパーリンクボタンの追加および削除

- *Parallels Plesk Panel* にカスタムハイパーリンクボタンの追加して、顧客が自分のコントロールパネルからそれを見ることができるかどうかを指定するには、以下を実行します。
1. [ホーム] > [カスタムボタン] に進んで [カスタムボタンの作成] をクリックします。
  2. 以下を実行してボタンのプロパティを指定します。
    - [ボタンラベル] フィールドに、ボタンに表示されるテキストを入力します。
    - ボタンの配置場所を選択します。ホームページの右フレームに貼付するには[ロケーション] ドロップダウンボックスから [クライアントホームページ] 値を選択します。各ドメイン管理画面（[ドメイン] > ドメイン名）に貼付するには、[ドメイン管理ページ] 値を選択します。ホームページの左フレーム（ナビゲーションペイン）に貼付するにはナビゲーションペインの値を選択します。
    - ボタンの優先度を指定します。Parallels Plesk Panel は定義した優先度に従ってコントロールパネル上のカスタムボタンを配置します。数字が小さいほど優先度が高くなります。ボタンは左から右へ並べられます。
    - ボタン背景に画像を使用するには、その画像の保存場所へのパスを入力するか、[参照] をクリックしてそのファイルを参照します。ナビゲーションペインに配置するボタンの画像は 16 x 16 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを、メインフレームに配置するボタンの画像には 32 x 32 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを使用するようお奨めします。
    - [URL] ボックスにボタンに付加するハイパーリンクを入力します。
    - チェックボックスを使用し、URL にドメイン名、FTP ログイン、FTP パスワード、他の転送するデータを含めるかどうか指定します。これらの情報は外部の Web アプリケーションで使用できます。
    - [マウスオーバーヘルプ] 入力フィールドには、ユーザがマウスをボタンの上にのせた際に表示されるテキストを入力します。
    - 指定した URL をコントロールパネルの右側のフレームで開きたい場合は、[コントロールパネル内にて開く URL] チェックボックスをチェックしてください。このチェックボックスをチェックしないと、URL は別の新しいウィンドウで開くことになります。
    - このボタンをコントロールパネルにアクセスしているメールボックスユーザからも見えるようにするには、[他のユーザに表示します] チェックボックスをチェックします。

3. 作成を完了したら [OK] をクリックします。

➤ **Parallels Plesk Panel からハイパーリンクボタンを削除するには、以下を実行します。**

1. [ホーム] > [カスタムボタン] に進みます。
2. 削除するボタンに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。

## 第 4 章

# ホスティングパッケージに含まれる リソース割り当てとホスティング機能の表示



### この章の内容:

ホスティングパッケージに含まれる IP アドレスの表示.....	30
アカウントのリソース割り当ての表示.....	31
コントロールパネルで実行できる操作の一覧表示.....	33
勘定残高の表示.....	34

---

## ホスティングパッケージに含まれる IP アドレスの表示

ホスティングパッケージに含まれている IP アドレスを表示するには、[ホーム] > [拡張ツール] グループタイトルメニュー > [IP アドレス] に進みます。IP アドレスがリストと以下の補足情報が表示されます。


- IP アドレスがネットワークインターフェースで正しく設定されている場合、[S] (ステータス) 列のアイコンに  が表示されます。IP アドレスがプロバイダによってネットワークインターフェースから削除されると、アイコンは  を表示します。
- [証明書] の列はどのドメイン名のどの SSL 証明書が IP アドレスに関連しているのかを表します。詳細は「Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化 による E-コマーストランザクションの保護」(103 ページ)のセクションをご参照ください。
- [FTP over SSL] の列は、この IP 上でホスティングしているドメインでセキュアな FTP 接続 (SSL 経由の FTP) の使用が可能かどうかを表します。専用 IP アドレスで SSL 経由の FTP を有効にするには、[FTP over SSL] の列で必要な IP アドレスに対応するチェックボックスを選択します。
- [ホスティング] の列は IP アドレスがホストするウェブサイトの数を表示します。そのウェブサイトのドメイン名を表示するには [ホスティング] 列内の数をクリックしてください。

---

注: 同じ専用 IP アドレスで複数のウェブサイトをホスティングしている場合は、訪問者がドメイン名ではなく IP アドレスを入力した場合に表示されるサイトを選択することができます。Panel はその IP アドレスで最初に作成したウェブサイトを自動的にデフォルトウェブサイトにしませんが、他のウェブサイトを選擇してそれをデフォルトにすることもできます。

---

### ➤ 専用 IP アドレスのデフォルトウェブサイト(デフォルトドメイン)を指定するには、以下を実行してください。

1. [ホーム] > [IP アドレス] ( [拡張ツール] グループ内) に進んで、IP アドレスをクリックします。この IP アドレスでホスティングされるすべてのサイトが一覧表示されます。
2. 必要なサイトを選択し、 [デフォルトとして選択] をクリックします。

## アカウントのリソース割り当ての表示

アカウントのリソース割り当てを表示するには、ホームページで [リソース使用量] をクリックしてください。リソース割り当てが以下のように表示されます。

- **最大ドメイン数。** サーバ上でホストできるドメイン数および Web サイトの総数です。このサーバでホストする Web サイト、および、他のサーバでホストされている Web サイトを示すドメインフォワーダが含まれます。ドメインエイリアス（このサーバでホストされるサイトの追加ドメイン名）はこのリソースタイプでは制限されません。
- **最大サブドメイン数。** サイトでホスト可能なサブドメインの総数です。
- **最大ドメインエイリアス数。** サイトで使用できる追加の代替ドメイン名の総数です。
- **ディスク容量。** Web サイトや顧客のサイトで占有できるディスク容量の総量をメガバイトで表示します。全てのドメインおよび Web サイトに関連する全てのファイルが占有するディスク容量が含まれます。Web サイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。いわゆるソフトクォータです。これを超過すると、ドメイン名および Web サイトは自動的に中断されず、適切な通知が自分とプロバイダのメールアドレスに送信されます。
- **トラフィックの上限量。** 一ヶ月間に Web サイトから転送可能なデータの総量です。制限値に達すると、適切な通知が自分と自分のプロバイダのメールアドレスに送信されます。
- **Web ユーザの上限数。** ご自身や顧客が他のユーザにホストできるパーソナル Web ページの総数です。このサービスはおもに、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページの Web アドレスは通常 <http://your-domain.com/~username> となります。詳細は「Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング」セクションを参照してください。
- **データベースの上限数。** サイトでホスト可能なデータベースの総数です。
- **最大メールボックス数。** サイトでホスト可能なメールボックスの総数です。
- **メールボックスクォータ。** メールメッセージおよび自動応答の添付ファイルを格納するための各メールボックスに割り当て可能なディスク容量の制限値（キロバイト）です。
- **最大メールフォワーダ数。** サーバで設定可能なメールメールフォワーダの総数です。
- **最大メール自動応答数。** サーバで設定可能なメール自動応答の総数です。
- **最大メールリングリスト数。** サイトでホスト可能なメールリングリストの総数です。メールリングリストは、オプションでサーバにインストールされた GNU Mailman ソフトウェアにより提供されます。使用したいにもかかわらずインストールされていない場合にはプロバイダにインストールを依頼してください。

- **最大 Java アプリケーション数。** サイトでホスト可能な Java アプリケーションまたはアプレットの総数です。
- **有効期限。** ホスティングまたは代理店アカウントの期間です。期間が終了するとドメインおよび Web サイトは中断され、その Web、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメイン所有者はコントロールパネルにログインできなくなります。



## コントロールパネルで実行できる操作の一覧表示

コントロールパネルで実行可能な操作リストを表示するには、[ホーム] > [権限] に進みます。操作権限のリストを以下に記述します。

- **ドメイン作成。** サーバで新規ドメイン（ウェブサイト）をホストできるかどうかを示します。
- **物理ホスティング管理。** ウェブサイトでホスティングアカウントを完全に管理できるかどうかを示します。No となっていれば、ウェブスペースにアクセスするための FTP パスワードの変更のみできます。
- **ホスティングパフォーマンス設定管理。** サイトの接続数および帯域幅使用量を制限できるかどうかを示します。
- **PHP セーフモード管理。** サイトの PHP セーフモードを無効にできるかどうかを示します。デフォルトでは PHP は機能上の制限からセーフモードで操作するように設定されています。PHP セーフモードについて詳細は <http://php.net/features.safe-mode> をご参照ください。ウェブアプリケーションによってはセーフモードが有効になっていると正常に動作しないことがあります。サイトのアプリケーションがセーフモードのために失敗した場合はセーフモードをオフに切り替えてください（またはプロバイダにその旨依頼してください）。それには、ホスティングアカウントプロパティで [PHP の 'safe\_mode' を有効(On)にする] チェックボックスの選択を外します（ [ドメイン] > ドメイン名 > [ウェブホスティング設定] ）。
- **サーバへのシェルアクセスの管理** サーバシェルへアクセスして他のユーザにその許可を与えることができるかどうかを示します。
- **ハードディスククォータ割り当て。** サイトに割り当てられたディスクスペースにハードディスククォータを設定できるかどうかを示します。
- **サブドメイン管理。** サブドメインを設定、変更、削除できるかどうかを示します。
- **ドメインエイリアスの管理。** ウェブサイトの代替ドメイン名を追加設定できるかどうかを示します。
- **ログローテーション管理。** サイトのログファイルのクリーンアップと再利用を調整できるかどうかを示します。
- **Anonymous FTP の管理。** 全てのユーザがログインとパスワードを入力せずにファイルをダウンロードおよびアップロードできる FTP ディレクトリを持つことができるかどうかを示します。匿名 FTP サービスを使用するためには、ウェブサイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。
- **タスクのスケジューリング。** システム内のタスクをスケジュールできるかどうかを示します。スケジューリングされたタスクは、スクリプトまたはユーティリティの予定に沿った実行に使用できます。
- **制限の調整。** ウェブサイトのリソース使用量の制限値を変更できるかどうかを示します。

- **DNS ゾーン管理。** ドメインの DNS ゾーンを管理できるかどうかを示します。
- **Java アプリケーション管理。** ウェブサイトに Java アプリケーションおよび Java アプレットをインストールできるかどうかを示します。
- **メーリングリスト管理。** GNU Mailman ソフトウェアで提供されるメーリングリストを使用できるかどうかを示します。
- **スパムフィルタ管理。** SpamAssassin ソフトウェアが提供するスパムフィルタを使用できるかどうかを示します。
- **アンチウイルス管理。** 送受信メールのフィルタ処理のために、サーバ側のアンチウイルス保護を使用できるかどうかを示します。
- **バックアップとリストア機能。** コントロールパネルの機能を使用して、顧客のサイトをバックアップおよびリストアできるかどうかを示します。定期的なバックアップおよびオンデマンドのバックアップの両方に対応しています。
- **ホームページ管理。** ホームページをカスタマイズできるかどうかを示します。
- **リモート XML インターフェースの使用機能。** ウェブサイトをカスタムアプリケーションを使用してリモートで管理できるかどうかを示します。ウェブサイトに統合されるカスタムアプリケーションの開発に XML インターフェースを使用できます。このカスタムアプリケーションは、ホスティングアカウントの設定の自動化、および顧客がサイトからホスティングサービスを購入するためのサービス設定の自動化などに使用できます。Parallels Plesk Panel の XML インターフェース (Parallels Plesk Panel API RPC とも呼ばれています) の使用法について詳細は、API RPC の説明書 (<http://www.parallels.com/ptn/documentation/ppp/>) を参照してください。
- **ホスティングパフォーマンス管理。** サイトの接続数および帯域幅使用量を制限できるかどうかを示します。
- **データベースサーバを選択可能。** デフォルトのデータベースサーバを使用するだけでなく、自分のデータベースを作成できるように、各タイプのデータベースサーバを選択可能かどうかを示します。

---

## 勘定残高の表示

請求システムの勘定残高レポートを見るには、ホームページで **【請求の詳細】** をクリックします。 **【請求の詳細】** ボタンがなければ、コントロールパネルから請求システムにアクセスできないことを意味します。

# ウェブサイトの設定の簡略化

ウェブサイトのホスティングを開始する前に、ドメインテンプレートと呼ばれるホスティング設定のプリセットを作成する必要があります。テンプレートはすべてのリソース使用量割り当てや、ホスティングアカウントの権限およびリソース制限の定義や、メール転送およびウェブ統計の保存の設定を網羅します。コントロールパネルから使用可能な、事前定義済みのドメインテンプレートがあります。それを好きなように変更して使用することも、独自のテンプレートを作成することもできます。デフォルトテンプレートは削除できません。

➤ **ドメインテンプレートを作成するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [ドメインテンプレート] > [ドメインテンプレートの作成] に進みます。

2. 以下の設定を指定します。

- **テンプレート名。** このテンプレートの名前を指定します。ウェブサイト用の新規ユーザアカウントを設定している間に、必要なテンプレートを名前で選択するように要求されます。そのため、割り当てたリソースの量を表す、意味のある名前を選択することが推奨されています。例えば、**Mail hosting, 1GB disk space, 500 mailboxes** などです。
- **存在しないユーザへのメール。** ドメイン全体のメール返信オプションを指定します。誰かがドメインに存在しないメールアドレスに対してメールメッセージを送信した場合、デフォルトでは、メールサーバはメールを受信し、処理して、このような受信者がドメイン内に存在しないと認識した後、"this address no longer accepts mail (このアドレスはメールを受け取ることができません)" という通知をつけて送信者にメールを返します。この場合、次の選択が可能です。
  - 気にいらなければデフォルトの通知を変更します（**[拒否]** または **[メッセージつきで拒否します]** オプションを選択したままで、別のメッセージを入力ボックスに入力します）。
  - 不達メールを他のメールアドレスに転送します（**[アドレスに転送]** オプションを選択し、必要なメールアドレスを指定します）。または、
  - そのメールを承認せずに拒否します（**[拒否]** オプションを選択します）。この設定により、多くの場合ランダムに生成されたユーザ名宛ての大量のスパムにより生じたメールサーバの負荷を減らすことができます。ただし、スパマーの側からすれば、この設定によりメールサーバのスキャンで有効なメールアドレスを検出する時間を多少短縮できます。
- **外部メールサーバへの転送**（Windows ホスティングに限り使用可能）。これが設定されていると、存在しないユーザ宛てのメールはすべて指定した外部メールサーバへ転送されます。

- **ウェブメール。** このドメイン内のメールボックスのユーザはウェブメールアプリケーションをベースにしたブラウザを通じて自身のメールを読めるようにするべきかどうかを指定して、使用するウェブメールアプリケーションを選択します。
- **サブドメイン。** このドメインの下にホストできるサブドメインの数を指定します。
- **ドメインエイリアス。** サイト所有者が自分のウェブサイトで使用可能な代替ドメイン名の追加の総数を指定します。
- **ディスク容量。** ドメインに関連しているホスティングアカウントに割り当てられるディスク空き容量の総量を指定します。この量はメガバイトで計測されず。すべてのドメインおよびウェブサイトに関連するすべてのファイルが占有するディスクの空き容量が含まれます。ウェブサイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。
- **トラフィック** 1ヶ月間にウェブサイトから転送できるデータ量をメガバイトで指定します。
- **ウェブユーザ。** ドメイン所有者が自身のドメインの下他のユーザのためにホストできる個人ウェブページ数を指定します。このサービスはおもに、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページのウェブアドレスは通常 <http://your-domain.com/~username> となります。個人ウェブページに埋め込まれたスクリプトが実行できるようにする場合は、**[ウェブユーザへのスクリプトの使用の許可]** チェックボックスも選択してください。詳細については「個人用ウェブページのホスティング」(144 ページ)のセクションをご参照ください。
- **データベース** (Linux ホスティングに限り使用可能)。1つのドメイン内でホストできるデータベースの数を指定します。
- **MySQL データベース** (Windows ホスティングに限り使用可能)。ドメインでホスティングできる MySQL データベースの上限数を指定します。
- **メールボックス。** 1つのドメイン内でホストできるメールボックスの数を指定します。
- **メールボックスクォータ。** メールメッセージおよび自動応答の添付ファイルをドメイン内の各メールボックスに格納するために割り当てるディスク容量をキロバイトで指定します。
- **メール転送。** 1つのドメイン内で使用できるメール転送の数を指定します。
- **メールグループ。** 1つのドメイン内でホストできるメールグループの数を指定します。
- **メール自動応答。** 1つのドメイン内で設定できるメール自動応答の数を指定します。
- **メーリングリスト。** ドメイン所有者が1つのドメイン内で実行可能なメーリングリストの数を指定します。メーリングリストを使用できるようにするには、**[プリファレンス]** グループの下の **[メーリングリスト]** チェックボックス内にチェックマークを入れることも必要です。

- **Java アプリケーション。** ドメイン所有者が1つのドメインにインストールできる Java アプリケーションまたはアプレットの上限数を指定します。
- **MySQL データベースクォータおよび Microsoft SQL データベースクォータ** (Windows ホスティングに限り使用可能)。 MySQL および Microsoft SQL サーバデータベースがそれぞれドメインで占有できる総ディスク容量の上限をメガバイトで指定します。
- **FrontPage アカウント** (Windows ホスティングに限り使用可能)。 ドメインに作成可能な追加の Microsoft FrontPage アカウントの上限数を指定します。
- **FTP アカウント** (Windows ベースのホスティングに限り使用可能)。 ドメインに作成可能な追加の FTP アカウントの上限数を指定します。
- **Microsoft SQL サーバデータベース** (Windows ホスティングに限り使用可能)。 ドメインでホスティングできる Microsoft SQL サーバデータベースの上限数を指定します。
- **共有 SSL リンク** (Windows ホスティングに限り使用可能)。 ドメインで使用できる共有 SSL リンクの総数を指定します。
- **ODBC 接続** (Windows ホスティングに限り使用可能)。 ドメインで使用できる ODBC 接続の総数を指定します。
- **ColdFusion DSN 接続** (Windows ホスティングに限り使用可能)。 ドメインで使用できる ColdFusion DSN 接続の総数を指定します。
- **有効期限。** ホスティングアカウントの期間を指定します。 この期間が終了すれば、ドメイン (ウェブサイト) は停止されます。 そのウェブ、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。 また、ドメイン所有者はコントロールパネルにログインできなくなります。 アカウントのホスティングは自動では更新できません。 そこで、ホストされたドメイン名やウェブサイトを元の操作に戻すために、手動でホスティングアカウントを更新しなければなりません。 ナビゲーションペインで [ドメイン] ショートカットをクリックし、必要なドメイン名をクリックし、[リソース制限] アイコンをクリックし、他の期間を [有効期限] ボックスに指定し、[OK] をクリックしてから、[中断解除] ( [ドメイン] > ドメイン名 > [中断解除] ) をクリックします。
- **ログローテーション。** ウェブサーバへの全ての接続とサーバに見つからないファイルの要求は、ログファイルに登録されます。 これらのログファイルはサーバ上で実行される統計ユーティリティで分析され、オンデマンドでグラフィカルレポートで表示されます。 ホームページ上でデバッグするためにこういった生ログファイルのコンテンツを表示する必要がある場合は、[ドメイン] > **ドメイン名** > [ログマネージャ] に進んで、必要なログファイル名をクリックします。 これらのログファイルが増大するのを防ぐために、ログファイルの自動クリーンアップと再利用を有効にする必要があります。
  - [ログローテーションをスイッチオンする]チェックボックスを選択します。
  - ログファイルを再利用する時期を指定し、
  - サーバに格納する、Parallels Plesk Panel の統計ユーティリティが処理した各ログファイルのインスタンス数を指定し、
  - 圧縮する必要があるかどうかを指定します。

- そして処理の後にメールアドレスに送信するかを指定します。
- **ウェブ・トラフィック統計の保持設定。** ウェブおよび帯域幅使用量の統計がサーバに保管される期間を月で指定します。
- **DNS。** ウェブホスト上の DNS サーバがドメイン名ゾーンのためのマスター（プライマリ）ネームサーバとして動作するか、スレーブ（セカンダリ）ネームサーバとして動作するかを指定します。セカンダリサーバがプライマリからこのゾーンファイルのコピーを取得するだけである一方で、プライマリネームサーバはローカルで提供するゾーンファイルを格納します。通常 **[マスター]** オプションが選択されたままにします。
- **物理ホスティングアカウント。** ドメイン名（DNS ゾーン設定）だけではなく、ウェブサイトもホストする場合、**[物理ホスティング]** チェックボックスを選択しホスティング機能を指定します。
  - **ハードディスククォータ。** ソフトクォータに加えて、制限に達した場合にさらに多くのファイルをウェブスペースに書き込めないようにするいわゆるハードクォータを指定できます。ファイルを書き込もうとすると、ユーザには「ディスクの空き容量不足」エラーが発生します。
  - **SSL 対応。** SSL（Secure Sockets Layer）暗号化は一般に専用 IP アドレス上で実行される e-コマースウェブサイトでのオンライントランザクションの間の機密データの転送を保護するために使用されます。暗号化プロセスに参加する SSL 認証は、通常単一の IP アドレス上の単一のドメイン名に適用されます。そこで、SSL プロテクションを必要とする各サイトは専用 IP アドレス上でホストされる必要があります。例外はサブドメインで、ここではワイルドカード認証で保護することができます。単一のアドレス（共有またはネームベースホスティング）上で異なるドメイン名を持ついくつかのウェブサイトをホストするウェブサーバ上に SSL 認証をインストールすることは技術的に可能ですが、この方法はお奨めしません。暗号化は行われますが、セキュアサイトに接続しようとする、ユーザに警告メッセージが表示されます。ウェブサイト用の SSL 暗号化を許可するには、**[SSL 対応]** チェックボックスを選択してください。
  - **SSL 認証を受けないコンテンツと同じディレクトリに、SSL 認証を受けるコンテンツを設置する**（Linux ホスティングでのみ使用可能）。デフォルトでは、ユーザが FTP アカウントを通じてサイトを公開する場合、httpsdocs ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならないウェブコンテンツおよびプレーン HTTP を経由して httpdocs ディレクトリにアクセスできるようにしなければならないウェブコンテンツをアップロードする必要があります。単一の場所（httpdocs ディレクトリ）を通じてすべてのコンテンツを公開するのに便利なように、**[SSL 認証を受けないコンテンツと同じディレクトリに、SSL 認証を受けるコンテンツを設置する]** チェックボックスを選択してください。
  - **Sitebuilder を用いてウェブサイトを作成し公開する。** これにより、サイト所有者は Sitebuilder を用いてウェブサイトを作成および管理できるようになります。

- **Microsoft FrontPage 対応。** Microsoft FrontPage は人気のあるウェブサイト開発ツールです。ユーザが Microsoft FrontPage を通じてサイトを公開したり、修正したりできるように、**[FrontPage 対応]** および **[SSL 上の FrontPage 対応]** チェックボックスを選択し、**[Microsoft FrontPage 認証]** オプションを **[有効]** に設定します。
- **動的ウェブサイトおよびサーバサイドウェブアプリケーションの開発に使用される言語のプログラミングおよびスクリプトへの対応。** 以下のどのプログラミング言語またはスクリプト言語がウェブサーバにより割り込み、実行または処理されるのかを指定します。Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Fast Common Gateway Interface (FastCGI)、Perl、Python、ColdFusion および Miva e-コマースソリューションに必要な Miva スクリプト。
- **ウェブ統計。** ドメイン (ウェブサイト) 所有者がサイトや表示したサイトのページの訪問者の人数に関する情報を表示できるようにするために、**[ウェブ統計]** メニューから統計パッケージを選択して、**[パスワードで保護されたディレクトリ /plesk-stat/webstat 経由でアクセス可能]** チェックボックスを選択します。これにより Webalizer 統計ソフトウェアがインストールされますが、このソフトウェアによりレポートが生成され、そのレポートをパスワードで保護されたディレクトリに配置されます。ドメインやウェブサイトの所有者は自分の FTP アカウントのログインとパスワードを使用して、以下の URL よりウェブ統計にアクセスできます。  
<https://your-domain.com/plesk-stat/webstat>
- **カスタムエラードキュメント。** サイトを訪れているビジターがウェブサーバが見つけれられないページを要求する場合、ウェブサーバによりエラーメッセージを伴った標準の HTML ページが生成され、表示されます。エラーページを作成してサーバ上でそのページを使用するには、**[カスタムエラードキュメント]** チェックボックスを選択します。
- **FTP ユーザの 信用情報でのサーバへ Shell アクセスする** (Linux ホスティングに限り使用可能)。これによってサイト所有者は Secure Socket Shell またはリモートデスクトップ接続を通じて信頼性を持ってウェブコンテンツをサーバにアップロードできるようになりますが、サーバへのアクセス許可はサーバセキュリティへの潜在的な脅威にもなるため、**[拒否]** オプションを選択したままにすることが推奨されています。
- **拡張書込/編集権限** (Windows ホスティングに限り使用可能)。このオプションは、サイト上のウェブアプリケーションが `httpdocs` または `httpsdocs` フォルダの `root` にあるファイルベースのデータベースを使用している場合に必要です。このオプションを選択すると、ウェブサイトセキュリティが著しく侵害される場合があることにご注意ください。

- **専用 IIS アプリケーションプールを利用**（Windows ホスティングに限り使用可能）。このオプションはサイト上のウェブアプリケーションの専用 IIS アプリケーションプールを有効にします。専用 IIS アプリケーションプールを使用すると作業者のプロセスアイソレーションモード次第でドメインウェブアプリケーションの安定性が劇的に向上します。このモードはサーバでホスティングされている各ウェブサイトがそのウェブアプリケーションを実行するために別々のプロセスプールを割り当てることができます。そのため、あるアプリケーションに異常が発生しても他のアプリケーションが停止することはありません。これは特に共有ホスティングパッケージを使用している場合に便利です。
  - **専用プールを利用**（Windows ホスティングに限り使用可能）。このオプションはドメイン上のウェブアプリケーションの専用 IIS アプリケーションプールを有効にします。専用 IIS アプリケーションプールを使用すると作業者のプロセスアイソレーションモード次第でドメインウェブアプリケーションの安定性が劇的に向上します。このモードはサーバでホスティングされている各ウェブサイトがそのウェブアプリケーションを実行するために別々のプロセスプールを割り当てることができます。そのため、あるアプリケーションに異常が発生しても他のアプリケーションが停止することはありません。これは特に共有ホスティングパッケージを使用している場合に便利です。
  - **最大 CPU 利用率**（Windows ホスティングに限り使用可能）。ドメインの IIS アプリケーションプールが使用できる CPU リソースの量を制限するには、**【無制限】** チェックボックスを外してパーセント単位の数を入力します。
  - **パフォーマンス**。ドメインに様々なパフォーマンス制限を設定して、リソース超過をもたらす帯域幅の過剰な使用を防ぐことができます。
    - **最大帯域幅使用率**。ドメインがその接続間で共有できるスピード（キロバイト/秒）を制限するには、**【無制限】** チェックボックスを外してキロバイト単位の数を入力します。
    - **接続の制限**。ドメインへの同時接続の数を制限するには、**【無制限】** チェックボックスを外して数を入力します。
3. **[OK]** をクリックして、テンプレートの作成を終了します。

新規ドメイン（ウェブサイト）のホスティングアカウントの設定中に、要求されたテンプレートを選択します。そうすれば、ホスティングアカウントが作成され、定義したリソースとホスティングサービスが割り当てられます。

➤ **新規に作成したウェブサイトホスティングアカウントに適応されるドメインテンプレートについての変更を反映させるには以下を実行します。**

1. **[ホーム]** > **[ドメインテンプレート]** に進みます。
2. 更新するドメインテンプレートに対応するテンプレート名をクリックします。
3. 必要に応じて設定を修正し **[OK]** をクリックします。



テンプレートの修正は既存のドメインおよびウェブサイトには影響を及ぼさないという点に注意してください。

- **不要になったテンプレートを削除するには、以下を実行してください。**
1. [ホーム] > [ドメインテンプレート] に進みます。
  2. 不要になったテンプレート名に対応するチェックボックスを選択します。
  3. [削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

# Web サイトのホスティング

## この章の内容:

パッケージ済みブランドデフォルトサイトページ（仮想ホストテンプレート）	43
Web サイトのホスティングアカウントの設定	44
サイトの作成および公開	55
サイトのプレビュー	70
ASP.NET の設定（Windows ホスティング）	71
ドメインの PHP バージョンの設定（Windows ホスティング）	79
データベースの配置	80
外部データベース（Windows ホスティング）からデータにアクセス	84
Adobe ColdFusion のデータソース名の設定（Windows ホスティング）	85
アプリケーションのインストール	88
IIS アプリケーションプールの使用	97
Google ウェブサイト サービスの使用法	100
Web サイトの保護	102
サブドメインを含むサイト構造の編成	123
サイトの追加ドメイン名の設定（ドメインエイリアス）	129
仮想ディレクトリの使用	133
Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング	144
サーバへの anonymous FTP アクセスの設定	147
Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ（Linux ホスティング）	149
Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ（Windows ホスティング）	152
ドメインの DNS ゾーン設定のカスタマイズ	154
外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給	161
Web ホスティングタイプを物理的から転送へ変更	163
他のサーバにホストされているサイトのドメイン名の使用（ドメイン転送）	164
Web サイトホスティングアカウントのアップグレード	165
Web サイトの中断および中断解除	167
Web サイトの削除	168

---

# パッケージ済みブランドデフォルト サイトページ（仮想ホストテンプレ ート）

特定のファイルとディレクトリを新規にホストされる Web サイト用に作成された Web スペースに自動的に含めるようにコントロールパネルを設定できます。これは、役に立つスクリプトのセットであり、カスタムエラーメッセージであり、プレースホルダ index.html ページであり、その他ご希望のファイルである可能性があります。こういったファイルはサイトベースごとに取替え、編集、削除できます。

➤ **Web コンテンツが自動的に Web スペースに含まれるようにするよ  
うにコントロールパネルを設定するには以下の操作を実行します。**

1. ローカルファイルシステム上で、必要なディレクトリを作成します。  
httpdocs、httpsdocs、cgi-bin、anon\_ftp、error\_docs などで  
す。
2. 必要なファイルを作成したディレクトリに配置します。 Web ページを  
httpdocs および httpsdocs ディレクトリに、スクリプトを cgi-bin  
ディレクトリに、カスタムエラーメッセージを error\_docs ディレクト  
リに配置します。
3. ディレクトリおよびファイルを tgz、tar、tar.gz または zip フォーマット内  
のアーカイブファイルにパックします。  
ディレクトリはサブディレクトリではなく、必ずアーカイブファイルの root に配置  
してください。
4. Parallels Plesk Panel にログインします。
5. ホームページで [バーチャルホストテンプレート] をクリックします。
6. アーカイブファイルをローカルコンピュータに配置するために [参照]  
ボタンをクリックしてファイルを選択し、[ファイル送信] ボタンをクリ  
ックします。

➤ **Web サーバディレクトリおよびファイルの元の構造に戻すには、  
以下の操作を実行します。**

1. ホームページで [バーチャルホストテンプレート] をクリックします。
2. [デフォルト] ボタンをクリックします。

---

## Web サイトのホスティングアカウントの設定

➤ **新しいWeb サイトをホスティングするには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] に進んで、[ドメインの作成] をクリックします。
2. ドメイン名レジストラで以前登録したドメイン名を指定します。  
[www.your-domain.com](http://www.your-domain.com) のような一般的なURLでユーザがWebサイトのアクセスできるよう許可するには、[www] チェックボックスは選択したままにします。

ドメイン名の前に www エイリアスをつけたるのは無料でできますが、この場合はブラウザに入力した文字に関係なくユーザに Web サイトへのアクセスを許可することになります。そして、[www.your-domain.com](http://www.your-domain.com) と [your-domain.com](http://your-domain.com) は同じサイトをポイントします。

3. 選択先のIPアドレスが複数ある場合、[IPアドレスの割り当て] メニューから必要なアドレスを選択します。

SSL(Secure Sockets Layer)データ暗号化を実行するために、E-コマースサイトはIPアドレス（他のサイトと共有でない）が必要であることを忘れないでください。

Web サイトが設定されると、それに別の IP アドレスを割り当てることができます（複数の IP アドレスがあり、その操作を実行する権限がある場合）。サイトの IP アドレスを変更すると、新しい IP アドレスの情報が DNS システムに伝わるまでドメイン/サイトにアクセスできなくなり、ドメイン下のメールボックスに送信されたメールメッセージは届かなくなることにご注意ください。それには1日か2日かかる場合があります。

4. このクライアント向けにすでにドメインテンプレートを作成しすべてのホスティング機能とリソース利用割り当てを定義している場合（「Web サイトの設定の単純化」（参照ページ35）で説明されています）、[ドメインテンプレート設定を利用する] チェックボックスで必要なテンプレートを選択します。
5. [メール] および [DNS] チェックボックスを選択します。
6. 自分のマシンでWebサイトをホスティングするには、[Webサイトホスティング] オプションを選択します。

この操作が完了すると、コントロールパネルがこのマシンの新しいドメイン名となるドメイン名サーバを設定し、新しいWebサイトをサーバを準備します。適切なリソースレコードを持つ新しいゾーンファイルがドメイン名サーバの設定ファイルとして追加され、WebスペースがWebサーバのディレクトリ内に作成され、必要なユーザアカウントがサーバ上に作成されます。

---

注：サイトが他のマシンでホストされる場合、コントロールパネルのDNSサーバをサイトのDNSゾーンのサーバのためだけに使用するには、**[転送]** オプションを選択します。**[転送設定]** エリアに、ユーザが転送される先のURLを指定して、**[標準転送]** または **[フレーム転送]** オプションのいずれかを選択します。標準転送では、ユーザはそのサイトに転送され、実際のサイトURLがユーザのブラウザに示されます。従って、ユーザは別のURLへ転送されていることが常に分かります。フレーム転送では、ユーザはそのサイトが実際は別の場所にあることを知らずに転送されます。例えば、以下ようになります。顧客が無料の個人Webサイトをインターネットサービスプロバイダまたは無料のWebホストを利用して持っていて、そのWebサイトのアドレスが<http://www.geocities.com/~myhomepage>の場合に、顧客はセカンドレベルドメイン名[www.myname.com](http://www.myname.com)を購入し、そのWebサイトへのドメインの転送を希望したとします。このような場合では、通常**[フレーム転送]** サービスを選択します。詳細については「他のサーバにホストされているサイトのドメイン名を使用する（ドメイン転送）」（164 ページ）の章をご参照ください。

---

7. FTPおよびMicrosoft FrontPage経由でWebサイトコンテンツをアップロードする際に使用するユーザ名とパスワードを入力します。
8. **[拡張Webホスティング設定の実行]** チェックボックスを選択して **[OK]** をクリックします。
9. 以下の設定を指定します。
  - **SSL 対応。** Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化は一般に専用 IP アドレス上で実行される e-コマース Web サイトでのオンライントランザクションの間の機密データの転送を保護するために使用されます。暗号化プロセスに参加する SSL 認証は、通常単一の IP アドレス上の単一のドメイン名に適用されます。そこで、SSL プロテクションを必要とする各サイトは専用 IP アドレス上でホストされる必要があります。例外はサブドメインで、ここではワイルドカード認証で保護することができます。単一のアドレス（共有またはネームベースホスティング）上で異なるドメイン名を持ついくつかの Web サイトをホストする Web サーバ上に SSL 認証をインストールすることは技術的に可能ですが、この方法はお奨めしません。暗号化は行われますが、セキュアサイトに接続しようとする、ユーザに警告メッセージが表示されます。Web サイト用の SSL 暗号化を許可するには、**[SSL 対応]** チェックボックスを選択してください。

- **SSL 認証を受けないコンテンツと同じディレクトリに、SSL 認証を受けるコンテンツを設置する**（Linux ホスティングでのみ使用可能）。デフォルトでは、ユーザがFTPアカウントを通じてサイトを公開する場合、httpsdocs ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツおよびプレーン HTTP を経由して httpdocs ディレクトリにアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツをアップロードする必要があります。単一の場所（httpdocs ディレクトリ）を通じてすべてのコンテンツを公開するのに便利のように、**[SSL 認証を受けないコンテンツと同じディレクトリに、SSL 認証を受けるコンテンツを設置する]** チェックボックスを選択してください。
- **[FTP ログイン名] および [FTP パスワード]**（Linux ホスティングに限り使用可能）、または **[FTP/Microsoft FrontPage ログイン名] および [FTP/Microsoft FrontPage パスワード]**（Windows ホスティングに限り使用可能）。FTP または Microsoft FrontPage 経由のサーバへのサイトを発行するのに使用するユーザ名およびパスワードを指定します。**[パスワードの確認]** ボックスでパスワードを再入力してください。
- **ハードディスククォータ**。このサイトの Web スペースに割り当てるディスク容量をメガバイト単位で指定します。これは、制限に達した場合にさらに多くのファイルを Web スペースに書き込めないようにする、いわゆるハードクォータです。ファイルを書き込もうとすると、ユーザには「Out of disk space（ディスクの空き容量不足）」エラーが発生します。ハードクォータはサーバのオペレーティングシステムで有効化されます。**[ハードディスククォータ]** フィールドで「ハードディスククォータ対応なし（Hard disk quota is not supported）」という旨のコメントが表示されていて、ハードクォータを使用したい場合は、プロバイダまたはサーバ管理者に連絡してクォータを有効にするよう依頼してください。
- **SSH を介したサーバへのアクセス管理**（Linux ホスティングに限り使用可能）または **リモートデスクトップを介したサーバへのアクセス管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。これによってサイト所有者は Secure Socket Shell またはリモートデスクトップ接続を通じて信頼性を持って Web コンテンツをサーバにアップロードできるようになりますが、サーバへのアクセス許可はサーバセキュリティへの潜在的な脅威にもなるため、このオプションを **[拒否]** に設定することが推奨されています。
- **Sitebuilder を用いて Web サイトを作成し公開する**。これにより、サイト所有者はサーバにインストールされた Sitebuilder サービスを用いて、Web サイトを作成および管理できます。
- **Microsoft FrontPage 対応**。Microsoft FrontPage は人気のある Web サイト開発ツールです。ユーザが Microsoft FrontPage 経由でサイトを公開および変更できるようにするには、**[Microsoft FrontPage 対応]**、**[Microsoft FrontPage over SSL 対応]**、および **[リモート FrontPage 認証許可]** オプションを選択します。

- **サービス、または動的 Web サイトおよびサーバサイド Web アプリケーションの開発に幅広く使用される言語のプログラミングおよびスクリプトへの対応。** 以下のどのプログラミング言語またはスクリプト言語が Web サーバにより割り込み、実行または処理されるのかを指定します。 Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Python、ColdFusion、および Miva スクリプト言語。 デフォルトでは PHP は機能上の制限からセーフモードで操作するように設定されています。 PHP セーフモードについて詳細は <http://php.net/features.safe-mode> をご参照ください。 Web アプリケーションによってはセーフモードが有効になっていると正常に動作しないことがあります。サイトのアプリケーションがセーフモードのために失敗した場合はセーフモードをオフに切り替えてください(またはプロバイダにその旨依頼してください)。それには、ホスティングアカウントプロパティで **[PHP の 'safe\_mode' を有効(On)にする]** チェックボックスの選択を外します (**[ドメイン] > ドメイン名 > [Web ホスティング設定]** )。
- **Web 統計。** Web サイト所有者がサイトや表示したサイトのページの訪問者の人数に関する情報を表示できるようにするために、**[Web 統計]** メニューから統計プログラムを選択して、**[パスワードで保護されたディレクトリ /plesk-stat/webstat 経由でアクセス可能]** チェックボックスを選択します。これにより Webalizer 統計プログラムがインストールされますが、このソフトウェアによりレポートが生成され、そのレポートをパスワードで保護されたディレクトリに配置されます。ドメインや Web サイトの所有者は自分の FTP アカウントのログインとパスワードを使用して、URL <https://your-domain.com/plesk-stat/> にある Web 統計にアクセスできます。

**注：** 統計プログラムを切り替えた場合、前に使用していた統計プログラムで作成したレポートはすべて削除され、新しいレポートがログファイルから情報を読み取ることで作成されサーバに保存されます。つまり、1ヶ月間しかログファイルを保存しないようにシステムを構成 (**[ドメイン] > ドメイン名 > [ログマネージャ] > [ログローテーション]**) すると、Web 統計は最後の1ヶ月間しか有効ではありません。
- **カスタムエラードキュメント。** サイトを訪れているビジターが Web サーバが見つけれないページを要求する場合、Web サーバによりエラーメッセージを伴った標準の HTML ページが生成され、表示されます。ご自身のエラーページを作成し、ご自身のサーバ上でそのページを使用したり、顧客が使用できるようにしたりする場合は、**[カスタムエラードキュメント]** チェックボックスを選択します。
- **拡張書込/編集権限** (Windows ホスティングに限り使用可能)。このオプションは、ドメインの Web アプリケーションが httpdocs または httpsdocs フォルダの root にあるファイルベースのデータベースを使用している場合に必要です。このオプションを選択すると、Web サイトセキュリティが著しく侵害される場合があることにご注意ください。

- **専用 IIS アプリケーションプールを利用** (Windows ホスティングに限り使用可能)。このオプションはドメイン上の Web アプリケーションの専用 IIS アプリケーションプールを有効にします。専用 IIS アプリケーションプールを使用すると作業者のプロセスアイソレーションモード次第でドメイン Web アプリケーションの安定性が劇的に向上します。このモードはサーバでホスティングされている各 Web サイトがその Web アプリケーションを実行するために別々のプロセスプールを割り当てることができます。そのめ、あるアプリケーションに異常が発生しても他のアプリケーションが停止することはありません。これは特に共有ホスティングパッケージを使用している場合に便利です。

## 10. [OK] をクリックします。

これで、サーバが新しい Web サイトを格納する準備が整いました。サイトの所有者はこのサーバ上でサイトを公開できます。Web サイトの公開方法については、このガイドの「サイトの作成と公開」(参照ページ55)セクションをご参照ください。

**注：** このドメイン名を他の Web ホストから転送する場合、ドメイン名レジストラとともにホスト DNS アドレスを更新し、自分のネームサーバにポイントされるようにする必要があります。レジストラの Web サイトにログインし、ドメインのホストのポインタを管理するのに使用するフォームを配置し、現在の DNS ホスト設定を自分のネームサーバのホスト名で書き換えます。新しいネームサーバの情報は、48 時間以内に DNS システム全体に行き渡ります。

このサーバでホストされるサイトのポイント先として複数のドメイン名を登録している場合、ドメインエイリアスを設定する必要があります。詳しくは、「サイトの追加のドメイン名 (ドメインエイリアス) の設定」(129 ページ)のセクションをご参照ください。

ご自分のマシンで他のサーバ上でホストされているサイトへのポイント先として複数のドメインをホストする必要がある場合、ドメイン転送を設定する必要があります。詳しくは、「他のサーバにホストされているサイトのドメイン名を使用する (ドメイン転送)」(164 ページ)のセクションをご参照ください。

## このセクションの内容:

1つのサイトで消費可能なリソースの量の制限 .....	49
サイト所有者にコントロールパネルへのログインを許可 .....	52



# 1つのサイトで消費可能なリソースの量の制限

デフォルトでは、ドメインテンプレートを使用せずに設定した新しいウェブサイトは帯域幅（データ転送）とディスク容量を制限なしで消費できます。

➤ **サイトで消費できるリソースの量を制限するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] をクリックして、ドメイン名をクリックします。
2. [リソース使用量] をクリックします。
3. 必要に応じて、以下の設定を調整します。
  - **利用超過ポリシー。** ディスクスペースおよび毎月の帯域幅（トラフィック）の割り当てを超えたときに何を実行するかを指定します。このオプションは [利用超過が許可されています] に設定することが推奨されています。そうしないと、リソース制限を超えたときにウェブサイトが中断されます。

**注:** 利用超過ポリシーは、メールボックスのサイズに設定された制限値（メールボックスクォータ）には適用されません。従って、利用超過を有効にした場合も、必ずメールボックスに十分なディスク容量を割り当ててください。

- **ディスク容量。** このドメイン（ウェブサイト）に関連しているホスティングアカウントに割り当てられるディスク空き容量の総量を指定します。この量はメガバイトで計測されます。ドメイン（ウェブサイト）に関連するすべてのファイルが占有するディスクの空き容量が含まれます。ウェブサイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。
- **トラフィック** 1ヶ月間にウェブサイトから転送できるデータ量をメガバイトで指定します。
- **サブドメイン。** このドメインの下にホストできるサブドメインの数を指定します。
- **ドメインエイリアス。** このサイトで使用できる追加の代替ドメイン名の総数を指定します。
- **ウェブユーザ。** ドメイン所有者が自身のドメインの下他のユーザのためにホストできる個人ウェブページ数を指定します。このサービスはおもに、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページのウェブアドレスは通常 <http://your-domain.com/~username> となります。詳細については「個人用ウェブページのホスティング」（144 ページ）のセクションをご参照ください。
- **FrontPage アカウント**（Windows ホスティングに限り使用可能）。このサイトに作成可能な追加の Microsoft FrontPage アカウントの最大数を指定します。
- **FTP アカウント**（Windows ベースのホスティングに限り使用可能）。このサイトに作成可能な追加の FTP アカウントの最大数を指定します。

- **メールボックス。** ドメインでホスティングできるメールボックスの数を指定します。
- **メールボックスクォータ。** メールメッセージおよび自動応答の添付ファイルをドメインの各メールボックスに格納するために割り当てるディスク容量をキロバイトで指定します。
- **メール転送。** 1つのドメインで使用できるメール転送の数を指定します。
- **メールグループ。** 1つのドメインで使用できるメールグループの上限数を指定します。
- **自動応答。** 1つのドメインで設定できるメール自動応答の数を指定します。
- **メーリングリスト。** ドメイン所有者が1つのドメインで実行可能なメーリングリストの数を指定します。メーリングリストは、オプションでサーバにインストールされた GNU Mailman ソフトウェアにより提供されます。インストールされていないけれども顧客がそれを使用した場合は、それをインストールするようサービスプロバイダにご連絡ください。
- **総メールボックスクォータ** (Windows ホスティングに限り使用可能)。ドメインのすべてのメールボックスが使用可能なディスク容量の合計を指定します。
- **データベース** (Linux ホスティングに限り使用可能)。このサイトにホスティングできるデータベースの数を指定します。
- **MySQL データベースおよび Microsoft SQL サーバデータベース** (Windows ホスティングに限り使用可能)。サイトが使用できる MySQL および Microsoft SQL サーバデータベースの最大数を指定します。
- **MySQL データベースクォータおよび Microsoft SQL データベースクォータ** (Windows ホスティングに限り使用可能)。このサイトが使用する MySQL および Microsoft SQL Server データベースが占有可能な最大ディスク容量をメガバイトで指定します。
- **ODBC 接続** (Windows ホスティングに限り使用可能)。このサイトが使用できる ODBC 接続の総数を指定します。
- **ColdFusion DSN 接続** (Windows ホスティングに限り使用可能)。このサイトが使用できる ColdFusion DSN 接続の総数を指定します。
- **Java アプリケーション。** ドメイン所有者がサイトにインストールできる Java アプリケーションまたはアプレットの最大数を指定します。
- **共有 SSL リンク** (Windows ホスティングに限り使用可能)。サイトで使用できる共有 SSL リンクの総数を指定します。

- **有効期限。** ウェブサイトホスティングアカウントの期間を指定します。この期間が終了すれば、ドメイン（ウェブサイト）は停止されます。そのウェブ、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、サイト所有者はコントロールパネルにログインできなくなります。アカウントのホスティングは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名（ウェブサイト）を元の操作に戻すために、手動でホスティングアカウントを更新しなければなりません。ナビゲーションペインで [ドメイン] ショートカットをクリックし、必要なドメイン名をクリックし、[リソース使用量] をクリックし、他の期間を [有効期限] ボックスに指定し、[OK] をクリックしてから、[中断解除] をクリックします。

4. [OK] をクリックします。

➤ **DoS 攻撃からサイトを保護し、訪問者が多い場合にもサイトの迅速な応答を保証するために、以下を実行してサイトへの同時接続の数を制限し、サイト訪問者が使用できる帯域幅の量を制限することができます。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 必要なドメイン名をクリックします。
3. [帯域幅制限] をクリックします。
4. [帯域幅制限のスイッチオン] チェックボックスを選択して、[最大帯域幅使用率 (KB/S)] ボックスにサイトがその全接続間で共有できる最大速度をキロバイト/秒で入力します。例えば、以下のようになります。 128.
5. [接続数制限のスイッチオン] チェックボックスを選択して、[接続の制限数] ボックスに同時接続の最大数を入力します。例えば、以下のようになります。 100.
6. [OK] をクリックします。

## サイト所有者にコントロールパネルへのログインを許可

➤ **サイトの所有者が自分のウェブを管理する目的でコントロールパネルへログインするのを許可するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [個人データ] に進みます。
2. [ドメイン管理者にアクセスを許可する] チェックボックスを選択します。
3. サイトの所有者がコントロールパネルへのアクセスに使用するパスワードを入力します。

セキュリティ上の理由から、パスワードは9文字以上とし、アルファベット、数字、記号の組み合わせにする必要があります。辞書に載っていきそうな言葉や固有名詞は避けてください。

4. ユーザのコントロールパネル外観に関連する設定を指定します。インターフェース言語、テーマ（スキン）、サイトの所有者によりコントロールパネル内のカスタムボタンに表示される文字数の制限などです。
5. サイトの所有者がコントロールパネルで複数のセッションを同時に実行できるようにするには、[**複数セッションを許可する**] チェックボックスを選択したままにします。
6. [インターフェース画面が完全にロードされるまでコントロールパネルでユーザが操作するのを禁止する] チェックボックスを選択したままにしてください。

そうすると、ユーザはコントロールパネルの準備ができるまでデータを送信したり操作を実行することができないようになります。

7. サイトの所有者が自分のコントロールパネルで実行できる操作を指定します。
  - **物理ホスティング管理**。ホスティングアカウントおよびウェブスペースの完全な制御を許可または禁止します。
  - **ホスティングパフォーマンス管理**。ユーザが帯域幅使用量およびウェブサイトへの接続数を制限できるかどうかを指定します。
  - **FTPパスワード管理**（Linuxホスティングに限り使用可能）。ユーザがFTPパスワードを管理できるかどうかを指定します。

- **SSH を介したサーバへのアクセス管理**（Linux ホスティングに限り使用可能）または**リモートデスクトップを介したサーバへのアクセス管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。ユーザがセキュアシェルまたはリモートデスクトッププロトコルを介してサーバにアクセスできるかどうかを指定します。サーバへのアクセスを許可すると、サーバセキュリティを脅かすことになる場合もあることにご注意ください。
- **ハードディスククォータ割り当て**。ユーザがこのウェブサイト用にディスク領域にハードクォータを割り当てることができるかどうかを指定します。
- **サブドメイン管理**。ユーザがこのドメインに追加のサイトをセットアップできるかどうかを指定します。
- **ドメインエイリアスの管理**。ユーザがこのサイトに追加の代替ドメイン名をセットアップできるかどうかを指定します。
- **ログローテーション管理**。ユーザがこのサイトで処理されたログファイルのクリーンアップと再利用を調整できるかどうかを指定します。
- **Anonymous FTP の管理**。ユーザが、ログインとパスワードを入力せずにファイルをダウンロードおよびアップロードできる FTP ディレクトリを設定できるかどうかを指定します。匿名 FTP サービスを使用するためには、ウェブサイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。匿名 FTP サービスを使用するためには、ウェブサイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。
- **FTP アカウント管理**（Windows ベースのホスティングに限り使用可能）。ユーザが追加 FTP アカウントを作成および管理できるかどうかを指定します。
- **スケジューラ管理**。ユーザがシステム内のタスクをスケジューリングできるかどうかを指定します。スケジューリングされたタスクは、スクリプトまたはユーティリティの予定に沿った実行に使用できます。
- **DNS ゾーン管理**。ユーザがこのサイトの DNS ゾーンを管理できるかどうかを指定します。
- **Java アプリケーション管理**。ユーザがこのサイトで Java アプリケーションおよびアプレットを使用できるかどうかを指定します。
- **ウェブ統計管理**。ユーザがこのサイトのウェブ統計を管理できるかどうかを指定します。
- **メーリングリスト管理**。ユーザがメーリングリストを使用できるかどうかを指定します。
- **スパムフィルタ管理**。ユーザがスパムフィルタを使用できるかどうかを指定します。
- **アンチウイルス管理**。ユーザが送受信メールのフィルタ処理のためのサーバ側のアンチウイルス保護を使用できるかどうかを指定します。
- **データのバックアップおよび復元の許可**。ユーザがコントロールパネルの機能を使用して、顧客のサイトをバックアップおよび復元できるかどうかを指定します。
- **Sitebuilder を使用可能**。ユーザが自分のウェブサイトの作成および編集に Sitebuilder を使用できるかどうかを指定します。

- **IIS アプリケーションプール管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。ユーザが自分の IIS アプリケーションプールを管理できるかどうかを指定します。
- **拡張書込/編集の権限管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。ユーザがこのサイトの追加の書き込み/変更の権限を管理できるかどうかを指定します。これらの権限は、ユーザのウェブアプリケーションが `httpdocs` または `httpsdocs` フォルダの `root` にあるファイルベースのデータベースを使用している場合に必要です。このオプションを選択すると、ウェブサイトセキュリティが著しく侵害される場合があることにご注意ください。
- **ホームページ管理**。顧客が自分のホームページをカスタマイズできるかどうかを指定します。
- **データベースサーバを選択可能**。サイト所有者が、デフォルトのデータベースサーバを使用するだけでなく、自分のデータベースを作成できるように各タイプのデータベースサーバを選択可能かどうかを指定します。

8. サイト所有者の連絡情報を指定します。

9. [OK] をクリックします。

これでコントロールパネルの URL、ログイン名、およびパスワード サイト所有者に送信できます。URL は [https://user's\\_domain\\_name:8443](https://user's_domain_name:8443) となり、`user's_domain_name` の部分は `www` エイリアスなしのドメイン名です。サイト所有者は、コントロールパネルへのログインに必要なログイン名として自分のドメイン名を指定する必要があります（例：your-domain.com）。

---

## サイトの作成および公開

ホスティングプランに Sitebuilder を用いた Web サイトの作成および管理サービスが含まれている場合、Sitebuilder を用いて Web サイトを作成および管理できます。あるいは、ホームまたはオフィスコンピュータにサイトコンテンツ（サイトを構成する Web ページ、スクリプト、およびグラフィックファイル）を作成して、それからそれを以下の方法のどれを使用してもサーバに公開できます。

- FTP 接続経由（最も一般的かつ簡単な方法）
- コントロールパネルのファイルマネージャ経由
- セキュアシェル接続経由（Linux および FreeBSD オペレーティングシステムのユーザのみ利用可）
- Adobe Dreamweaver または Microsoft FrontPage ソフトウェア経由（Microsoft Windows オペレーティングシステムのユーザのみ利用可）

### このセクションの内容:

Sitebuilder を使用した Web サイトの作成と公開 .....	55
FTP 経由でのサイトの公開 .....	56
Parallels Plesk Panel ファイルマネージャ経由でのサイトの公開 .....	61
SSH 接続によるサイトの公開 .....	62
Microsoft FrontPage によるサイトの公開（Windows ホスティング） .....	63
追加の Microsoft FrontPage アカウントの使用（Windows ホスティング） .....	66
Microsoft FrontPage 設定の変更（Windows ホスティング） .....	68
Adobe Dreamweaver によるサイトの公開 .....	69

## Sitebuilder を使用した Web サイトの作成と公開

➤ **Sitebuilder を使用して Web サイトの作成を開始するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Sitebuilderにて編集する] に進みます。Sitebuilder ウィザードが開きます。
2. [サイトの作成] オプションを選択して、画面下端の [次へ] をクリックします。

サイトを作成または編集する方法の詳細については、  
[http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/user/ja\\_JP/html/index.htm](http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/user/ja_JP/html/index.htm) からオンラインで Sitebuilder ウィザード ユーザガイドを参照してください。

## FTP 経由でのサイトの公開

➤ **FTP 経由で Web サイトを公開するには、以下の操作を実行します。**

1. FTPクライアントプログラムでサーバに接続します。この際、ホスティングアカウントの設定時に指定した、またはプロバイダから取得した FTPアカウントの信用情報を使用します。FTPアドレスは <ftp://your-domain-name.com> である必要があります。ここで your-domain-name.com はサイトのインターネットアドレスです。  
ファイアウォールを設定している場合は、パッシブモードを有効にします。
2. HTTPプロトコル経由でアクセスするファイルとディレクトリを httpdocs ディレクトリにアップロードし、SSLプロトコル経由でセキュアに転送すべきファイルおよびディレクトリを httpsdocs ディレクトリにアップロードします。
3. CGIスクリプトを cgi-bin ディレクトリに配置します。
4. FTPセッションを終了します。

### このセクションの内容:

FTPパスワードの変更 .....	56
追加の FTP アカウントの使用 (Windows ホスティング) .....	57

## FTP パスワードの変更

➤ **Web ページ所有者の FTP パスワードを変更するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webホスティング設定] に進みます。
2. パスワードを指定します。
3. [OK] をクリックします。



## 追加の FTP アカウントの使用 (Windows ホスティング)


自分のウェブサイト上で他の誰かと、または他のユーザのサブドメインで作業している場合、FTP アカウントを作成すると便利です。

### このセクションの内容:

追加 FTP アカウントの作成 (Windows ホスティング) .....	58
追加 FTP アカウント設定の変更 .....	59
追加 FTP アカウントの削除 .....	60


## 追加 FTP アカウントの作成 (Windows ホスティング)

➤ **ドメインに追加のFTPアカウントを作成するには以下を実行してください。**

1. ホームページで [FTPアカウント] をクリックします。
2. [FTPアカウント] タブで [FTPアカウントの作成] をクリックします。
3. FTPアカウント名を入力します。
4.  をクリックして [ホームディレクトリ] を指定し、ディレクトリを選択します。その代わりに入力フィールドにパスを指定することもできます。
5. [新しいパスワード] ボックスおよび [パスワードの確認] ボックスで新しいパスワードの入力と確認を行います。
6. FTPユーザのファイルとフォルダに対する権限と、使用可能なディスク容量を指定します。
  - ディスク容量を制限するには、[ハードディスククォータ] ボックスの隣の [無制限] チェックボックスの選択を外して、ディスク容量をメガバイトで入力します。
  - ホームディレクトリのコンテンツを見てそこからファイルをダウンロードする権限をFTPユーザに与えるには、[読み取り権限] チェックボックスを選択します。
  - ホームディレクトリ内でディレクトリを作成・表示・名前変更・削除する権限をFTPユーザに与えるには、[書き込み権限] チェックボックスを選択します。  
何も権限を供与しなければ、FTPアカウントへの接続は作成されるものの、ユーザに対してホームディレクトリのコンテンツは表示されません。
7. [OK] をクリックします。追加の新規FTPアカウントが追加されます。

## 追加 FTP アカウント設定の変更

➤ **追加 FTP アカウントのプロパティを変更するには、以下を実行します。**

1. ホームページで [FTPアカウント] をクリックします。
2. [FTPアカウント] タブで一覧からアカウントをクリックします。
3. FTPアカウント名を入力します。
4.  をクリックして [ホームディレクトリ] を指定し、ディレクトリを選択します。その代わりに入力フィールドにパスを指定することもできます。
5. [新しいパスワード] ボックスおよび [パスワードの確認] ボックスで新しいパスワードの入力と確認を行います。
6. デフォルトでは [ハードディスククォータ] は [無制限] に設定されています。必要なパラメータを設定するには、[無制限] チェックボックスの選択を外して [ハードディスククォータ] ボックスにディスク容量をメガバイトで入力します。
7. 必要に応じて [読み込み権限] チェックボックスを選択します。FTPアカウントユーザはホームディレクトリのコンテンツを表示してそこからファイルをダウンロードできるようになります。
8. 必要に応じて [書き込み権限] チェックボックスを選択します。FTPアカウントユーザはホームディレクトリのディレクトリの作成、表示、名前変更、削除ができるようになります。  
何も権限を供与しなければ、FTP アカウントへの接続は作成されるもののホームディレクトリはユーザに表示されません。
9. 必要に応じて変更を行い [OK] をクリックします。

## 追加 FTP アカウントの削除

➤ **追加 FTP アカウントを削除するには以下を実行してください。**





1. ホームページで [FTPアカウント] をクリックします。
2. [FTPアカウント] タブで削除するアカウントに該当するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
3. 削除を確認して [OK] をクリックします。 FTPアカウントが削除されます。

## Parallels Plesk Panel ファイルマネージャ経由でのサイトの公開

➤ *Parallels Plesk Panel* のファイルマネージャ経由でファイルをアップロードするには、以下を実行します。

1. Parallels Plesk Panel にログインします。
2. [ドメイン] > ドメイン名 > [ファイルマネージャ] に進みます。
3. ファイルとディレクトリを作成し、アップロードします。

HTTP プロトコル経由でアクセスするファイルとディレクトリを `httpdocs` ディレクトリに配置し、SSL プロトコル経由でセキュアに転送すべきファイルおよびディレクトリを `httpsdocs` ディレクトリに配置します。CGI スクリプトを `cgi-bin` ディレクトリに配置します。

- 現在のディレクトリ内に新しいディレクトリを作成するには、**[新しいディレクトリを追加]** をクリックします。
- 必要なディレクトリに新しいファイルを作成するには、**[新しいファイルを追加]** を追加します。**[ファイル作成]** セクションでファイル名を指定します。さらに、ファイルマネージャで新しいファイルに `html` タグを挿入できるようにするには、**[html テンプレートを使用]** チェックボックスを選択して **[OK]** をクリックします。新しいページが開くので、ここで新しいファイルのコンテンツ、つまり HTML 形式にフォーマットされたソースを入力します。設定が終了したら、**[OK]** をクリックします。
- ローカルマシンからファイルをアップロードするには、**[新しいファイルを追加]** をクリックし、**[ファイルソース]** ボックス (または **[参照]** ボタンでファイルの場所を指定します) でそのファイルの保存場所へのパスを指定して **[OK]** をクリックします。
- ビルトインの Visual Editor 内の Web ページを編集するには (Microsoft Internet Explorer ユーザのみ利用可能)、 をクリックします。HTML ファイルを編集するときはデフォルトで Parallels Plesk Panel は内部 WYSIWYG エディタを開きます。HTML ファイルのソースコードを編集するには **[HTML]** をクリックします。WYSIWYG モードに戻るには **[デザイン]** をクリックします。
- ファイルのソースコードを編集するには、 をクリックします。
- ファイルを表示するには  をクリックします。
- ディレクトリまたはファイルの名前を変更するには  をクリックします。ここで新しい名前を入力して **[OK]** をクリックします。

- ディレクトリやファイルを新しい位置にコピーまたは移動するには、チェックボックスを使って適切なディレクトリやファイルを選択して [コピー] または [移動] アイコンをクリックします。ディレクトリやファイルがコピーされる先またはその名前を指定し、コピーをする場合は [コピー] を、移動する場合は [移動] をクリックします。
- ディレクトリまたはファイルの作成日を更新するには、[タイムスタンプの変更] をクリックします。タイムスタンプが現在のローカルタイムで更新されます。
- ファイルまたはディレクトリを削除するには、対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

Web コンテンツをファイルマネージャまたは FTP 経由でアップロードすると、コントロールパネルはファイルやディレクトリへの適切なアクセス権限を自動的に設定します。ファイルおよびディレクトリに対する権限を変更するには、以下のセクションをご参照ください。

ファイルおよびディレクトリのアクセス権限の設定 (Linux ホスティング) (参照ページ116)

ファイルおよびディレクトリのアクセス権限の設定 (Windows ホスティング) (参照ページ117)

## SSH 接続によるサイトの公開

ローカルコンピュータ上で Linux または FreeBSD の OS を使用しサーバシェルにアクセスするには「scp」コマンドを使用してファイルやディレクトリをサーバにコピーします。ファイルをコピーするには `scp your_file_name login@remoteserver.com:path` を、ディレクトリ全体をコピーするには `scp -r your_directory_name login@remoteserver.com:path` を指定します。

すると、Parallels Plesk Panel に搭載されている SSH ターミナル Web アプリケーションを使用して、アカウント上のファイルやディレクトリで作業ができるようになります ( [ドメイン] > [ドメイン名] > [SSH ターミナル] ) 。

# Microsoft FrontPage によるサイトの公開 (Windows ホスティング)

Microsoft FrontPage は次の 2 つの Web サイトに対応しています。 ディスクベースの Web サイトとサーバーベースの Web サイトです。 ディスクベースのサイトとは、ローカルハードディスク上で作成した後に Web サーバに公開する FrontPage Web サイトのことです。 サーバーベースのサイトとは、Web サーバ上で直接作成および作業する Web サイトで、別途の公開手続きが必要ありません。 ここでは、ディスクベースの Web サイトの公開方法についてのみ説明します。

ディスクベースの Web サイトは、FTP または HTTP を通じて公開できます。 サーバが FrontPage Server Extensions を実行していれば、サイトを HTTP の場所に公開することになります。 例えば、以下ようになります。 <http://your-domain.com/MyWebSite> サーバが FTP をサポートしていれば、FTP の場所に公開することになります。 例えば、以下ようになります。 <ftp://ftp.your-domain.com/myFolder>

公開後、FrontPage Server Extensions によりサイトを管理できます。

## ➤ **FrontPage Server Extensions 管理インターフェースにアクセスするには、以下の操作を実行します。**

1. Parallels Plesk Panel にログインします。
2. 必要なドメイン名をクリックします。
3. SSL によって保護されていないサイトを管理するには、[Web サイト] グループタイトルメニューを開いて [Frontpage Webadmin] をクリックします。 SSL が使用できるサイトを管理するには、[Web サイト] グループタイトルメニューを開いて [Frontpage SSL Webadmin] をクリックします。
4. FrontPage 管理者のログイン名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

FrontPage server extensions の使用方法については、オンラインヘルプ ( [Frontpage WebAdmin] > [ヘルプ] ) または Microsoft の Web サイトをご参照ください。

## このセクションの内容:

Microsoft FrontPage を使用して FTP 経由で公開.....	64
Microsoft FrontPage を使用して HTTP 経由で公開.....	65

## Microsoft FrontPage を使用して FTP 経由で公開

➤ **FTP 経由でファイルを公開するには、以下の操作を実行します。**

1. FrontPage プログラムを開きます。
2. FrontPage の Web サイトを開きます。 [ファイル] メニューを開いて [サイトを開く] の項目を選択します。
3. [リモート Web サイト] ビューに行きます。 [Web サイト] タブをクリックした後、ウィンドウの下部にある [リモート Web サイト] ボタンをクリックします。
4. [リモート Web サイトのプロパティ] を設定します。
  - ウィンドウの右上隅にある [リモート Web サイトのプロパティ] ボタンをクリックします。
  - リモート Web サーバとして [FTP] を選択します。
  - [リモート Web サイトの位置] ボックスに、ホスト名 (例 : <ftp://ftp.your-domain.com>) を入力します。
  - [FTP ディレクトリ] ボックスで、ホスティング会社から提供されたものがあれば FTP ディレクトリに入力します。 特定できるものがない場合は、空欄のままにしておいて下さい。
  - コンピュータまたはネットワークがファイアウォールによって保護されているときは、[パッシブ FTP を使用] チェックボックスを選択してください。
5. [OK] をクリックして、リモートサイトに接続します。

[リモート Web サイト] ビューには、ローカルおよびリモートサイトにあるファイルが表示されます。
6. ウィンドウの右下隅にある [Web サイトの公開] ボタンをクリックします。



## Microsoft FrontPage を使用して HTTP 経由で公開

➤ **FrontPage Server Extensions をサポートするサーバ上に HTTP 経由でファイルを公開するには、以下の操作を実行します。**

1. FrontPage プログラムを開きます。
2. FrontPage の Web サイトを開きます。 [ファイル] メニューを開いて [サイトを開く] の項目を選択します。
3. [リモート Web サイト] ビューに行きます。 [Web サイト] タブをクリックした後、ウィンドウの下部にある [リモート Web サイト] ボタンをクリックします。
4. ウィンドウの右上隅にある [リモート Web サイトのプロパティ] ボタンをクリックします。
5. [リモート Web サーバタイプ] にある [リモート Web サイト] タブで、 [FrontPage または SharePoint Services] をクリックします。
6. [リモート Web サイトロケーション] ボックスで、フォルダやファイルを公開したいリモート Web サイトのインターネットアドレスをプロトコルを含めて（例えば、<http://www.your-domain.com>）入力するか、 [参照] をクリックしてサイトの位置を決めます。
7. 以下のいずれかを実行します。
  - 重要な情報を妨害から守る安全な通信チャネルを確立するため、Secure Sockets Layer (SSL) を使用するには、 [暗号化接続の要求(SSL)] をクリックします。 Web サーバ上で SSL 接続を行うには、公認認証局から機密保護証明を受けてサーバを設定しなければなりません。サーバが SSL をサポートしていないときは、このチェックボックスのチェックを外します。 そうしないと、フォルダやファイルをリモート Web サイトに公開できません。
  - Web ページを公開する際に特定のタイプのコードを削除するには、 [HTML の最適化] タブ上で希望のオプションを選択します。
  - 公開のためのデフォルト選択を変更するには、 [公開] タブ上で希望のオプションを選択します。
8. [OK] をクリックして、リモートサイトに接続します。  
 [リモート Web サイト] ビューには、ローカルおよびリモートサイトにあるファイルが表示されます。
9. ウィンドウの右下隅にある [Web サイトの公開] ボタンをクリックします。

## 追加の Microsoft FrontPage アカウントの使用 (Windows ホスティング)

自分の Web サイト上で他の誰かと、または他のユーザのサブドメインで作業している場合、Microsoft FrontPage アカウントを作成すると便利です。

### このセクションの内容:

追加の Microsoft FrontPage アカウントの作成.....	66
追加の Microsoft FrontPage アカウント設定の変更 .....	67
追加の Microsoft FrontPage アカウントの削除.....	67

## 追加の Microsoft FrontPage アカウントの作成

- **ドメインに追加の Microsoft FrontPage アカウントを作成するには以下を実行してください。**
1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webサイト] グループタイトルメニュー > [FrontPage管理] に進みます。
  2. [新しいFrontPageアカウントの追加] をクリックします。
  3. このアカウントのログイン名およびパスワードを指定します。
  4. このアカウントが使用できるディスク容量を制限するには [無制限] チェックボックスの選択を外して [ハードディスククォータ] ボックスに値をメガバイトで入力します。  
指定した制限値を超えるとアカウント所有者は Web スペースにファイルを追加できなくなります。
  5. [OK] をクリックして追加の Microsoft FrontPage アカウントの作成を終了します。

## 追加の Microsoft FrontPage アカウント設定の変更

➤ **追加の Microsoft FrontPage アカウント設定を変更するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webサイト] グループタイトルメニュー > [FrontPage管理] に進みます。
2. 一覧から必要なアカウントをクリックします。
3. 必要に応じて設定を調整し [OK] をクリックして変更を保存します。

## 追加の Microsoft FrontPage アカウントの削除

➤ **追加の Microsoft FrontPage アカウントを削除するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webサイト] グループタイトルメニュー > [FrontPage管理] に進みます。
2. 削除するアカウントに対応するチェックボックスを選びます。
3. [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

## Microsoft FrontPage 設定の変更 (Windows ホスティング)

Microsoft FrontPage 独自の IIS インデックスサーバを使用して Web サイトのフルテキストインデックスを構築できます。

➤ **Microsoft FrontPage 独自の IIS インデックスサーバを使用するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webサイト] グループタイトルメニュー > [FrontPage管理] > [プリファレンス] に進みます。
2. [IISインデックスサーバを使用する] チェックボックスを選択して [OK] をクリックします。

サイトに情報をメールで送信する FrontPage フォームを使用する場合は、以下のプリファレンスを指定すると便利です。

- **メールの送信用 SMTP メールサーバ。** デフォルトではドメインの DNS ゾーンに指定された SMTP サーバをメールの送信に使用します。ゾーンに SMTP サーバが指定されていない場合は、FrontPage はドメイン (サイト) がホスティングされているサーバ上で稼働しているメールサービスを使用します。
- **送信者のメールアドレス。** デフォルトではドメイン所有者のメールアドレスを使用します。ドメイン所有者のメールアドレスがドメイン所有者のプロファイルに指定されていない場合は、FrontPage はドメインが属するクライアントのメールアドレスを使用します。クライアントのメールアドレスがクライアントのプロファイルに指定されていない場合は、サーバ管理者のメールアドレスを使用します。

➤ **選択設定を変更するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webサイト] グループタイトルメニュー > [FrontPage管理] > [プリファレンス] に進みます。
2. [メール設定] で使用する SMTP サーバおよびメールアドレスを指定し、[OK] をクリックします。

## Adobe Dreamweaver によるサイトの公開

Dreamweaver からサイトを公開する前に、サイトプロパティを定義する必要があります。つまり、Dreamweaver にサイトファイルがコンピュータのどこにあるかを知らせ、サイトを公開したいサーバを指定する必要があります。

➤ **Dreamweaver でサイトを定義するには以下を実行してください。**

1. [サイト] メニューから [新規サイト] をクリックします。 サイト定義画面が開きます。
2. [高度] タブをクリックします。
3. [ロケール情報] カテゴリで以下を指定します。
  - [サイト名]。これがウェブブラウザのタイトルバーに表示されます。
  - [ローカルルートフォルダ]。すべてのサイトファイルが保存されているコンピュータのフォルダです。例えば、c:\My Site となります。
  - [デフォルト画像フォルダ]。サイトのグラフィックファイルが保存されているフォルダを指定します。例えば、c:\My Site\images となります。
  - [HTTP アドレス]。ドメイン名を指定します。例えば、<http://your-domain.com> となります。
4. [カテゴリ] メニューから [リモート情報] 項目を選択します。
5. [アクセス] メニューから [FTP] オプションを選択します。恐らく、貴社のサーバはFTP (ファイル転送プロトコル。通常、ファイルをインターネット上で転送するのに使用されます) 経由の公開をサポートしています。
6. 以下の設定を指定します。
  - [FTP ホスト]。先頭に ftp:// を付けずに FTP ホスト名を入力します。例えば、your-domain.com となります。
  - [ホストディレクトリ]。サイトを置くサーバ上のディレクトリを指定します。ほとんどの場合、httpdocs です。
  - [ログイン名およびパスワード]。FTP アカウントにアクセスするログイン名とパスワードを指定します。
  - [受動 FTP の使用]。コンピュータがファイアウォール内であればこのオプションを選択します。
7. 正しいログイン名およびパスワードが指定され、Dreamweaver がサーバに接続できることを確認するために、[テスト] ボタンをクリックします。
8. [OK] をクリックして設定を保存します。

➤ **サイトを公開するには以下を実行してください。**

1. Dreamweaverでサイトを開きます。
2. [サイト]メニューで[置く]オプションを選択します（またはCtrl+Shift+Uを同時に押します）。

---

## サイトのプレビュー

サーバ上にサイトを公開したら、実際のホスティング環境で正しく機能しているか確認したいと思うかも知れません。たとえドメイン名に関する情報がドメインネームシステムに広がっていなくても、お好みのWebブラウザを通じてプレビューできます。ただし、プレビューにおいてはAdobe FlashとCGIスクリプトは動作しません。また、他のファイルへの絶対パス（<a href="http://domain.tld/image.gif"> など）を含むWebサイトやWebページにおいては、サイトプレビューは動作しません。

➤ **サイトをプレビューするには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名に進みます。
2. [サイトプレビュー] をクリックします。

---

# ASP.NET の設定 (Windows ホスティング)

ASP.NET は柔軟なツールセットであり、ASP.NET フレームワークに基づいた多数のアプリケーションの採用が可能になる Web 開発テクノロジーです。Parallels Plesk Panel はその .NET フレームワークのバージョン 1.1.x および 2.0.x の両方をサポートしており、その構成のほとんどを設定することができます。

## このセクションの内容:

ドメインの ASP.NET 設定 .....	72
仮想ディレクトリの ASP.NET 設定 .....	75
デフォルト ASP.NET 設定の復元.....	77
ドメインの .NET フレームワークのバージョン変更.....	78
仮想ディレクトリの .NET フレームワークのバージョン変更.....	79




## ドメインの ASP.NET 設定

ASP.NET アプリケーションに望みどおりの機能を持たせるために ASP.NET の設定をカスタマイズする必要がある場合、そのほとんどは Parallels Plesk Panel 経由で編集することが可能です。

➤ **ドメインの ASP.NET を設定するには以下を実行してください。**


1. ホームページからドメイン名をクリックします。
2. [ホスティング] グループの [ASP.NET設定] をクリックします。
3. データベースを使用する ASP.NET アプリケーションのデータベース接続データを決定するストリングをセットアップします。このオプションは ASP.NET 2.0.x でのみ有効です。

初めて ASP.NET の構成ページを開くと共通構成を持つ接続パラメータのサンプルが表示されます。サンプルは削除して自分のストリングを指定することができます。

- ストリングを追加するには、[名前] および [接続パラメータ] 入力フィールドに必要なデータを入力してその隣の  をクリックします。
  - ストリングを削除するには、その隣の  をクリックします。
4. [カスタムエラー設定] フィールドで、ASP.NET アプリケーションが返すカスタムエラーメッセージをセットアップします。
    - カスタムエラーメッセージモードを設定するには [カスタムエラーモード] メニューから適切なオプションを選択します。
      - [オン] - カスタムエラーメッセージは有効です。
      - [オフ] - カスタムエラーメッセージは無効であるエラーの詳細が表示されます。
      - [リモートのみ] - カスタムエラーメッセージはリモートクライアントにのみ表示され、ASP.NET エラーはローカルホストに表示されます。
    - 新規カスタムエラーメッセージ ([オフ] モードが選択されていない限り適用されます) を追加するには [ステータスコード] および [転送 URL] フィールドに値を入力して  をクリックします。
      - [ステータスコード] は HTTP ステータスコードを定義し、エラーページへ転送します。
      - [転送 URL] はクライアントのエラーについて情報を提供するエラーページのウェブアドレスを定義します。

競合を避けるため、既存のエラーコードで新規カスタムエラーメッセージを追加することはできませんが、既存のコードで URL を再定義することはできます。



- リストからカスタムエラーメッセージを削除するには、その隣の  をクリックします。

5. **【編集およびデバッグ】** フィールドで編集の構成を設定します。

- プログラミング言語を動的編集ファイルのデフォルトに使用するには、**【ページデフォルト言語】** 一覧からエントリを選択します。
- リテールバイナリのコンパイルを有効にするには、**【デバッグの有効化】** チェックボックスを外したままにします。
- デバッグバイナリのコンパイルを有効にするには、**【デバッグの有効化】** チェックボックスを選択します。この場合、ソースコードにエラーがあるとそれが診断ページメッセージに表示されます。

---

注：アプリケーションをデバッグモードで実行すると、メモリやパフォーマンスのオーバーヘッドが発生します。デバッグはアプリケーションのテストに使用し、そのアプリケーションの実動段階ではデバッグは無効にすることをお勧め致します。

---

6. **【グローバル設定】** セクションで以下を実行してASP.NETアプリケーションのエンコード構成を設定します。

- すべてのリクエストに対して適応されるエンコードを設定するには、エンコード値を**【リクエストのエンコード】** フィールドに入力します（デフォルトは utf-8 です）。
- すべての返答に対して適応されるエンコードを設定するには、エンコード値を**【返答のエンコード】** フィールドに入力します（デフォルトは utf-8 です）。
- デフォルトで .aspx や .asmx や .asax ファイルの解析に使用されるエンコードを設定するには、エンコード値を**【ファイルのエンコード】** フィールドに入力します（デフォルトは Windows-1252 です）。
- 受信するウェブリクエストに対してデフォルトで使用される国別環境を設定するには、**【国別環境】** リストから適切な項目を選択します。
- 地域依存のリソース検索においてデフォルトで使用される国別環境を設定するには、**【UI 国別環境】** リストから適切な項目を選択します。

7. ASP.NETアプリケーションのCAS（コードアクセスセキュリティ）信用レベルを**【コードアクセスセキュリティ】** フィールドで設定します。

CAS 信用レベルはアプリケーション実行が割り当てられるセキュリティゾーンであり、アプリケーションがアクセスするサーバリソースを定義します。

---

**重要：**アセンブリが低すぎる信用レベルを割り当てた場合は正しく機能しません。許可レベルの詳細については

[http://msdn.microsoft.com/library/jp-jp/dnnetsec/html/THCMCh09.asp?frame=true#c09618429\\_010](http://msdn.microsoft.com/library/jp-jp/dnnetsec/html/THCMCh09.asp?frame=true#c09618429_010)をご参照ください。

---

8. **【スクリプトライブラリ設定】** フィールドで補助スクリプトの使用を有効にします。ウェブサイトで検証ウェブコントロールが使用されている場合はスクリプトライブラリ設定を必要と指定します。このオプションはASP.NET 1.1.xでのみ有効です。

- 補助スクリプト（具体的には、入力データ検証用オブジェクトを実行するスクリプト）を使用する必要がある場合は、.NET フレームワークスクリプトライブラリの設定を提供してください。それには、ドメインのルートディレクトリで始まるパスをスラッシュの後に [Microsoft スクリプトライブラリへのパス] フィールドに入力するか、[Microsoft スクリプトライブラリへのパス] フィールドの隣のフォルダアイコンをクリックして必要なロケーションを検索します。
  - スクリプトを含むファイルを特定のロケーションへ自動インストールするには、[インストール] チェックボックスを選択します。ファイルが既にそこにある場合は上書きされます。
9. クライアントセッションパラメータを [セッション設定] フィールドで設定します。
- アプリケーションのデフォルト認証モードをセットアップするには、[認証モード] 一覧から適切な項目を選択します。IIS 認証のフォームを使用している場合は [Windows] 認証モードを選択してください。
  - セッションが停止せずにアイドル状態でいられる時間をセットアップするには、適切な分数を [セッションタイムアウト] フィールドに入力します。
10. [OK] をクリックすると、変更した内容がすべて適用されます。

---

**注:** Parallels Plesk Panel は .NET フレームワークの異なるバージョン（1.1.x および 2.0.x）の設定を別々にサポートしています。

---




## 仮想ディレクトリの ASP.NET 設定

ASP.NET ベースの Web アプリケーションのパフォーマンスを向上させるため、Parallels Plesk Panel では仮想ディレクトリごとに .NET フレームワークの個別の設定を使用することができます。

➤ **仮想ディレクトリの ASP.NET を設定するには以下を実行してください。**


1. ホームページからドメイン名をクリックします。
2. [Webディレクトリ] をクリックします。
3. 必要なディレクトリを参照して入力します。
4. [ASP.NET設定] をクリックします。
5. データベースを使用するASP.NETアプリケーションのデータベース接続データを決定するストリングをセットアップします。このオプションはASP.NET 2.0.xでのみ有効です。

初めて ASP.NET の構成ページを開くと共通構成を持つ接続パラメータのサンプルが表示されます。サンプルは削除して自分のストリングを指定することができます。

- ストリングを追加するには、[名前] および [接続パラメータ] 入力フィールドに必要なデータを入力してその隣の  をクリックします。
  - ストリングを削除するには、その隣の  をクリックします。
6. [カスタムエラー設定] フィールドで、ASP.NETアプリケーションが返すカスタムエラーメッセージをセットアップします。
    - カスタムエラーメッセージモードを設定するには [カスタムエラーモード] メニューから適切なオプションを選択します。
      - [オン] - カスタムエラーメッセージは有効です。
      - [オフ] - カスタムエラーメッセージは無効であるエラーの詳細が表示されます。
      - [リモートのみ] - カスタムエラーメッセージはリモートクライアントにのみ表示され、ASP.NET エラーはローカルホストに表示されます。
    - 新規カスタムエラーメッセージ ([オフ] モードが選択されていない限り適用されます) を追加するには [ステータスコード] および [転送 URL] フィールドに値を入力して  をクリックします。
      - [ステータスコード] は HTTP ステータスコードを定義し、エラーページへ転送します。

- **【転送 URL】** はクライアントのエラーについて情報を提供するエラーページの Web アドレスを定義します。

競合を避けるため、既存のエラーコードで新規カスタムエラーメッセージを追加することはできませんが、既存のコードで URL を再定義することはできます。

- リストからカスタムエラーメッセージを削除するには、その隣の  をクリックします。

#### 7. **【編集およびデバッグ】** フィールドで編集の構成を設定します。

- プログラミング言語を動的編集ファイルのデフォルトに使用するには、**【ページデフォルト言語】** 一覧からエントリを選択します。
- リテールバイナリのコンパイルを有効にするには、**【デバッグの有効化】** チェックボックスを外したままにします。
- デバッグバイナリのコンパイルを有効にするには、**【デバッグの有効化】** チェックボックスを選択します。この場合、ソースコードにエラーがあるとそれが診断ページメッセージに表示されます。

---

**注：** アプリケーションをデバッグモードで実行すると、メモリやパフォーマンスのオーバーヘッドが発生します。デバッグはアプリケーションのテストに使用し、そのアプリケーションの実動段階ではデバッグは無効にすることをお勧め致します。

---

#### 8. **【グローバル設定】** セクションで以下を実行して ASP.NET アプリケーションのエンコード構成を設定します。

- すべてのリクエストに対して適応されるエンコードを設定するには、エンコード値を **【リクエストのエンコード】** フィールドに入力します（デフォルトは utf-8 です）。
- すべての返答に対して適応されるエンコードを設定するには、エンコード値を **【返答のエンコード】** フィールドに入力します（デフォルトは utf-8 です）。
- デフォルトで .aspx や .asmx や .asax ファイルの解析に使用されるエンコードを設定するには、エンコード値を **【ファイルのエンコード】** フィールドに入力します（デフォルトは Windows-1252 です）。
- 着信する Web リクエストに対してデフォルトで使用される国別環境を設定するには、**【国別環境】** リストから適切な項目を選択します。
- 地域依存のリソース検索においてデフォルトで使用される国別環境を設定するには、**【UI 国別環境】** リストから適切な項目を選択します。

#### 9. ASP.NET アプリケーションの CAS（コードアクセスセキュリティ）信用レベルを **【コードアクセスセキュリティ】** フィールドで設定します。

CAS 信用レベルはアプリケーション実行が割り当てられるセキュリティゾーンであり、アプリケーションがアクセスするサーバーリソースを定義します。

---

**重要：** アセンブリが低すぎる信用レベルを割り当てた場合は正しく機能しません。許可レベルの詳細については

[http://msdn.microsoft.com/library/jp-jp/dnnetsec/html/THCMCh09.asp?frame=true#c09618429\\_010](http://msdn.microsoft.com/library/jp-jp/dnnetsec/html/THCMCh09.asp?frame=true#c09618429_010) をご参照ください。

---

10. [スクリプトライブラリ設定] フィールドで補助スクリプトの使用を有効にします。Webサイトで検証Webコントロールが使用されている場合はスクリプトライブラリ設定を必要と指定します。このオプションはASP.NET 1.1.xでのみ有効です。
- 補助スクリプト（具体的には、入力データ検証用オブジェクトを実行するスクリプト）を使用する必要がある場合は、.NET フレームワークスクリプトライブラリの設定を提供してください。それには、ドメインのルートディレクトリで始まるパスをスラッシュの後に [Microsoft スクリプトライブラリへのパス] フィールドに入力するか、[Microsoft スクリプトライブラリへのパス] フィールドの隣のフォルダアイコンをクリックして必要なロケーションを検索します。
  - スクリプトを含むファイルを特定のロケーションへ自動インストールするには、[インストール] チェックボックスを選択します。ファイルが既にそこにある場合は上書きされます。
11. クライアントセッションパラメータを [セッション設定] フィールドで設定します。
- アプリケーションのデフォルト認証モードをセットアップするには、[認証モード] 一覧から適切な項目を選択します。IIS 認証のフォームを使用している場合は [Windows] 認証モードを選択してください。
  - セッションが停止せずにアイドル状態でいられる時間をセットアップするには、適切な分数を [セッションタイムアウト] フィールドに入力します。
12. [OK] をクリックすると、変更した内容がすべて適用されます。

---

注：Parallels Plesk Panel は .NET フレームワークの異なるバージョン（1.1.x および 2.0.x）の設定を別々にサポートしています。

---

## デフォルト ASP.NET 設定の復元

- デフォルト ASP.NET 設定を復元するには以下を実行してください。
1. ホームページからドメイン名をクリックします。
  2. [ホスティング] グループの [ASP.NET設定] をクリックします。
  3. [リセット] をクリックします。
  4. 復元を確認して [OK] をクリックします。

## ドメインの .NET フレームワークのバージョン変更

Parallels Plesk Panel は .NET フレームワークのバージョン 1.1.x および 2.0.x の両方をサポートしているため、ドメインベースごとにドメインが使用するバージョンを選択することが可能です。

➤ **ドメインの .NET フレームワークのバージョンを変更するには以下を実行してください。**

1. ホームページからドメイン名をクリックします。
2. [ホスティング] グループの [ASP.NET設定] をクリックします。
3. [ツール] グループの [バージョンの変更] をクリックします。このボタンがない場合は、.NETフレームワークの有効なバージョンは1つだけです。 [フレームワークバージョン] フィールドにバージョン番号が表示されます。
4. 必要なバージョン番号を選択し [OK] をクリックします。
5. [OK] をクリックして変更を保存します。

その代わりに、ホームページで必要なドメイン名をクリックして[設定]をクリックし、 [Microsoft ASP.NET サポート] ドロップダウンメニューで .NET フレームワークバージョンを選択します。

## 仮想ディレクトリの .NET フレームワークのバージョン変更

1つのドメイン名で異なるバージョンの .NET フレームワークを使用する ASP.NET アプリケーションを実行するため、Parallels Plesk Panel はアプリケーションが配置されている仮想 (Web) ディレクトリごとにフレームワークバージョンを設定することが可能です。

➤ **仮想 (Web) ディレクトリの .NET フレームワークのバージョンを選択するには以下を実行してください。**

1. ホームページからドメイン名をクリックします。
2. [ホスティング] グループの [Webディレクトリ] をクリックします。
3. Webディレクトリを入力して [ツール] グループの [ASP.NET設定] をクリックします。
4. .NETフレームワークバージョンを選択し、必要に応じて他の設定を変更します。
5. [OK] をクリックします。

---

## ドメインの PHP バージョンの設定 (Windows ホスティング)

➤ **ドメインの PHP バージョンを設定するには以下を実行してください。**

1. ホームページで一覧から必要なドメイン名をクリックします。
2. [PHP設定] をクリックします。
3. PHPのバージョンを選択し [OK] をクリックします。

---

## データベースの配置

Web サーバにデータ処理アプリケーションを組み込むか、Web ページをダイナミックに生成させたい場合には、データを格納し検索するためのデータベースが必要になることでしょう。その場合、サイト用に新しいデータベースを作成するか、または以前に MySQL、PostgreSQL、または Microsoft SQL データベースにバックアップしたデータを取り込むことが可能です。

### このセクションの内容:

データベースの作成またはインポート.....	81
データベースユーザアカウントの作成.....	82
データベースユーザパスワードの変更.....	83
データベースユーザアカウントの削除.....	83
データベースの削除.....	83



## データベースの作成またはインポート

- **ホスティングアカウントに新しいデータベースを作成するには、以下を実行してください。**
  1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [データベース] に進み、[新しいデータベースの追加] をクリックします。
  2. データベースの名前を入力します。  
名前は、欧文アルファベットで始まり英数字とアンダースコアだけ使用したものにするをお奨めします（64文字まで）。
  3. 使用するデータベースタイプを選択します。MySQL、PostgreSQL、またはMicrosoft SQLサーバです。
  4. 選択したタイプのデータベースサーバを一覧から選択します。[OK] をクリックします。
  5. データベース管理者の信用情報を設定するには、[新しいデータベースユーザの追加] をクリックします。
  6. データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。
  7. [OK] をクリックします。
  
- **既存のデータベースを取り込むには、以下の操作を実行します。**
  1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [データベース] に進み、[新しいデータベースの追加] をクリックします。
  2. データベースの名前を入力します。名前は、欧文アルファベットで始まり英数字とアンダースコアだけ使用したものにするをお奨めします（64文字まで）。
  3. 使用するデータベースタイプを選択します。MySQL、PostgreSQL、またはMicrosoft SQLサーバです。 [OK] をクリックします。
  4. データベース管理者の信用情報を設定するには、[新しいデータベースユーザの追加] をクリックします。
  5. データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。 [OK] をクリックします。

6. [ツール] グループの [DB WebAdmin] アイコンをクリックします。phpMyAdmin、phpPgAdmin、またはASPEnterpriseManagerデータベース管理ツールのインターフェースが別のブラウザウィンドウに開きます。

MySQL データベースがある場合は、以下を実行してください。

- a. 左フレームの [クエリウィンドウ] をクリックして、[ファイルのインポート] タブをクリックします。
- b. データが含まれているテキストファイルを選択し、[Go!] をクリックします。
- c. [テキストファイルよりデータを挿入する] リンクをクリックします。

MS SQL データベースがある場合は、以下を実行してください。

- a. 左フレームでデータベース名をクリックします。
- b. [クエリ] (虫メガネのボタン) をクリックします。
- c. テキストエリアにスクリプトのテキストをコピーして [クエリの実行] をクリックします。

データベースおよびそのコンテンツを管理するには、MySQL、PostgreSQL、Microsoft SQL サーバや Parallels Plesk Panel からアクセスできる Web ベースのデータベース管理ツール ([ドメイン] > *ドメイン名* > [データベース] > *データベース名* > [WebAdmin]) を使用してください。

## データベースユーザアカウントの作成

Web サイトの管理を他の人たちと協力して行い、皆がデータベースにアクセスできるようにするには、別々のユーザアカウントを作成する必要があります。

- **データベースユーザアカウントを作成するには、以下を実行します。**
1. [ドメイン] > *ドメイン名* > [データベース] > *データベース名* に進み、[新しいデータベースユーザを追加] をクリックします。
  2. データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。 [OK] をクリックします。

## データベースユーザパスワードの変更

- データベースユーザのパスワードを変更するには、以下を実行してください。
- 1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース] > データベース名 > データベースユーザ名に進みます。
- 2. 新しいパスワードを入力し [OK] をクリックします。

## データベースユーザアカウントの削除

- データベースユーザアカウントを削除するには、以下を実行します。
- 1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース] > データベース名に進みます。
- 2. 削除するユーザアカウントのチェックボックスを選択します。
- 3. [削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

## データベースの削除

- データベースとそのコンテンツを削除するには、以下を実行します。
- 1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース] に進みます。
- 2. 削除するデータベースのチェックボックスを選択します。  
チェックボックスが灰色に表示された場合、これはこのデータベースが Web アプリケーションによって使用され、それぞれのアプリケーションをアンインストールすることによってのみ削除できることを意味します。
- 3. [削除] をクリックします。
- 4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

---

## 外部データベース（Windows ホスティング）からデータにアクセス

外部データベース管理システムからのデータにアクセスしたい場合は、Parallels Plesk Panel を介して ODBC 接続を作成する必要があります。

### このセクションの内容:

外部データベースへの接続の作成.....	84
既存の ODBC 接続設定の変更.....	85
外部データベースへの接続の削除.....	85

## 外部データベースへの接続の作成

Web アプリケーションがデータの格納に外部データベースを使用できるようにするには、外部データベースへの接続を作成する必要があります。

➤ **外部データベースへの ODBC 接続を作成するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ODBCデータソース] に進みます。
2. [新しいODBC DSNの追加] をクリックします。
3. ODBC接続名およびその説明を該当するフィールドに指定します。
4. [ドライバ] フィールドに必要なドライバを指定します。
5. [OK] をクリックします。
6. ドライバ設定画面で適切なオプションを選択します。通常、データベースへのパスと、ユーザ認証と、選択したドライバによって他の接続オプションを指定します。
7. [テスト] をクリックしてその設定で接続できるかどうかを確認します。  
[終了] をクリックして作成を完了します。

## 既存の ODBC 接続設定の変更

- **既存の ODBC 接続設定を変更するには以下を実行してください。**
1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ODBCデータソース] に進みます。
  2. 一覧から必要な接続名をクリックします。
  3. 必要に応じて設定を変更します。
  4. [テスト] をクリックして新規設定で接続できるかどうかを確認します。  
[終了] をクリックして変更を保存します。

## 外部データベースへの接続の削除

- **不要な ODBC 接続を削除するには以下を実行してください。**
1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ODBCデータソース] に進みます。
  2. 削除する接続に対応するチェックボックスを選びます。
  3. [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

---

## Adobe ColdFusion のデータソース名の設定 (Windows ホスティング)

Adobe ColdFusion をご利用の場合は、ColdFusion のデータソース名 (DSN) を Parallels Plesk Panel で設定できます。データソース名によって ColdFusion Web アプリケーションは、アプリケーションデータを処理して保存するためのローカルおよびリモートデータベースを使用できます。

### このセクションの内容:

新規データソース名の作成 .....	86
データソース名の設定の変更 .....	86
データソース名の削除 .....	87

## 新規データソース名の作成

- **ドメインの Adobe ColdFusion の新規データソース名を作成するには以下を実行してください。**
1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ColdFusion DSN] に進んで [新しいColdFusion DSNの追加] をクリックします。
  2. データソース名を指定し、[ドライバ] メニューからこのデータソースに必要なドライバを選択します。 [次へ>>] をクリックします。
  3. ドライバ設定画面で適切なオプションを選択します。通常、データベースへのパスと、ユーザ認証と、選択したドライバによって他の接続オプションを指定します。ドライバの設定オプションの詳細はAdobe ColdFusion文書をご参照ください。
  4. [OK] をクリックして終了します。

## データソース名の設定の変更

- **ドメインの Adobe ColdFusion のデータソース名の設定を変更するには以下を実行してください。**
1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ColdFusion DSN] に進み、一覧から変更したいデータソース名をクリックします。
  2. データソース名を指定し、ドライバメニューからこのデータソースに必要なドライバを選択します。 [次へ >>] をクリックします。
  3. ドライバ設定画面で適切なオプションを選択します。通常、データベースへのパスと、ユーザ認証と、選択したドライバによって他の接続オプションを指定します。ドライバの設定オプションの詳細はAdobe ColdFusion文書をご参照ください。
  4. [OK] をクリックします。


## データソース名の削除

- 不要な ColdFusion DSN 接続を削除するには以下を実行してください。
  1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ColdFusion DSN] に進みます。
  2. 削除したいDNS接続に対応するチェックボックスを選びます。
  3. [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

## アプリケーションのインストール

Webサイトをゲストブック、フォーラム、カウンター、フォトギャラリー、Eコマースソリューションなどの価値ある機能を持ったものとするために、コントロールパネルのアプリケーションヴォルト（[ドメイン] > *ドメイン名* > [Webアプリケーション]）から各アプリケーションをインストールできます。インストール可能なアプリケーションの数や種類はプロバイダの意向やホスティングプランによります。

➤ **サイトにアプリケーションをインストールするには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > *ドメイン名* > [Webアプリケーション] に進みます。サイトにインストールされているアプリケーションのリストが表示されます。
2. [ツール] グループの [新しいレコードを追加] アイコンをクリックします。
3. 左メニューで、アプリケーションが属するカテゴリを選択します。
4. 一覧からアプリケーションを選択して  [インストール] をクリックします。
5. 一部のアプリケーションはライセンス契約を表示します。ライセンス契約を熟読し、同意した場合は [承認します] チェックボックスを選択して [次へ >>] をクリックします。
6. アプリケーションにハイパーリンクを作成し、コントロールパネルに設置するかどうかを指定します。
7. アプリケーションが要求するインストールのプリファレンスや他の情報を指定します（必要な条件はアプリケーションによって異なります）。[インストール] をクリックします。
8. コントロールパネル内にハイパーリンクボタンを作成する場合は、そのプロパティを指定してください。
  - [ボタンラベル] ボックスに、ボタンに表示されるテキストを入力します。
  - ボタンの配置場所を選択します。各ドメイン管理画面（[ドメイン] > *ドメイン名*）上に配置するには、配置場所として [ドメイン管理ページ] 値を選択します。ホームページの左フレーム（ナビゲーションペイン）に貼付するにはナビゲーションペインの値を選択します。
  - ボタンの優先度を指定します。作成したボタンは、その優先度に従ってコントロールパネル上に配置されます。数字が小さいほど優先度が高くなります。ボタンは左から右へ並べられます。




- ボタン背景に画像を使用するには、その画像の保存場所へのパスを入力するか、**【参照】** をクリックしてそのファイルを参照します。ナビゲーションペインに配置するボタンの画像は 16 × 16 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを、メインフレームに配置するボタンの画像には 32 × 32 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを使用するようお奨めします。
- **【URL ボックス】** ボックスにボタンへ付加するハイパーリンクを入力します。
- チェックボックスを使用して、URL 内に転送されるドメイン ID やドメイン名などのデータを含むかどうか指定します。これらの情報は外部の Web アプリケーションで使用できます。
- **【マウスオーバーヘルプ】** 入力フィールドには、ユーザがマウスをボタンの上にのせた際に表示されるテキストを入力します。
- 指定した URL をコントロールパネルの右側のフレームで開きたい場合は、**【コントロールパネル内にて開く URL】** チェックボックスをチェックしてください。このチェックボックスをチェックしないと、URL は別の新しいウィンドウで開くこととなります。
- 特定のドメイン所有者やメールユーザからも見えるようにするには、**【全てのサブログインに表示】** チェックボックスをチェックします。


9. 作成を完了したら **【OK】** をクリックします。

以上でアプリケーションがインストールされ、サイトの Web ページ（例えばホームページ）にこのアプリケーションへのリンクを挿入できます。ここでリンクを挿入しないと、このアプリケーションを利用するためにはいつも、長すぎて覚えられない URL を入力しなければなりません。

➤ **アプリケーションの Web インターフェースにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。**

- ブラウザに URL を入力します。例えば、以下のようになります。  
<http://your-domain.com/forum/>
- **【ドメイン】 > ドメイン名 > 【Web アプリケーション】** に行き、希望のアプリケーションに対応するアイコン  をクリックします。
- アプリケーションをインストールするとき、Parallels Plesk Panel にハイパーリンクボタンを追加するには、ドメイン管理画面（**【ドメイン】 > ドメイン名**）またはナビゲーションペインにある各ボタンをクリックします。

➤ **アプリケーションを再構成するには、アプリケーション管理者のパスワードを変更するか、市販のアプリケーションのライセンスキーをインストールします。**

1. **【ドメイン】 > ドメイン名 > 【Web アプリケーション】** に進みます。
2. アプリケーションに対応する  アイコンをクリックします。

➤ **アプリケーションを新しいバージョン（サーバ上であれば）にアップグレードするには、以下を実行してください。**


1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webアプリケーション] に進みます。
2. [U] 列で該当のショートカットをクリックします。

➤ **アプリケーションをアンインストールするには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webアプリケーション] に進み、必要のないアプリケーションに対応するチェックボックスを選択します。
2. [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。アプリケーションは削除され、そのデータベースもサーバから削除されます。

誰かがサイトを訪れたときに特定の Web アプリケーションが起動するように設定するには、デフォルトドメインアプリケーションを作成します。

➤ **アプリケーションをドメインのデフォルトに設定するには、以下を実行してください（Windows ホスティングに対してのみ有効です）。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webアプリケーション] に進みます。
2. デフォルトに設定したい Web アプリケーションに対応するチェックボックスを選択して  [デフォルト] をクリックします。確認のため [OK] をクリックします。

これで、ユーザがサイトを訪問すると、デフォルト Web アプリケーションのページに行くようになりました。

## このセクションの内容:

Java Web アプリケーションのインストール .....	91
ASP.NET Web アプリケーションのインストール（Windows ホスティング）	93
Ruby Web アプリケーションのインストール（Linux ホスティング） .....	95

## Java Web アプリケーションのインストール

Java Web アプリケーションパッケージを Web アーカイブ形式 (WAR) でインストールできます。これらの Java アプリケーションは Parallels Plesk Panel には同梱されておきませんので、別途入手する必要があります。

➤ **Java Web アプリケーションをインストールするには以下を実行してください。**




1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Javaアプリケーション] に進み、[スイッチオン] をクリックします。  
すると、Web サーバと連動する Java コードに環境を提供する Tomcat サービスが開始します。
2. [新しいアプリケーションをインストール] をクリックします。
3. インストールしたいアプリケーションパッケージへのパスを指定するか（コンピュータのハードドライブに保存している WAR 形式のアプリケーションパッケージでも構いません）、[参照] をクリックして検索し、[OK] をクリックします。

これで Java アプリケーションはインストールされ、そのアプリケーションのリストにそれぞれの項目が追加されます([ドメイン] > **ドメイン名** > [Java アプリケーション])。

➤ **Java Web アプリケーションの Web インターフェースにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。**

- [ドメイン] > **ドメイン名** > [Java アプリケーション] に進み、[パス] 列にあるそれぞれのハイパーリンクをクリックします。
- ブラウザに URL を入力します。例えば、以下のようになります。  
<http://your-domain.com:9080/storefront/>

➤ **Java Web アプリケーションを停止、開始、再開するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Javaアプリケーション] に進みます。インストールされたアプリケーションのリストが開きます。
2. リストでアプリケーションを検索し、リストの右側にあるアイコンを使用して必要な操作を行ってください。
  - アプリケーションを起動するには、アイコン  をクリックします。
  - アプリケーションを停止するには、アイコン  をクリックします。
  - アプリケーションを再起動するには、アイコン  をクリックします。

➤ **Java Web アプリケーションをアンインストールするには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Javaアプリケーション] に進みます。
2. 不要になったアプリケーションに対応するチェックボックスを選択します。 [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

アプリケーションは削除され、そのデータベースもサーバから削除されます。

## ASP.NET Web アプリケーションのインストール (Windows ホスティング)


アプリケーションヴォルトからのアプリケーションおよび Java Web アプリケーションに加え、Parallels Plesk Panel に搭載されている ASP.NET Web アプリケーションのインストール Web アプリケーションパッケージをインストールできます。

➤ **サイトにアプリケーションをインストールするには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web アプリケーション] > [ASP.NET 1.1 アプリケーション] に進みます。

サイトにインストールされている ASP.NET 1.1 Web アプリケーションのリストが表示されます。


2. [ツール] グループの [新しいアプリケーションのインストール] をクリックします。インストール可能な Web アプリケーションの一覧が表示されます。インストールするアプリケーションを指定するには、アプリケーションに対応するラジオボタンを選択します。

3.  [インストール] をクリックします。


4. アプリケーションがインストールされるドメインフォルダーとアプリケーションのデータベース名を指定して、[インストール] をクリックします。

以上でアプリケーションがインストールされ、サイトの Web ページ（例えばホームページ）にこのアプリケーションへのリンクを挿入できます。ここでリンクを挿入しないと、このアプリケーションを利用するためにはいつも、長すぎて覚えられない URL を入力しなければなりません。

➤ **アプリケーションの Web インターフェースにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。**

- ブラウザに URL を入力します。例えば、以下のようになります。  
<http://your-domain.com/forum/>
- [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web アプリケーション] > [ASP.NET 1.1 アプリケーション] に進み、アプリケーションに対応するアイコン  をクリックします。

➤ **アプリケーションを再構成したりアプリケーション管理者のパスワードを変更するには、以下を実行してください。**

[ドメイン] > **ドメイン名** > [Web アプリケーション] > [ASP.NET 1.1 アプリケーション] に進み、アプリケーションに対応するアイコン  をクリックします。

➤ **アプリケーションをアンインストールするには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webアプリケーション] > [ASP.NET 1.1アプリケーション] に進み、必要のないアプリケーションに対応するチェックボックスを選択します。
2. [削除] をクリックします。アプリケーションは削除され、そのデータベースもサーバから削除されます。

誰かがサイトを訪れたときに特定の Web アプリケーションが起動するように設定するには、デフォルトドメインアプリケーションを作成します。

➤ **アプリケーションをドメインのデフォルトに設定するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webアプリケーション] > [ASP.NET 1.1アプリケーション] に進みます。

サイトにインストールされているアプリケーションパッケージのリストが表示されます。

2. デフォルトに設定するアプリケーションパッケージに対応するチェックボックスを選択し  [デフォルト] をクリックします。デフォルト Web アプリケーションの作成を確認して [OK] をクリックします。

これで、ユーザがサイトを訪問すると、デフォルト Web アプリケーションのページに行くようになります。

# Ruby Web アプリケーションのインストール (Linux ホスティング)

Ruby プログラミング言語で開発されたカスタム Web アプリケーションをサイトにインストールすることができます。

➤ **Ruby で記述されたアプリケーションをサイトにインストールするには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webホスティング設定] に進みます。
2. [CGI] および [FastCGI] チェックボックスを選択して [OK] をクリックします。
3. FTPアカウントに接続して /httpdocsディレクトリに変更し、アプリケーションファイルを置くサブディレクトリを作成します。ここではそのディレクトリを分かりやすいように <your\_application> とします。
4. アプリケーションファイルをhttpdocs/<your\_application> ディレクトリにアップロードします。
5. アプリケーションディレクトリでreadmeファイルを検索します。このファイルの指示に従って、アプリケーションをインストールします。追加のRubyモジュールまたはOSコンポーネントのインストールが必要な場合があることにご注意ください。そのような場合は、ホスティングサービスプロバイダまたはサーバ管理者にご連絡ください。
6. SSH経由でサーバシェルにログインして、コマンド  
cd  
/<path\_to\_virtual\_hosts>/<your\_domain\_name>/httpdocs;  
mv <your\_application> <your\_application>.real; ln -s  
<your\_application>.real/public <your\_application> を実行します。

ここで、<path\_to\_virtual\_hosts> は仮想ホストの構成ファイルがあるディレクトリへのパス、<your\_domain\_name> はドメインの名前、そして <your\_application> は Ruby アプリケーションがあるディレクトリです。

サーバシェルへのアクセス権限がない場合は、サーバ管理者またはホスティングサービスプロバイダに依頼してこのステップを実行してもらってください。

7. ディレクトリ  
<your\_domain\_name>/httpdocs/<your\_application>/publicにファイルを .htaccessという名前で作成し、お好きなテキストエディタで開き以下の行を追加します。

```
AddHandler fcgid-script .fcgi
```

```
Options +FollowSymLinks +ExecCGI
RewriteEngine On
RewriteBase /<your_application>
RewriteRule ^$ index.html [QSA]
RewriteRule ^([\^.]*)$ $1.html [QSA]
RewriteCond %{REQUEST_FILENAME} !-f
RewriteRule ^(.*)$ dispatch.fcgi [QSA,L]
ErrorDocument 500 "<h2>Application error</h2>Rails application
failed to start properly"
```

8. ファイルを保存します。
9. ファイル `public/dispatch.fcgi` に、Ruby インタープリタへの正しいパスが指定されていることを確認します。 コマンド `head -n1 dispatch.fcgi` および `which ruby` を実行します。 このコマンドは両方とも同じ値を返す筈です。

これで Web アプリケーションが以下の URL からアクセスできるようになります。

[http://your-domain.com/your\\_application](http://your-domain.com/your_application)



---

## IIS アプリケーションプールの使用

IIS アプリケーションプールにはドメイン上のすべての Web アプリケーションがあります。サービスプロバイダから専用 IIS アプリケーションプールしか与えられていない場合、自分のドメインで使用する Web アプリケーションと、同じサーバで Web サイトをホスティングしている他のドメイン所有者が使用する Web アプリケーション間で独立性を保つことが許されます。各アプリケーションプールは独立して動作するので、あるアプリケーションプールでエラーが発生しても他のアプリケーションプールで動作しているアプリケーションに影響を及ぼすことはありません。

一度アプリケーションプールを有効化すると、ドメイン上のすべての Web アプリケーションはそれを使用します。

アプリケーションプールで動作中のすべてのアプリケーションを停止するには、ホームページで [IIS アプリケーションプール] をクリックして [停止] をクリックします。

アプリケーションプールのすべてのアプリケーションを開始するには、ホームページで [IIS アプリケーションプール] をクリックして [開始] をクリックします。

アプリケーションプールで動作中のすべてのアプリケーションを再開するには、ホームページで [IIS アプリケーションプール] をクリックして [リサイクル] をクリックします。これは、アプリケーションにメモリーリークがあったり長時間動作すると不安定になったりする場合などに便利です。

### このセクションの内容:

IIS アプリケーションプールの設定 .....	98
IIS アプリケーションプールの無効化 .....	99

## IIS アプリケーションプールの設定

➤ **ドメインの IIS アプリケーションプールを有効にするには以下を実行してください。**

1. ホームページで、ドメインをリストから選択します。
2. [IISアプリケーションプール] をクリックします。
3. [スイッチオン] をクリックします。
4. ドメインのアプリケーションプールが使用できるCPUリソースの量を制限するには、[CPUモニタリングの有効化] チェックボックスを選択して [最大CPU使用率 (%)] フィールドにパーセントで数を指定します。
5. [OK] をクリックします。

➤ **すべてのドメインの IIS アプリケーションプールを有効にするには以下を実行してください。**

1. ホームページで [IISアプリケーションプール] をクリックします。
2. [スイッチオン] をクリックします。
3. すべてのドメインのアプリケーションプールが使用できるCPUリソースの量を制限するには、[CPUモニタリングをスイッチオンする] チェックボックスを選択して [最大CPU使用率 (%)] フィールドにパーセントで数を指定します。
4. [OK] をクリックします。

## IIS アプリケーションプールの無効化

➤ **ドメインの IIS アプリケーションプールを無効にするには以下を実行してください。**

1. ホームページで、ドメインをリストから選択します。
2. [IISアプリケーションプール] をクリックします。
3. [スイッチオフ] をクリックします。
4. [OK] をクリックします。

➤ **すべてのドメインの IIS アプリケーションプールを無効にするには以下を実行してください。**

1. ホームページで [IISアプリケーションプール] をクリックします。
2. [スイッチオフ] をクリックします。
3. [OK] をクリックします。

---

# Google ウェブサイト サービスの使用法

Panel 内のリンクから、サイトに Google カスタム検索エンジンを挿入するコードを生成し、ウェブマスターツールでウェブサイトを Google に送信して、AdSense プログラムに登録することができます。

Google カスタム検索とは、Google が提供する検索エンジンです。サイトに検索機能を追加して、ウェブサイトを検索結果ページに表示します。個人および非営利団体のウェブサイトが無料で利用できます。営利団体がカスタム検索を使用する場合は、Google の広告が掲載されたカスタム検索エンジンを使用するか、あるいは Google Site Search サービスを契約します（1 年あたり \$100 より）。Google Site Search の詳細や価格については、<http://www.google.com/sitesearch> を参照してください。

Google ウェブマスター ツールでは、ウェブマスターがウェブサイトを Google に送信して、検索統計を表示します。ウェブマスターツールの詳細については、<http://www.google.com/support/webmasters/?hl=en> を参照してください。

Google AdSense では、指定した Google の広告をウェブサイトに表示することで収益を得ることができます。AdSense の詳細については、<https://www.google.com/adsense/login/en/> を参照してください。

Google サービスを使用する前に、Google のご利用条件に同意し、サイトの所有権を確認する必要があります。

➤ **Google のご利用条件に同意し、サイトの所有権を確認するには、以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [Google ウェブサイト サービス] リンクをクリックします。
2. Panel でご利用条件のリンクをクリックします。
3. チェックボックスを選択して同意します。

これで、以下を実行できます。

- [Google ウェブマスター ツール] をクリックするとサイトが Google に送信され、サイトの認知度が向上します。
- [新しいカスタム検索エンジンの追加] をクリックして、サイトに検索機能を追加します。
- [Google AdSense] をクリックして、AdSense プログラムに登録します。

➤ **Google にサイトを送信するには、以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインで [Googleウェブサイト サービス] リンクをクリックするか、[ホーム] > [Googleウェブサイト サービス] をクリックします。
2. [Googleウェブマスター ツール] をクリックします。  
[Google ウェブマスター ツール] エリアが別のブラウザウィンドウまたはタブに表示されます。
3. <http://www.google.com/support/webmasters/bin/answer.py?hl=en&answer=156184>の指示に従ってサイトマップを作成し、それをGoogleに送信します。

➤ **サイトのカスタム検索エンジンを追加するには、以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインで [Googleウェブサイト サービス] リンクをクリックするか、[ホーム] > [Googleウェブサイト サービス] をクリックします。
2. [カスタムサイト検索] をクリックします。
3. [新しいカスタム検索エンジンの追加] をクリックします。
4. 検索エンジン名を入力して、ウェブサイトを選択します。
5. ご利用条件に同意して [OK] をクリックします。  
新しい検索エンジンに関する記録が Panel に追加されます。
6. [コードの取得] リンクをクリックして、生成したコードをクリップボードにコピーして、それをウェブサイトページのソースコードに貼り付けます。

カスタム検索エンジンの他のリンクは、以下を実行します。

- **収益を得る。** カスタム検索エンジンを Google AdSense アカウントに接続します。ユーザが広告をクリックして表示すると収益が得られます。カスタム検索エンジンが複数ある場合は、検索エンジンはすべて自動的に同じ AdSense アカウントに関連付けられます。
- **管理する。** カスタム検索エンジンを管理します。
- **デザインを変更する。** 検索ボックスと検索結果ページのデザインを変更します。
- **アップグレードする。** カスタム検索エンジンを無料広告の Google Site Search にアップグレードします。
- **統計。** サイト検索レポートのレビューを行います。
- **削除する。** カスタム検索エンジンを削除します。

➤ **Google AdSense プログラムに参加するには、以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインで [Googleウェブサイト サービス] リンクをクリックするか、 [ホーム] > [Googleウェブサイト サービス] をクリックします。
2. [Google AdSense] をクリックします。
3. [Google AdSense] アカウントをクリックします。
4. 必要事項を入力して新しいAdSenseアカウントを作成するか、既存のアカウントを選択して、 [OK] をクリックします。  
詳細を記載した確認メールが送信されます。

---

## Web サイトの保護

この章では、ホスティングしている Web サイトの保護対策について説明します。

### このセクションの内容:

SSL (セキュアソケットレイヤー) 暗号化による E-コマーストランザクションの保護 .....	103
サイトの帯域幅使用量の制限 .....	111
サイトへの同時接続の制限 .....	112
サイトを帯域幅流用から保護 (Windows ホスティング) .....	112
パスワード保護による Web サイトのリソースへのアクセス制限 .....	113
ファイルおよびディレクトリのアクセス権限の設定 (Linux ホスティング) ..	116
ファイルおよびディレクトリのアクセス権限の設定 (Windows ホスティング) .....	117

# SSL (セキュアソケットレイヤー) 暗号化による E-コマーストランザクションの保護

クライアントが E-コマースビジネスを運営している場合、クライアントのサイトと顧客間でのトランザクションを安全に行うことが必要です。クレジットカード番号やその他の個人情報など価値の高いデータが盗まれないようにするためには、Secure Sockets Layer プロトコルを使用してください。これはデータをすべて暗号化し、SSL 接続により安全に転送します。また、たとえ誰かが悪意でデータを傍受しても、そのデータを解読し使用することはできないでしょう。

Web サーバにセキュアソケットレイヤープロトコルを実装するには、信頼できる認証ベンダー（このようなベンダーを認証局という）から SSL 証明書を購入し、サイトにこの証明書をインストールしてください。SSL 保護を有効にするには、他の Web サイトと共有しない専用の IP アドレス上にサイトを設置する必要があります。

認証局は多くありますので、その中から選んでください。選択時には認証局の評判や信用性を考慮します。認証局の運営年数や顧客数などについて調べておくと、選択時に役立つことでしょう。

Parallels Plesk Panel では、Comodo、GeoTrust, Inc.、および GoDaddy から SSL 証明書を購入できるようになっています。

## このセクションの内容:

SSL 証明書を Comodo、GeoTrust, Inc.、または GoDaddy から入手してインストール .....	104
SSL 証明書を他の認証局から入手してインストール .....	106
無料の自己署名 SSL 証明書の作成およびインストール .....	108
証明書をサイトからアンインストール .....	109
他のドメインと共有の SSL 証明書の使用（Windows ホスティング） .....	110

## SSL 証明書を Comodo、GeoTrust, Inc.、または GoDaddy から入手してインストール

- **MyPleskCom オンラインストアを通じて SSL 証明書を購入し、サイトを保護するには、以下の操作を実行します。**
1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [SSL証明書] に進みます。リポジトリ内にある SSL 証明書のリストが表示されます。
  2. [SSL証明書の追加] をクリックします。
  3. 証明書のプロパティを指定します。
    - 証明書の名前。リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
    - 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
    - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
    - SSL 証明書を購入するドメインの名前の指定。省略形でないものにしてください。例：[www.your-domain.com](http://www.your-domain.com)
    - ドメイン管理者のメールアドレスの入力。
  4. この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
  5. [SSL証明書の購入] をクリックします。秘密鍵と証明書署名リクエストが生成されますので、これは削除しないでください。MyPlesk.com ログインページが新しいブラウザウィンドウで開きます。
  6. 既存の MyPlesk.com アカウントへ登録またはログインし、ステップバイステップの手順に従って証明書を購入します。
  7. 購入したい証明書の種類を選択します。
  8. [購入に進む] をクリックし、証明書を注文します。[承認者メールアドレス] ドロップダウンボックスで、正しい承認者メールアドレスを選択します。
  9. 承認者メールアドレスは、特定のドメイン名の証明書が権限を持つユーザによりリクエストされたことを確認するためのメールアドレスです。
  10. 証明書リクエストが処理されると確認のメールが送信されます。承認すると SSL 証明書がメールで送信されます。
  11. 受信した SSL 証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。



12. SSL証明書リポジトリへ戻ります（ [ドメイン] > *ドメイン名* > [SSL証明書] ）。
13. ページの中央にある [参照] をクリックし、保存された証明書のある場所へ行きます。 証明書をクリックし、 [ファイル送信] をクリックします。 対応する秘密鍵に対する証明書がアップロードされインストールされます。
14. ドメイン管理者画面に戻り（ [ドメイン] > *ドメイン名* ）、 [Webホスティング設定] をクリックします。
15. [証明書] メニューからインストールするSSL証明書を選択します。  
ご自身が共有ホスティングアカウントだった場合は [証明書] メニューが画面に表示されません。 その場合、ホスティングパッケージをアップグレードしてホスティングプロバイダから専用 IP アドレスを購入する必要があります。
16. [SSL対応] チェックボックスを選択し、 [OK] をクリックします。

## SSL 証明書を他の認証局から入手してインストール

- **他の認証局からの SSL 証明書を使用してサイトを保護するには、以下の操作を実行します。**
1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [SSL証明書] に進みます。リポジトリ内にある SSL 証明書のリストが表示されます。
  2. [SSL証明書の追加] をクリックします。
  3. 証明書のプロパティを指定します。
    - 証明書の名前。リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
    - 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
    - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
    - SSL 証明書を購入するドメインの名前の指定。省略形でないものにしてください。例：[www.your-domain.com](http://www.your-domain.com)
    - ドメイン管理者のメールアドレスを入力します。
  4. この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
  5. [リクエスト] をクリックします。秘密鍵と証明書署名リクエストが生成され、リポジトリに格納されます。
  6. 証明書一覧で、必要な証明書の名前をクリックします。証明書のプロパティを表示したページが開きます。
  7. ページ内で CSR セクションを検索し、テキストを -----BEGIN CERTIFICATE REQUEST----- から -----END CERTIFICATE REQUEST----- までクリップボードにコピーします。
  8. SSL 証明書を購入する証明書認証機関の Web サイトを開き、リンクを辿って証明書の注文処理を開始します。CSR テキストの入力を指示されたら、データをクリップボードからオンラインフォームに貼り付けて、[続行] をクリックします。入力した情報に基づいて、証明書認証機関が SSL 証明書を作成します。
  9. 受信した SSL 証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
  10. SSL 証明書リポジトリへ戻ります（[ドメイン] > **ドメイン名** > [SSL証明書]）。

11. ページの中央にある **【参照】** をクリックし、保存された証明書のある場所へ行きます。証明書をクリックし、**【ファイル送信】** をクリックします。対応する秘密鍵に対する証明書がアップロードされインストールされます。
12. ドメイン管理者画面に戻り（**【ドメイン】 > ドメイン名**）、**【Webホスティング設定】** をクリックします。
13. **【証明書】** メニューからインストールするSSL証明書を選択します。  
ご自身が共有ホスティングアカウントだった場合は**【証明書】**メニューが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレードしてプロバイダから専用 IP アドレスを購入する必要があります。
14. **【SSL対応】** チェックボックスを選択し、**【OK】** をクリックします。

## 無料の自己署名 SSL 証明書の作成およびインストール

SSL 証明書を購入したくないけれどもサイトをセキュアに保ちたい場合は、自己署名証明書を作成して Web サーバにインストールできます。この機能によりデータを暗号化できますが、顧客のブラウザには、認証された機関により証明書が発行されていないことを伝える警告メッセージが表示されます。このように、自己署名証明書の使用は顧客から信用を得られず、顧客のオンライン販売に悪影響を及ぼす可能性があるため、推奨されません。

### ➤ サイトを自己署名 SSL 証明書で保護するには、以下の操作を実行します。

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [SSL証明書] に進みます。リポジトリ内にある SSL 証明書のリストが表示されます。
2. [SSL証明書の追加] をクリックします。
3. 証明書のプロパティを指定します。
  - 証明書の名前。リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
  - 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
  - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
  - SSL 証明書を購入するドメイン名を指定します 例えば、以下のようになります。  
[www.your-domain.com](http://www.your-domain.com)
  - ドメイン所有者のメールアドレスを入力します。
4. [自己署名] をクリックします。証明書が生成され、リポジトリに格納されます。
5. ドメイン管理者画面に戻り（[ドメイン] > **ドメイン名**）、[Webホスティング設定] をクリックします。
6. [証明書] メニューから、自己署名 SSL 証明書を選択します。

ご自身が共有ホスティングアカウントだった場合は [証明書] メニューが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレードしてホスティングプロバイダから専用 IP アドレスを購入する必要があります。
7. [SSL対応] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

## 証明書をサイトからアンインストール

- **証明書をサイトからアンインストールし、SSL 保護を無効にするには、以下の操作を実行します。**
1. 削除する必要がある証明書が使用中でないことを確認します。
  2. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webホスティング設定] に進みます。 [証明書] メニューに、現在使用中のSSL証明書が表示されます。
  3. 削除が必要な証明書が現在使用中の場合は、まずこの証明書をリリースしてください。 [証明書] ドロップダウンボックスで別の証明書を選択し [OK] をクリックします。
  4. リポジトリから証明書を削除します。
  5. リポジトリから証明書を永久に削除するには、[ドメイン] > **ドメイン名** > [SSL証明書] に進みます。
  6. 不要になった証明書に対応するチェックボックスを選択し、[削除] アイコンをクリックします。
  7. 削除を確認して [OK] をクリックします。
  8. SSL対応が不要になった場合は、無効にします。 [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webホスティング設定] に進みます。
  9. [SSL対応] チェックボックスを解除し、[OK] をクリックします。

## 他のドメインと共有の SSL 証明書の使用 (Windows ホスティング)

共有 SSL は、SSL 証明書を購入しなくても SSL (セキュアソケットレイヤー) でサイトへのアクセスを保護するための手段です。共有 SSL を採用している SSL は、実際には他のドメインと共有している認証を使用しています。SSL 認証を共有しているドメインはマスター SSL ドメインと呼ばれています。

---

注：共有 SSL を使用するには、サーバ管理者または他のドメイン上の自分（権限がある場合）が、マスター SSL ドメインを設定する必要があります。

---

### ➤ マスター SSL ドメインを設定しドメインの共有 SSL を有効にするには以下を実行してください。

1. ホームページで [共有SSL] をクリックします。
2. [共有SSLをスイッチオンする] チェックボックスを選択します。
3. ドメイン名を選択します。自分でホスティングしており SSL が有効になっているドメインだけが一覧に表示されます。
4. [OK] をクリックします。
5. ここで、SSL 保護を必要とする各ドメインに対して共有 SSL リンクを作成する必要があります。 [ドメイン] > *ドメイン名* > [共有SSL] に進みます。
6. [共有SSLをスイッチオンする] チェックボックスを選択します。
7. 対応する入力フィールドに仮想ディレクトリ名を指定します。指定した名前前の仮想ディレクトリはマスター SSL ドメインに作成されます。このディレクトリは SSL 経由で貴社のサイトにアクセスするのに使用されます。

例えば、貴社が「mydomain.com」という名前前のドメインを持っていて、マスター SSL ドメインが「master\_ssl\_domain.com」と定義されていて、貴社が提供する仮想ディレクトリの名前が「my\_virtual\_dir」だとします。この場合、SSL 経由で貴社のサイトにアクセスするには以下のアドレスを使用します。

[https://master\\_ssl\\_domain.com/my\\_virtual\\_dir](https://master_ssl_domain.com/my_virtual_dir)

---

注：貴社が共有 SSL を使用している場合、貴社のドメイン名（例：mydomain.com）を使用して SSL 経由で貴社のサイトにアクセスすることはできません。

---

8. 保護されたコンテンツが置かれているドメインのディレクトリを指定してください。指定したディレクトリ内のドキュメントは SSL 経由でのみアクセス可能です。ターゲットディレクトリには httpdocs または httpsdocs のいずれかしか選択することはできません。

9. ドメインをSSL経由でのみアクセス可能にするには、**[SSLを必要とする]** チェックボックスを選択します。

10. **[OK]** をクリックします。

➤ **ドメインの共有SSLを無効にするには以下を実行してください。**

1. ホームページで **[共有SSL]** をクリックします。

2. **[共有SSLをスイッチオンする]** チェックボックスの選択を外します。

3. **[OK]** をクリックします。

## サイトの帯域幅使用量の制限

サイトの帯域幅使用量を制限して、リソース超過をもたらす帯域幅の過使用を防ぐことができます。

➤ **サイトの帯域幅を制限するには以下を実行してください。**

1. **[ドメイン] > ドメイン名 > [帯域幅制限]** に進みます。

2. **[帯域幅制限のスイッチオン]** チェックボックスを選択します。

3. ドメインがそのすべての接続を共有できる最高速（1秒あたりのKBで測定します）を **[最大帯域幅使用率 (KB/S)]** フィールドに入力します。

4. **[OK]** をクリックします。

## サイトへの同時接続の制限

サービス妨害を防ぎ帯域幅の使用超過を防ぐため、ドメインへの同時 Web 接続の上限数を設定することができます。

➤ **Web サイトへの同時接続の上限数を制限するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] **ドメイン名** > [帯域幅制限] に進みます。
2. [接続数制限をスイッチオンする] チェックボックスを選択します。
3. [コネクション制限数] フィールドに同時接続の上限数を入力します。
4. [OK] をクリックします。

## サイトを帯域幅流用から保護 (Windows ホスティング)

ホットリンク (ファイルリーチング、リモートリンキング、ダイレクトリンキング、帯域幅スチーリング、帯域幅流用などとも呼ばれます) とは、あるドメイン所有者の Web ページが、通常 <IMG> タグを使用して別のドメイン所有者の Web ページ上の画像 (もしくはその他のマルチメディアファイル) に直接リンクしていることを示す用語です。ドメインがホットリンクされていると、帯域幅使用量の超過という問題が起こります。

➤ **ドメインをホットリンクから保護するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ホットリンク保護] に進みます。
2. [スイッチオン] をクリックしてホットリンクからの保護を有効にします。
3. [防御するファイル拡張子] フィールドに、ホットリンクから保護したいファイルの拡張子 (例: jpg, bmp など) を指定します。複数のファイル拡張子を指定する場合はスペースで区切ります。
4. [OK] をクリックします。



# パスワード保護による Web サイトのリソースへのアクセス制限

許可されたユーザにのみ表示される URL がサイトにある場合、これらの URL へのアクセスをパスワード保護で制限します。

## このセクションの内容:

リソースの保護 .....	114
許可されたユーザの指定 .....	115
リソースの保護解除 .....	116

## リソースの保護

➤ **サイト内のディレクトリをパスワード保護し、許可されたユーザを指定するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] ドメイン名 > [パスワード保護ディレクトリ] に進みます。
2. [新しいディレクトリの追加] をクリックします。
3. パスワード保護の必要なディレクトリのパスを [ディレクトリ名] ボックスに指定します。

これは例えば `/private` のように、サイト内に存在するディレクトリになります。保護の必要なディレクトリが作成されていない場合、パスとディレクトリ名を指定すると、Parallels Plesk Panel が自動的に作成します。

4. パスワードで保護されたディレクトリの現在または今後の配置先（別名ドキュメントroot）を指定します（Linuxホスティングに限り使用可能）。例えば、以下のようになります。
  - `httpdocs/private` ディレクトリを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスに「`/private`」と入力し [非 SSL] チェックボックスを選択します。
  - `httpdocs/private` ディレクトリを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスに「`/private`」と入力し [SSL] チェックボックスを選択します。
  - `cgi-bin` ディレクトリに保存された CGI スクリプトを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスの「`/`」をそのままにして [cgi-bin] チェックボックスを選択します。スラッシュ記号の後に空白は入っていないか確認してください。空白が入っている場合、空白を含む名前保護付きディレクトリが作成されます。
5. [ヘッダーテキスト] ボックスに、リソースの詳細または管理者の顧客が保護付き領域を訪問したときに表示されるウェルカムメッセージを入力します。
6. [OK] をクリックします。指定したディレクトリは保護されます。
7. 許可されたユーザを追加するには、[新規のユーザを追加] をクリックします。
8. 保護された領域へのアクセスに使用するログイン名とパスワードを指定します。パスワードには5~14個の記号を使用します。 [OK] をクリックします。
9. この保護されたリソースに対して、許可されたユーザを追加するには、ステップ7と8を繰り返します。

## 許可されたユーザの指定

➤ **保護されたディレクトリに認証ユーザを追加するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] ドメイン名 > [パスワード保護ディレクトリ] に進みます。
2. 必要なディレクトリ名をクリックします。
3. [新しいユーザの追加] をクリックします。
4. 保護された領域へのアクセスに使用するログイン名とパスワードを指定します。パスワードには5~14個の記号を使用します。
5. [OK] をクリックします。

➤ **保護されたディレクトリに許可されたユーザのパスワードを変更するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] ドメイン名 > [パスワード保護ディレクトリ] に進みます。
2. 必要なディレクトリ名をクリックします。許可されたユーザのリストが開きます。
3. ユーザ名をクリックします。
4. 新しいパスワードを指定し、確認のために再入力します。
5. [OK] をクリックします。

➤ **ユーザが保護されたディレクトリにアクセスするための権限を無効にするには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] ドメイン名 > [パスワード保護ディレクトリ] に進みます。
2. 必要なディレクトリ名をクリックします。許可されたユーザのリストが開きます。
3. ユーザ名に対応するチェックボックスを選択します。
4. [削除] をクリックします。内容を確認して [OK] をクリックします。

## リソースの保護解除

- **パスワード保護を解除し、リソースを一般ユーザが利用できるようにするには、以下の操作を実行します。**
- 1. [ドメイン] ドメイン名 > [パスワード保護ディレクトリ]に進みます。パスワードで保護されたディレクトリのリストが開きます。
- 2. 保護を削除するディレクトリ名に対応するチェックボックスを選択します。
- 3. [削除] をクリックします。保護が削除され、ディレクトリの内容は無制限に一般に公開されます。

## ファイルおよびディレクトリのアクセス権限の設定 (Linux ホスティング)

- **ファイルおよびディレクトリの権限セットを確認または変更するには、以下を実行してください。**
- 1. [ドメイン] > ドメイン名に進みます。
- 2. [ファイルマネージャ] をクリックします。

権限は「`rwX rwX r--`」などの文字の組み合わせの3セットで表現されます。最初のセットはそのファイルまたはディレクトリの所有者がどのような権限を持つかを示しており、2番目のセットはそのファイルまたはディレクトリが属するユーザグループとそのグループがファイルまたはディレクトリに対して持つ権限、3番目のセットは他のユーザ（その際とを訪れたインターネットユーザなどのその他大勢）がファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を現しています。Rはファイルまたはディレクトリを読み取る権限、Wは書き込む権限、Xはディレクトリ内のファイルまたは内観を決定する権限をそれぞれ意味します。

ファイルまたはディレクトリに対する許可を変更するには、[パーミッション]の列でそのセットの許可を示すそれぞれのハイパーリンクをクリックします。必要に応じて権限を修正し [OK] をクリックします。

# ファイルおよびディレクトリのアクセス権限の設定 (Windows ホスティング)

Parallels Plesk Panel は特別な権限や権限継承を含むファイルおよびフォルダのアクセス権限の設定ファイルを提供しており、それは Windows インターフェースで提供される方法とよく似ています。

---

注：セキュリティ上の観点から、管理者、SYSTEM、および Parallels Plesk Panel ドメイン管理者の権限は変更または削除することができません。



---

## このセクションの内容:

グループおよびユーザのアクセス権限の設定および変更.....	118
グループおよびユーザのアクセス権限の削除 .....	119
ファイルおよびフォルダへのアクセス権限継承の設定 .....	120
特別なアクセス権限の設定、変更、削除 .....	121
仮想ディレクトリのアクセス権限の設定 .....	122
アクセス権限の修復 .....	122

## グループおよびユーザのアクセス権限の設定および変更

➤ **グループまたはユーザのアクセス権限を設定または変更するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ファイルマネージャ] に進みます。
2. 必要なファイルまたはフォルダに対応する  をクリックします。
  - グループまたはユーザの権限を変更または削除するには、その名前を [グループ または ユーザ名] 一覧からクリックします。
  - [グループ または ユーザ名] 一覧にないグループまたはユーザの権限を設定するには、上側のドロップダウンボックスから必要なグループまたはユーザの名前を選択して  をクリックします。すると一覧にユーザ/グループ表示されます。それを選択します。
3. 選択したユーザ/グループの権限を許可または拒否するには、[ユーザ/グループ名のパーミッション] に一覧表示された権限に対応する [許可] または [拒否] チェックボックスを選択します。

---



注： [許可] や [拒否] カラムのチェックボックスがグレー表示されていたら、その権限は親フォルダから継承されたものであることを意味します。

---


- 親フォルダから継承された権限を拒否するには、[拒否] から必要なチェックボックスを選択します。するとこのファイル/フォルダに関する継承された権限は上書きされます。
  - 親フォルダから「拒否」として継承された権限を許可するには、[親からこのオブジェクトおよびすべての子オブジェクトへの継承権限を許可する。ここで明確に定義したエントリも含む] チェックボックスを選択します。すると継承された権限が消去されます。それから [許可] および [拒否] で必要なチェックボックスを選択します。
4. [OK] をクリックします。

## グループおよびユーザのアクセス権限の削除


➤ グループおよびユーザのアクセス権限を削除するには以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ファイルマネージャ] に進みます。
2. 必要なファイルまたはフォルダに対応するアイコン  をクリックします。
3. [グループまたはユーザ名] 一覧から必要な名前を選択して、その隣の  をクリックします。


---

注:  アイコンは、親オブジェクトから継承された権限を持つ使用できないエントリに対して表示されます。

---

4. 必要なエントリを選択します。
5. [親からこのオブジェクトおよびすべての子オブジェクトへの継承権限を許可する。ここで明確に定義したエントリも含む] チェックボックスを選択します。
6. エントリをもう一度選択して  をクリックします。
7. [OK] をクリックします。

## ファイルおよびフォルダへのアクセス権限継承の設定




- ファイルおよびフォルダへのアクセス権限継承を設定するには以下を実行してください。
1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ファイルマネージャ] に進みます。
  2. 必要なファイルまたはフォルダに対応するアイコン  をクリックします。
  3. 親フォルダからのファイル/フォルダ継承権限がない場合は、[親からこのオブジェクトおよびすべての子オブジェクトへの継承権限を許可する。ここで明確に定義したエントリも含む] チェックボックスを選択します。
  4. このフォルダに含まれるファイルおよびフォルダが、ここで定義したフォルダ権限を継承するようにするには、[子オブジェクトに適用されるすべての子オブジェクトに対する権限エントリを置き換える] チェックボックスを選択します。
  5. [OK] をクリックします。



## 特別なアクセス権限の設定、変更、削除

フォルダ権限継承の高度な管理などの特別な権限を設定、変更、削除することもできます。【拡張】権限管理モードでは、各々異なる権限セットを持つ複数の権限エントリを1つのグループまたはユーザに結び付けることができます。また、【拡張】モードの権限リストはより詳細でファイル/フォルダのメンテナンスに大変役立ちます。Microsoft Windows インターフェイスにない権限も含まれていますが、ネイティブ Microsoft Windows 権限は維持しています。読み取りコントロール、書き出しコントロール、実行コントロールです。

➤ **ファイル/フォルダの特別な権限を設定、変更、削除するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ファイルマネージャ] に進みます。
2. 必要なファイルまたはフォルダに対応するアイコン  をクリックします。
3. 【拡張】をクリックします。
  - グループまたはユーザの権限エントリを作成するには、その名前を [グループまたはユーザ名] 一覧から選択して  をクリックします。
  - グループまたはユーザのファイル/フォルダ権限を設定または変更するには、その名前を [グループまたはユーザ名] 一覧から選択して [グループ/ユーザ名のパーミッション] の権限一覧に対応する [許可] または [拒否] チェックボックスを選択します。
  - グループまたはユーザの権限エントリを削除するには、その名前を [グループまたはユーザ名] 一覧から選択して  をクリックします。
  - フォルダの子オブジェクトが [グループ/ユーザのパーミッション] で定義した権限を継承するようにするには、[子オブジェクトに適用されるここに示すエントリを持つすべての子オブジェクトの権限エントリを置き換える] チェックボックスを選択して [適用] のチェックボックスを選択します。権限を継承させたいオブジェクトに対応するものをリストします。
4. [OK] をクリックします。

## 仮想ディレクトリのアクセス権限の設定

アクセス権限は仮想（Web）ディレクトリにも適用されます。


➤ **仮想ディレクトリのアクセス権限を設定するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [仮想ディレクトリ] に進みます。
2. Webサイト構造を参照して必要なディレクトリをクリックします。
3. [ツール] グループの [パーミッション] をクリックして前のセクションで説明した仮想ディレクトリのアクセス権限を設定します。

## アクセス権限の修復

サイト上のスクリプトが停止した場合は、定義に間違いがあったか、もしくはファイルおよびフォルダアクセス権限が壊れたせいかも知れません。まず正しいアクセス権限の確認および修復プロセスを実行してからスクリプトを復元することをお勧め致します。

➤ **正しいアクセス権限の確認および修復プロセスを実行しスクリプトを復元するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 権限を確認したいドメイン名に対応するチェックボックスを選択します。
3.  [パーミッションチェック] をクリックします。
4. 必要に応じて、設定を調整してください。
  - アクセス権限を確認して修復するには [チェックのみ] チェックボックスの選択を外します。 [チェックのみ] を選択したままにすると Read Only モードでチェックが行われてエラーレポートが作成されますが、修復はされません。
  - 確認および修復のレポートをメールで受け取るには、 [通知をメールで送信] チェックボックスの選択を残したままにして必要なメールアドレスをフィールドに指定します。
5. [OK] をクリックします。必要なオプションが設定されていれば、Parallels Plesk Panelは権限の確認および修復を開始します。このプロセスは、ドメインのファイルおよびフォルダ構造の複雑さによって長時間かかることがあります。

---

# サブドメインを含むサイト構造の編成

サブドメインは以下の作業を可能にする、補足的なドメイン名です。

- サイトの構造の論理的な編成
- 同じサーバ上の追加 Web サイトまたは Web サイトの一部をホストし、追加ドメイン名の登録に要する支払いを節減できます。

サブドメインを使用した例を以下に示します。

Web サイト `your-product.com` を、ソフトウェア製品の販売促進専用のサイトに設定しているとします。ユーザーズガイド、チュートリアル、よくある質問のリストを公開する場合、管理者のユーザがドメイン名 `userdocs.your-product.com` に直接アクセスしてオンラインドキュメントにアクセスできるように、サブドメイン「`userdocs`」を編成することができます。

## このセクションの内容:

サブドメインの設定 (Linux ホスティング) .....	124
サブドメインの設定 (Windows ホスティング) .....	126
サブドメインの削除 .....	128

## サブドメインの設定 (Linux ホスティング)

➤ サブドメインを設定するには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [サブドメイン] に進みます。
2. [新しいサブドメインの追加] をクリックします。
3. 任意のサブドメイン名を入力します。サイトのトピック、組織の部署、またはその他の文字、数字、ハイフンの組み合わせなどを入力できます (最長63文字)。

サブドメイン名の先頭文字はアルファベット文字です。サブドメイン名は大文字と小文字を区別します。

4. このサブドメインがセキュアなトランザクションを要求する場合、[SSL 対応] チェックボックスを選択します。これにより、親ドメインの下でインストールされたSSL証明書が、暗号化トランザクションに使用されます。

デフォルトでは、ユーザがサイトを公開する場合、`httpsdocs` ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツおよびプレーン HTTP を経由して `httpdocs` ディレクトリにアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツをアップロードする必要があります。便宜上、単一の場所すなわち `httpdocs` ディレクトリを通じてすべてのコンテンツを公開する方法を選択できます。このために、[SSL 認証を受けないコンテンツと同じディレクトリに、SSL 認証を受けるコンテンツを設置する] チェックボックスを選択します。

5. このサブドメインが管理者が独自に管理している管理者用の Web サイトを部分的に保有している場合、[親ドメインの FTP ユーザアカウントを利用する] オプションを選択したままにしておきます。このサブドメインが、別の人物に属する、または別の人物により管理される別の Web サイトを保持している場合、[このサブドメイン用に異なるユーザアカウントを作成する] オプションを選択し、FTP を通じて Web スペースにアクセスし、Web サイトのコンテンツを公開する場合に使用するログイン名とパスワードを指定します。
6. このサブドメイン内の Web コンテンツが使用できるディスク容量を制限する場合、[ハードディスククォータ] ボックスに必要な値をメガバイトで入力します。

指定された制限を超えた場合、Web スペースにファイルを追加できなくなり、既存のファイルの編集にファイルが破損する場合があります。

7. Web サイトを作成する際に使用するプログラミング言語を指定します。これを指定しない場合、Web サイトが正しく機能しない場合があります。

例えば、Web サイトが主に ASP で作成され、アプリケーションヴォルトのアプリケーションなど（ [ドメイン] > ドメイン名 > [Web アプリケーション] ）、PHP で作成された複数のアプリケーションを使用している場合、 [ASP 対応] チェックボックスと [PHP 対応] チェックボックスを選択します。

8. [OK] をクリックして設定を完了します。新しいサブドメインに関する情報がドメイン名システム（DNS）内に伝わり、インターネットユーザが利用できるようになるまで、最大48時間を要します。

サブドメインの Web スペースに Web コンテンツを公開するには、[サイトの公開]（参照ページ55）のセクション内の手順に従ってください。

## サブドメインの設定 (Windows ホスティング)

➤ サブドメインを設定するには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [サブドメイン] に進みます。
2. [新しいサブドメインの追加] をクリックします。
3. 必要な [ホスティングタイプ] を選択して [OK] をクリックします。
  - ドメインの仮想ホストを作成するには [物理ホスティング] を選択します。
  - 仮想サブドメインを作成するには [サブフォルダ上のサブドメイン] を選択します。 [サブフォルダ上のサブドメイン] はドメインの物理構造を使用します。別の FTP ユーザーアカウントを作成することはできません。ドメインの FTP ユーザーアカウントが使用されます。
4. 必要に応じてサブドメイン名を入力します。サイトのトピック、組織の部署、またはその他の文字、数字、ハイフンの組み合わせなどを入力できます (最長63文字)。冒頭にWWWを追加するには、適切なチェックボックスを選択します。

サブドメイン名の先頭文字はアルファベット文字です。サブドメイン名は大文字と小文字を区別します。

5. サブフォルダにサブドメインを作成している場合は、[サイトホームディレクトリ] フィールドにサブドメインファイルの物理ロケーションを指定します。
  - [サブドメイン用に物理ディレクトリを作成] チェックボックスの選択を外して [httpdocs] フィールドの右側に既存のディレクトリを指定します。📁 をクリックすれば必要なディレクトリの場所を参照できますので、選択して [OK] をクリックします。
  - 対応する物理ディレクトリをサブドメインと同じ名前で作成する場合は [サブドメイン用に物理ディレクトリを作成] チェックボックスを選択したままにします。
6. 物理ホスティングのサブドメインを作成する場合は、その FTP ユーザーアカウントを指定します。
  - このサブドメインが管理者が独自に管理している管理者用のウェブサイトを部分的に保有している場合、[メインドメインの FTP ユーザーアカウントを利用する] オプションを選択したままにしておきます。

- このサブドメインが、別の人物に属する、または別の人物により管理される別のウェブサイトを持している場合、**【このサブドメイン用に異なるユーザアカウントを作成する】** オプションを選択し、FTP を通じてウェブスペースにアクセスし、ウェブサイトのコンテンツを公開する場合に使用するログイン名とパスワードを指定します。適切なフィールドにハードディスククォータをメガバイトで指定するか、**【無制限】** チェックボックスを選択したままにします。指定された制限を超えた場合、ウェブスペースにファイルを追加できなくなり、既存のファイルの編集中にファイルが破損する場合があります。
7. このサブドメイン内のウェブコンテンツが使用できるディスク容量を制限する場合、**【ハードディスククォータ】** ボックスに必要な値をメガバイトで入力します。
- 指定された制限を超えた場合、ウェブスペースにファイルを追加できなくなり、既存のファイルの編集中にファイルが破損する場合があります。
8. **【Sitebuilderにてウェブサイトを作成し公開する】** チェックボックスを選択したままにすると、SitebuilderにアクセスしてParallels Plesk Panelインターフェース経由でウェブサイトを構築することができます。
- 【Sitebuilderにてウェブサイトを作成し公開する】**オプションを選択すると、サイトはSitebuilderで作成されます。
- すべての公開パラメータは以下の定義済みパスに設定されます。物理ホスティングのサブドメイン - /subdomains/SUBDOMAINNAME/httpdocs/sitebuilder、サブフォルダのサブドメインのサブドメイン - /httpdocs/SUBDOMAINNAME/。
9. Microsoft FrontPageサポートを有効にする場合は、該当するチェックボックスを選択します。適切なオプションを選択して **【Microsoft FrontPage認証】** を有効化または無効化します。
10. 必要な言語を選択し、**【サービス】** グループのプログラミング言語を指定します。使用可能な言語すべてを選択または選択解除するには **【すべて選択する】** または **【すべてクリアする】** を選択します。
- サブドメインを作成しているドメイン上で ASP.NET が無効になっている場合は、**【サブフォルダ上のサブドメイン】** でも使用することはできません。ドメイン上で ASP.NET が有効になっている場合は、ASP.NET はサブフォルダー上で作成されたサブドメインで使用することができます。
11. サイトや表示したサイトのページの訪問者の人数に関する情報を表示できるようにするために、**【ウェブ統計】** ドロップダウンメニューでモジュールを選択して **【パスワード保護ディレクトリ /plesk-stat/webstat経由でアクセス可能】** チェックボックスを選択します。これにより統計ソフトウェアモジュールがインストールされ、このソフトウェアによりレポートが生成され、そのレポートをパスワードで保護されたディレクトリに配置されます。するとサブドメイン管理者は以下のURLでウェブ統計にアクセスすることができるようになります。
- <https://subdomain.domain.com/plesk-stat/webstat> に FTP アカウントログイン名およびパスワードでアクセスできます。

---

注: サブドメイン管理者が FTP 証明書を変更しても、ウェブ統計アクセス証明書は変更されません。パスワード保護されたウェブ統計ディレクトリへアクセスするには、サブドメイン作成時に指定した最初のログイン名およびパスワードを常に使用します。

---

12. このサブドメインのウェブアプリケーションが `httpdocs` または `httpsdocs` フォルダの `root` にあるファイルベースのデータベース（Jet など）を使用する場合は、**【追加の書き込み/修正の権限】** オプションを選択します。このオプションを選択すると、ウェブサイトセキュリティが著しく侵害される場合があることにご注意ください。
13. **【OK】** をクリックして設定を完了します。新しいサブドメインに関する情報がドメイン名システム（DNS）内に伝わり、インターネットユーザが利用できるようになるまで、最大48時間を要します。

サブドメインのウェブスペースにウェブコンテンツを公開するには、**【サイトの公開】** (参照ページ55)のセクション内の手順に従ってください。

## サブドメインの削除

- **サブドメインとその Web コンテンツを削除するには、以下の操作を実行します。**
1. **【ドメイン】 > ドメイン名 > 【サブドメイン】** に進みます。
  2. 削除するサブドメイン名に対応するチェックボックスを選択し、**【削除】** をクリックします。
  3. 削除を確認して **【OK】** をクリックします。サブドメインのコンフィグレーションとその Web コンテンツがサーバから削除されます。



---

## サイトの追加ドメイン名の設定(ドメインエイリアス)

ドメイン名レジストラに、サーバでホストしている同一の Web サイトを示す複数のドメイン名を登録している場合、ドメインエイリアスを設定する必要があります。

別のサーバでホストされる Web サイトを示す複数のドメイン名を提供する必要がある場合、ドメイン転送を設定する必要があります。手順については、「他のサーバにホストされているサイトのドメイン名を使用する(ドメイン転送)」(164 ページ)のセクションをご参照ください。

### このセクションの内容:

ドメインエイリアスの設定 .....	130
ドメインエイリアスのプロパティの修正 .....	131
ドメインエイリアスの削除 .....	132

## ドメインエイリアスの設定

➤ **ドメインエイリアスを設定するには、以下の操作を実行します。**

1. **[ドメイン] > ドメイン名 > [ドメインエイリアス]**に進みます。
2. **[ドメインエイリアスの追加]** をクリックします。
3. 希望するドメインエイリアス名を入力します(例 : alias.com)。  
ドメインエイリアスには、文字、数字、ハイフンを使用できます。ドメインエイリアスのドット間の各部分には、63 個以下の記号を使用します。
4. ドメインエイリアスでプライマリドメインと同じDNSゾーンリソースレコードを使用したい場合は、**[DNSゾーンをプライマリドメインと同期化]** チェックボックスを選択します。この設定により、今後プライマリドメインゾーンのリソースレコードに変更があった場合、それがこのドメインエイリアスのDNSゾーンに適用されます。
5. ドメインエイリアスの下のメールアドレスで送信されたメールを、オリジナルドメイン名の下のメールアドレスに転送する場合、**[メール]** チェックボックスを選択します。  
例 : mail@yourdomain.com というメールアドレスを保有し、ドメイン名に alias.com などのエイリアスを設定しているとします。この場合、mail@alias.com に送信された、メールボックス mail@yourdomain.com へのメールを受け取るには、**[メール]** チェックボックスを選択します。
6. **[Web]** チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、ブラウザにドメインエイリアスを入力して管理者のサイトを訪問したユーザに、Webコンテンツを表示しません。
7. Linuxプラットフォームに基づいたホスティングサービスを使用しており、ドメインエイリアスを介してアクセス可能にしたいサイトにJavaアプリケーションがインストールされている場合は、**[Java Webアプリケーション]** チェックボックスを選択します。
8. **[OK]** をクリックします。

## ドメインエイリアスのプロパティの修正

➤ **エイリアスのプロパティを変更するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ドメインエイリアス] に進みます。
2. 必要なエイリアス名をクリックします。
3. [ツール] グループの [プリファレンス] をクリックします。
4. 必要に応じてドメインエイリアスのプロパティを修正して [OK] をクリックします。

➤ **ドメインエイリアスのDNS ゾーンのリソースレコードを変更するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ドメインエイリアス] に進みます。
2. 必要なエイリアス名をクリックします。
3. [DNS設定] をクリックします。
4. 必要に応じてリソースレコードを追加、編集、削除します。
  - ゾーンにリソースレコードを追加するには、[新しいレコードの追加] をクリックします。必要な値を指定し、[OK] をクリックしてゾーンに値を書き込みます。
  - リソースレコードを変更するには、[ホスト] の列で必要なレコードに対応するハイパーリンクをクリックします。
  - レコードを削除するには、削除するレコードに対応するチェックボックスを選択して [削除] をクリックします。

## ドメインエイリアスの削除


- **ドメインからエイリアスを削除するには、以下の操作を実行します。**
- 1. **[ドメイン] > ドメイン名 > [ドメインエイリアス]** に進みます。
- 2. 削除するドメインエイリアスのチェックボックスを選択します。
- 3. **[削除]** をクリックします。
- 4. 削除を確認して **[OK]** をクリックします。

## 仮想ディレクトリの使用

Parallels Plesk Panel の仮想ディレクトリとは、サーバのハードディスクに存在している既存の物理ディレクトリへのリンクです。仮想ディレクトリには、カスタム ASP.NET 設定やアクセス権限や URL パスワード保護といった様々な特定の設定があります。

どの仮想ディレクトリもカスタマイズ ASP.NET 設定などの独自の設定を持つことができるため、仮想ディレクトリは、特に ASP.NET で書かれた Web アプリケーションの設定に大変有効です。例えば、ASP.NET バージョン 1.1 を使用している Web アプリケーションが 3 つあったとして、ASP.NET バージョン 2.0 を使用している Web アプリケーションを 1 つインストールする必要がある場合、ASP.NET 2.0 アプリケーション用に仮想ディレクトリを作成してそのディレクトリの ASP.NET 構成を設定し、このディレクトリに対してのみバージョン 2.0 を有効にして、必要なアプリケーションをインストールすることができます。

仮想ディレクトリはエイリアスとしてもご利用いただけます。例えば、物理フォルダ「/my\_data/web\_apps/forum」のドメイン「example.com」に Web アプリケーションがインストールされているとします。この Web アプリケーションにアクセスするには、ユーザは「example.com/my\_data/web\_apps/forum」と入力しなければなりません。これは長すぎて覚えるのも入力するのも大変です。そこで仮想ディレクトリ「forum」を仮想ホストのルートに作成し、この仮想ディレクトリを「/my\_data/web\_apps/forum」にリンクします。すると Web アプリケーションにアクセスしたいユーザは「example.com/forum」と入力するだけで済みます。これならずっと短くて覚えるのも簡単です。

ブラウザで仮想ディレクトリを開くには、ホームページで必要なドメイン名をクリックし、[Web ディレクトリ] をクリックし、開きたいディレクトリに対応する  アイコンをクリックします。

### このセクションの内容:

仮想ディレクトリの作成.....	134
仮想ディレクトリ設定の変更.....	137
MIME タイプの追加および削除.....	140
仮想ディレクトリの PHP バージョンの設定.....	143
仮想ディレクトリの削除.....	143

## 仮想ディレクトリの作成

➤ **ドメインに新規仮想ディレクトリを作成するには以下を実行してください。**

1. ホームページからドメイン名をクリックします。
2. [ホスティング] グループの [Webディレクトリ] をクリックします。ここがWebサイトのルートになります。
3. 新規仮想ディレクトリを作成したいディレクトリに進みます。
4. [仮想ディレクトリの作成] をクリックします。

---

注：仮想ディレクトリの変わりに物理ディレクトリを作成する場合は、[ディレクトリの作成] をクリックしてディレクトリ名を指定し、[OK] をクリックします。

---


5. 以下の必要パラメータを指定します。
  - **名前** - 仮想ディレクトリ名を指定します。
  - **パス** - 仮想ディレクトリパスを指定します。
    - [仮想ディレクトリと同じ名前の物理ディレクトリを作成] チェックボックスを選択すると、作成している仮想ディレクトリと同じ名前の物理ディレクトリが自動的に作成されます。
    - 既存の物理ディレクトリを選択するには、[仮想ディレクトリと同じ名前の物理ディレクトリを作成] チェックボックスの選択を外してフィールドにパスを指定します。
  - **スクリプトソースへのアクセス** - このチェックボックスを選択すると、ユーザは設定されている権限（読み込みまたは書き込み）でソースコードにアクセスすることができます。ソースコードには ASP アプリケーションのスクリプトも含まれます。
  - **読み込み権限** - このチェックボックスを選択すると、ユーザはファイルまたはディレクトリおよびユーザ関連のプロパティを読み取ることができます。
  - **書き込み権限** - このチェックボックスを選択すると、ユーザはファイルおよびユーザ関連のプロパティを仮想ディレクトリにアップロードしたり書き込み可のファイルのコンテンツを変更することができます。書き込み権限はブラウザが HTTP 1.1 プロトコルの PUT 機能をサポートしている場合にのみ有効です。
  - **ディレクトリ ブラウジング権限** - このチェックボックスを選択すると、ユーザは仮想ディレクトリのファイルおよびサブディレクトリのハイパーテキストリストを見ることができます。
  - **訪問をログに保存する** - このチェックボックスを選択すると、仮想ディレクトリの訪問に関する情報が保存されます。

- **アプリケーションの作成** - このチェックボックスを選択すると、Web ディレクトリを IIS アプリケーションにします。そのディレクトリは残りの Web サイトから論理的に独立します。
- **実行権限** - 仮想ディレクトリで許可するプログラムの適切な実行レベルを選択します。
  - **なし** - HTML や画像ファイルなどの静的ファイルにのみアクセスを許可します。
  - **スクリプトのみ** - スクリプトの実行のみを許可します。その他の実行ファイルは実行できません。
  - **スクリプトと実行ファイル** - すべての制限がなくなり、すべてのファイルタイプを実行できます。
- **ASP 設定** - ASP ベースの Web アプリケーション特有の設定を行います。
  - IIS で設定しているデータ転送制限において正常に動作しない ASP ベースの Web アプリケーションを使用している場合は、変更するフィールドの【**親ディレクトリにて定義する**】チェックボックスの選択を解除して、必要な番号を入力します。
  - サーバ側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、【**親ディレクトリにて定義する**】チェックボックスの選択を解除して【**ASP サーバサイドのスクリプトデバッグを有効にする**】チェックボックスを選択します。
  - クライアント側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、【**親ディレクトリにて定義する**】チェックボックスの選択を解除して【**ASP クライアントサイドスクリプトデバッグを有効にする**】チェックボックスを選択します。

root Web ディレクトリの ASP 設定を変更する場合は、デフォルトチェックボックス名は【**親ディレクトリにて定義する**】ではなく【**IIS により定義する**】であることにご注意ください。

6. 作成を完了したら [OK] をクリックします。

➤ **仮想ディレクトリのアクセス権限を設定するには以下を実行してください。**

1. ホームページでドメイン名をクリックします。
2. 【Webディレクトリ】をクリックします。
3. 開くディレクトリに対応する  アイコンをクリックして、このディレクトリおよびそのすべてのファイルへのアクセス権限を設定します。

アクセス権限の設定についての詳細は「ファイルとフォルダのアクセス権限の設定」のセクションをご参照ください。

➤ **仮想ディレクトリの ASP.NET を設定するには以下を実行してください。**


1. ホームページでドメイン名をクリックします。
2. [Webディレクトリ] をクリックします。
3. 必要なディレクトリを参照して入力します。
4. [ASP.NET設定] をクリックしてオプションを設定します。

ASP.NET の設定についての詳細は「仮想ディレクトリの ASP.NET の設定」のセクションをご参照ください。



## 仮想ディレクトリ設定の変更

➤ **ドメイン上に既存の仮想ディレクトリのプリファレンスを変更するには、以下を実行してください。**

1. ホームページからドメイン名をクリックします。
2. [ホスティング] グループの [Webディレクトリ] をクリックします。
3. 変更するプリファレンスのディレクトリを探して  をクリックするか、変更するディレクトリで [ディレクトリのアクセス権限] をクリックします。
4. 仮想ディレクトリのプリファレンスを変更します。
  - **名前** - 仮想ディレクトリ名を指定します。
  - **パス** - 仮想ディレクトリがリンクしている物理ディレクトリのパスを指定します。
  - **スクリプトソースへのアクセス** - このチェックボックスを選択すると、ユーザは設定されている権限（読み込みまたは書き込み）でソースコードにアクセスすることができます。ソースコードには ASP アプリケーションのスクリプトも含まれます。
  - **読み込み権限** - このチェックボックスを選択すると、ユーザはファイルまたはディレクトリおよびユーザ関連のプロパティを読み取ることができます。
  - **書き込み権限** - このチェックボックスを選択すると、ユーザはファイルおよびユーザ関連のプロパティを仮想ディレクトリにアップロードしたり書き込み可能なファイルのコンテンツを変更することができます。書き込み権限はブラウザが HTTP 1.1 プロトコルの PUT 機能をサポートしている場合にのみ有効です。
  - **ディレクトリ ブラウジング権限** - このチェックボックスを選択すると、ユーザは仮想ディレクトリのファイルおよびサブディレクトリのハイパーテキストリストを見ることができます。
  - **訪問をログに保存する** - このチェックボックスを選択すると、仮想ディレクトリの訪問に関する情報が保存されます。
  - **アプリケーションの作成** - このチェックボックスを選択すると、Web ディレクトリを IIS アプリケーションにします。そのディレクトリは残りの Web サイトから論理的に独立します。
  - **実行権限** - 仮想ディレクトリで許可するプログラムの適切な実行レベルを選択します。
    - なし - HTML や画像ファイルなどの静的ファイルにのみアクセスを許可します。
    - スクリプトのみ - スクリプトの実行のみを許可します。その他の実行ファイルは実行できません。

スクリプトと実行ファイル - すべての制限がなくなり、すべてのファイルタイプを実行できます。


- **親パスの利用を許可する** - このチェックボックスを選択すると、現行 Web ディレクトリ上のフォルダを参照する際にパス名にダブルピリオドを使用することができます。それによってユーザは、そのフォルダ名や全体の階層構造を知らなくてもフォルダの上位へ移動できます。このオプションが選択されている場合、親パスディレクトリはそのプリファレンスの **[実行権限]** チェックボックスを選択することはできません。アプリケーションは親パスのプログラムを承認なく実行することができないからです。
- **MTA (マルチスレッド アpartment) モードでのアプリケーションの実行を許可する** - このチェックボックスを選択すると、MTA (マルチスレッド Apartment) モードでアプリケーションを実行できます。選択を外している場合、アプリケーションは STA (シングルスレッド Apartment) モードで実行されます。STA を使用すると、各アプリケーションは専用プロセスで実行されます。MTA では 1 つのスレッドで複数の並列アプリケーションプールが実行されるので、場合によってはパフォーマンスが向上します。
- **デフォルトドキュメントを利用する** - このチェックボックスを選択すると、現行 Web ディレクトリのデフォルト文書を使用することができます。ユーザがファイル名を指定せずに Web のディレクトリにアクセスするとデフォルト文書が提供されます (例えば、「<http://www.parallels.com>」にアクセスすると「<http://www.parallels.com/index.html>」が提供されます)。このチェックボックスの選択が外されていて、**[ディレクトリ ブラウジング権限]** チェックボックスが選択されている場合、Web サーバはフォルダリストを返します。このチェックボックスの選択が外されていて、**[ディレクトリ ブラウジング権限]** チェックボックスの選択も外されている場合、Web サーバは「アクセス禁止」のエラーメッセージを返します。
- **デフォルトのドキュメント検索の順番** - IIS がデフォルト文書を検索する順序を指定し、最初に検索されたファイルがユーザに提供されます。一致するものがない場合、IIS はデフォルトコンテンツページが無効であった場合と同じ結果を返します。
- **Anonymous アクセスを許可する** - このチェックボックスを選択すると、Web ユーザが認証なしでディレクトリにアクセスできます。
- **SSL を要求** - このチェックボックスを選択すると SSL が有効になり、フォルダへのアクセスだけとなります。
- **ASP 設定** - ASP ベースの Web アプリケーション特有の設定を行います。
  - IIS で設定しているデータ転送制限において正常に動作しない ASP ベースの Web アプリケーションを使用している場合は、変更するフィールドの **[親ディレクトリにて定義する]** チェックボックスの選択を解除して、必要な番号を入力します。
  - サーバ側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、**[親ディレクトリにて定義する]** チェックボックスの選択を解除して **[ASP サーバサイドのスクリプトデバッグを有効にする]** チェックボックスを選択します。

- クライアント側で ASP アプリケーションのデバックを有効にするには、[親ディレクトリにて定義する] チェックボックスの選択を解除して [ASP クライアントサイドスクリプトデバッグを有効にする] チェックボックスを選択します。

root Web ディレクトリの ASP 設定を変更する場合は、デフォルトチェックボックス名は [親ディレクトリにて定義する] ではなく [IIS により定義する] であることにご注意ください。

5. [OK] をクリックして変更を保存します。

➤ **仮想ディレクトリのアクセス権限を変更するには、以下を実行してください。**

1. ホームページでドメイン名をクリックします。
2. [Webディレクトリ] をクリックします。
3. 開くディレクトリに対応する  アイコンをクリックして、このディレクトリおよびそのすべてのファイルへのアクセス権限を変更します。  
アクセス権限の設定についての詳細は「ファイルとフォルダのアクセス権限の設定」のセクションをご参照ください。

➤ **仮想ディレクトリの ASP.NET を再設定するには以下を実行してください。**

1. ホームページでドメイン名をクリックします。
2. [Webディレクトリ] をクリックします。
3. 必要なディレクトリを参照して入力します。
4. [ASP.NET設定] をクリックしてオプションを変更します。  
ASP.NET の設定についての詳細は「仮想ディレクトリの ASP.NET の設定」のセクションをご参照ください。

## MIME タイプの追加および削除

MIME（多目的インターネットメールエクスチェンジ）タイプは Web ブラウザまたはメールアプリケーションがサーバから受信するファイルの取り扱い方法を示します。例えば Web ブラウザがサーバ上のアイテムをリクエストすると、そのオブジェクトの MIME タイプもリクエストすることになります。グラフィックなどの MIME タイプはブラウザ内で表示することができます。その他のワープロ文書などを表示するには、外部のヘルプアプリケーションが必要です。

Web サーバがクライアント Web ブラウザに Web ページを提供している場合、同時にデータの MIME タイプも提供しています。特定のフォーマットのファイルが添付されている場合、IIS はクライアントアプリケーションにその添付ファイルについても MIME タイプを提供します。それによってクライアントアプリケーションは IIS から受信したデータをどうやって処理または表示すればよいか分かります。

IIS は登録した MIME タイプのファイルのオペレーションしかできません。MIME タイプはグローバル IIS レベル上でもドメインまたは仮想ディレクトリレベル上でも定義することができます。ドメインまたは仮想ディレクトリレベル上で定義した MIME タイプは定義したエリアでのみ使用されますが、グローバル定義された MIME タイプはすべてのドメインおよび仮想ディレクトリに継承されます。そうしないと、Web サーバは登録していない MIME タイプを持つファイルのリクエストを受信した際に 404.3 (Not Found) エラーを返すことになってしまいます。

### このセクションの内容:

MIME タイプの追加.....	141
MIME タイプの変更.....	142
MIME タイプの削除.....	142

## MIME タイプの追加

- **ドメイン上の仮想ディレクトリに新規 MIME タイプを追加するには以下を実行してください。**
1. ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
  2. [ホスティング] グループの [Webディレクトリ] をクリックします。
  3. 必要なディレクトリを参照して入力します。
  4. [MIMEタイプ] タブを選択します。
  5. [MIMEタイプの追加] をクリックします。
    - ファイル名の拡張子を [拡張子] フィールドに入力します。ファイル拡張子はドット (.) で始まらなければなりません。また、ワイルドカード (\*) を使用すればファイル拡張子に関係なくすべてのファイルが対象となります。
    - [コンテンツ] フィールドにファイルコンテンツのタイプを指定します。
    - 一覧から適切な値を選ぶこともできますし、新規コンテンツタイプを定義することもできます。それには [カスタム...] を選択し、入力ボックスにコンテンツタイプを入力してください。
  6. 作成を完了したら [OK] をクリックします。

## MIME タイプの変更

➤ **ドメイン上の仮想ディレクトリの既存 MIME タイプを編集するには以下を実行してください。**

1. ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
2. [ホスティング] グループの [Webディレクトリ] をクリックします。
3. 必要なディレクトリを参照して入力します。
4. [MIMEタイプ] タブを選択します。
5. 一覧からMIMEタイプを選択します。
  - ファイル名の拡張子を [拡張子] フィールドに入力します。 ファイル拡張子はドット (.) で始まらなければなりません。また、ワイルドカード (\*) を使用すればファイル拡張子に関係なくすべてのファイルが対象となります。
  - [コンテンツ] フィールドにファイルコンテンツのタイプを指定します。
  - 一覧から適切な値を選ぶこともできますし、新規コンテンツタイプを定義することもできます。 それには [カスタム...] を選択し、入力ボックスにコンテンツタイプを入力してください。
6. [OK] をクリックして変更を保存します。

## MIME タイプの削除

➤ **ドメイン上の仮想ディレクトリから MIME タイプを削除するには以下を実行してください。**

1. ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
2. [ホスティング] グループの [Webディレクトリ] をクリックします。
3. 必要なディレクトリを参照して入力します。
4. [MIMEタイプ] タブを選択します。
5. 削除したいMIMEタイプに該当するチェックボックスを選択します。
6. [削除] をクリックします。
7. 削除を確認して [OK] をクリックします。

## 仮想ディレクトリの PHP バージョンの設定

各ドメインで使用する PHP バージョンを選択できるだけでなく、ドメインの仮想ディレクトリの PHP バージョンも指定できます。それによって、PHP5 同様に PHP4 を必要とする Web アプリケーションも使用することができます。

➤ **仮想ディレクトリの PHP バージョンを設定するには以下を実行してください。**

1. ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
2. [ホスティング] グループの [Webディレクトリ] をクリックします。
3. [PHP設定] をクリックします。
4. PHPのバージョンを選択し [OK] をクリックします。

## 仮想ディレクトリの削除

➤ **既存の仮想ディレクトリを削除するには以下を実行してください。**

1. ホームページからドメイン名をクリックします。
2. [ホスティング] グループの [Webディレクトリ] をクリックします。
3. 削除するディレクトリに対応するチェックボックスを選択します。
4. [削除] をクリックします。
5. 削除を確認して [OK] をクリックします。

## Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング

専用のドメイン名を必要としない個人の個人用 Web ページは、管理者 Web サーバでホスティングできます。このサービスはおもに、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関で使用されています。

そういったページの Web アドレスは通常<http://your-domain.com/~username>となります。

➤ **サーバで個人用 Web ページを追加するには、別の Web スペースを割り当て、公開用の FTP アカウントを設定します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webユーザ] に進みます。
2. [プリファレンス] をクリックします。
3. 個人 Web ページに埋め込まれたスクリプトが実行できるようにする場合は、[Webユーザーへのスクリプトの使用の許可] チェックボックスを選択します。

4. [OK] をクリックします。

ステップ 4 で定義した設定は、管理者の Web サーバでホストするすべての個人用 Web ページに共有です。従って、次に個人用 Web ページの Web スペースを設定する場合は、ステップ 3 から 6 を実行する必要はありません。

5. [新しい Web ユーザの追加] をクリックします。
6. FTP を使用して Web スペースにアクセスし、Web ページの公開に使用するユーザ名とパスワードを指定します。

ユーザ名には小文字の英数字、ハイフン、アンダースコア記号のみ使用できます。ユーザ名の先頭文字はアルファベット文字です。空白を含めることはできません。パスワードにはクォーテーションマーク、空白、ユーザのログイン名を使用できません。長さは 5~14 文字とします。

7. この Web ページコンテンツが使用できるディスク容量を制限する場合、[ハードディスククォータ] ボックスに必要な値をメガバイトで入力します。

指定した制限値を超えると、Web ページ所有者は Web スペースにファイルを追加することができなくなります。

8. Web ページでサポートされるプログラミング言語を指定します。

例えば、Web ページが PHP で作成されている場合、[PHP 対応] チェックボックスを選択します。



9. この個人用WebページのWebアプリケーションがhttpdocsまたはhttpsdocsフォルダのrootにあるファイルベースのデータベース（Jetなど）を使用する場合は、**[追加の書き込み/修正のパーミッション]** オプションを選択します。このオプションを選択すると、Webサイトセキュリティが著しく侵害される場合があることにご注意ください。
10. **[OK]** をクリックします。

これで、FTP アカウントの信用情報がユーザに伝えられ、ユーザが自分の Web ページを公開できるようになります。

### このセクションの内容:

Web ページ所有者の FTP パスワードの変更 .....	145
Web ページ所有者へのディスク容量の割り当ての増加 .....	146
Web ページ所有者のアカウントの削除 .....	146

## Web ページ所有者の FTP パスワードの変更

- **Web ページ所有者の FTP パスワードを変更するには、以下の操作を実行します。**
1. **[ドメイン] > ドメイン名 > [Webユーザ]** に進みます。
  2. 必要なユーザ名をクリックします。
  3. **[新しいパスワード]** ボックスおよび **[パスワードの確認]** ボックスで新しいパスワードの入力と確認を行います。
  4. **[OK]** をクリックします。

## Web ページ所有者へのディスク容量の割り当ての増加

- Web ページ所有者へのディスク容量割り当てを増やすには、以下を実行してください。
- 1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webユーザ] に進みます。
- 2. 必要なユーザ名をクリックします。
- 3. [ハードディスククォータ] ボックスに、ディスク容量をメガバイトで入力します。
- 4. [OK] をクリックします。

## Web ページ所有者のアカウントの削除

- Web ページ所有者のアカウントをそのWeb ページとともに削除するには、以下の操作を実行します。
- 1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webユーザ] に進みます。
- 2. 削除するユーザアカウントに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
- 3. 削除を確認して [OK] をクリックします。

---

# サーバへの anonymous FTP アクセス の設定

専用の IP アドレス上のサイトをホストしている場合、他のユーザが FTP を使用して匿名でファイルをダウンロードまたはアップロードできるディレクトリを、サイト内に設定できます。 anonymous FTP が有効になると、ユーザは「anonymous」ログイン名と任意のパスワードを使用して<ftp://ftp.your-domain.com>にログインできるようになります。

➤ **anonymous FTP アクセスを許可するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Anonymous FTP] に進みます。
2. anonymous FTP サービスを有効にするには、[スイッチオン] をクリックします。
3. ユーザが FTP サイトにログインしたときに表示されるウェルカムメッセージを設定するには、[ログインメッセージを表示します] チェックボックスを選択し、入力フィールドに任意にメッセージテキストを入力します。  
すべての FTP クライアントがウェルカムメッセージを表示するとは限りません。
4. ビジターに /incoming ディレクトリへのファイルのアップロードを許可するには、[受信ディレクトリへのアップロードを許可する] チェックボックスを選択します。
5. ユーザに /incoming ディレクトリでのサブディレクトリの作成を許可するには、[受信ディレクトリでのディレクトリ作成を許可する] チェックボックスを選択します。
6. /incoming ディレクトリからのファイルのダウンロードを許可するには、[受信ディレクトリからのダウンロードを許可する] チェックボックスを選択します。
7. アップロードされたファイルが使用できるディスク容量を制限するには、[受信ディレクトリにてディスク容量を制限する] オプションに対応する [無制限] チェックボックスをクリアし、容量をキロバイトで指定します。

これがハードクォータです。この制限に達したとき、ユーザはディレクトリにファイルを追加できなくなります。

8. anonymous FTPサーバへの同時接続数を制限するには、**【同時接続の制限数】** オプションに対応する **【無制限】** チェックボックスの選択を外し、許可される接続数を指定します。
9. anonymous FTP接続の帯域幅を制限するには、**【このバーチャルFTPドメインのダウンロード帯域幅を制限する】** オプションに対応する **【無制限】** チェックボックスの選択を外し、最大帯域幅を1秒当たりのキロバイト数で入力します。
10. **【OK】** をクリックします。

➤ **anonymous FTP サーバの設定を変更する、または anonymous FTP サーバを無効にするには、以下を実行してください。**

1. **【ドメイン】 > ドメイン名 > 【Anonymous FTP】** に進みます。
2. 必要に応じて設定を調整し **【OK】** をクリックします。 anonymous FTP サービスを無効にするには、**【スイッチオフ】** をクリックします。

---

## Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ (Linux ホスティング)

サイトを訪れているビジターが Web サーバが見つけれられないページを要求する場合、Web サーバによりエラーメッセージを伴った標準の HTML ページが生成され、表示されます。標準のエラーメッセージにより問題が伝えられる場合がありますが、通常は問題の解決方法または問題の発生したビジターが通常の作業に戻る方法は述べられず、明確になりません。

個人用のエラーページを作成し、個人の Web サーバで使用することができます。Parallels Plesk Panel では、以下のエラーメッセージをカスタマイズできます。

- **400 Bad File Request.** 通常は URL で使用される構文の間違い（大文字は小文字にする、句点の間違いなど）を意味します。
- **401 Unauthorized.** サーバはクライアントからの暗号化キーを要求していますが取得できません。また、入力したパスワードが間違っている場合があります。
- **403 Forbidden/Access denied.** 401 に類似したエラーです。サイトにアクセスするために特別な許可（登録の場合にはパスワードおよび/またはユーザ名）が必要になります。
- **404 Not Found.** サーバは要求されたファイルを検索できません。ファイルは移動または削除されています。あるいは入力された URL またはドキュメント名が間違っています。これは最も一般的なエラーです。
- **405 Method Not Allowed.** リクエスト-ラインで指定した方法が、リクエスト-URI が同定するリソースに許可されていません。
- **406 Not Acceptable.** リクエストが同定するリソースは、リクエストで送信されたヘッダに許可されていないコンテンツ特性を持つ応答エンティティの生成にのみ有効です。
- **407 Proxy Authentication Required.** このコードは 401 (Unauthorized) に似ていますが、クライアントはまず自分をプロキシで認証しなければならないことを表しています。
- **412 Precondition Failed.** 1 つ以上の [リクエスト-ヘッダ] フィールドに指定された前提条件をサーバでテストしたところ、誤っていると判断されました。この応答コードによってクライアントは現行のリソースメタ情報（[ヘッダ] フィールドのデータ）の前提条件を調整し、リクエストした方法が意図したリソース以外に適用されることを防ぎます。

- **414 Request-URI Too Long.** サーバが解釈可能である長さよりもリクエスト-URIのほうが長い場合、サーバはリクエストへのサービスを拒否します。これは稀なケースであり、クライアントがPOST リクエストをGET リクエストに長いクエリ情報と一緒に不適切に変換した場合、あるいはクライアントが転送のURI「ブラックホール」に陥った（例えば転送されたURIプレフィックスがそれ自身のサフィックスを指している）場合、あるいはサーバが、リクエスト-URIを読み取るまたは操作するための固定長のバッファを使用しているサーバが提供するセキュリティホールを突破しようとしているクライアントによって攻撃されている場合に限り発生することがあります。
- **415 Unsupported Media Type.** リクエストのエンティティが、リクエストした方法のリソースがサポートしていない形式であるため、サーバはリクエストへのサービスを拒否します。
- **500 Internal Server Error** サーバコンフィグレーション上の問題により、HTML文書を取得できませんでした。
- **501 Not Implemented.** サーバはリクエストを遂行するのに必要な機能をサポートしていません。これは、サーバがリクエスト方法を認識せず、あらゆるリソースに対してそれに対応する機能がない場合の応答コードです。
- **502 Bad Gateway.** ゲートウェアまたはプロキシとして動作しているサーバが、リクエストを遂行しようとしてアクセスしたアップストリームサーバから無効な応答を受け取りました。

➤ **カスタムエラーページを表示するように Parallels Plesk Panel の Web サーバを設定するには、以下の操作を実行します。**

1. Parallels Plesk Panelでカスタムエラー文書のサポートをオンにします。  
[ドメイン] > **ドメイン名** > [Webホスティング設定]に進みます。[カスタムエラードキュメント] チェックボックスを選択し、[OK]をクリックします。
2. Parallels Plesk Panelサーバ上のFTPアカウントに接続して `error_docs`ディレクトリに移動します。
3. 各ファイルを編集または置き換えます。正しいファイル名が維持されていることを確認します。
  - 400 Bad File Request - `bad_request.html`
  - 401 Unauthorized - `unauthorized.html`
  - 403 Forbidden/Access denied - `forbidden.html`
  - 404 Not Found - `not_found.html`
  - 405 Method Not Allowed - `method_not_allowed.html`
  - 406 Not Acceptable - `not_acceptable.html`
  - 407 Proxy Authentication Required - `proxy_authentication_required.html`
  - 412 Precondition Failed - `precondition_failed.html`

- 414 Request-URI Too Long - request-uri\_too\_long.html
  - 415 Unsupported Media Type - unsupported\_media\_type.html
  - 500 Internal Server Error - internal\_server\_error.html
  - 501 Not Implemented - not\_implemented.html
  - 502 Bad Gateway - bad\_gateway.html
4. Webサーバが再起動するまで数時間待機します。その後、Webサーバはエラードキュメントを使用して起動します。

---

## Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ (Windows ホスティング)

サイトを訪れているビジターが Web サーバが見つけれられないページを要求する場合、Web サーバによりエラーメッセージを伴った標準の HTML ページが生成、表示されます。標準のエラーメッセージにより問題が伝えられる場合がありますが、通常は問題の解決方法または問題の発生したビジターが通常の作業に戻る方法は述べられず、明確になりません。

個人用のエラーページを作成し、個人の Web サーバで使用することができます。以下のエラーメッセージは最も頻繁にカスタマイズされるものです。

- 400 Bad File Request. 通常は URL で使用される構文の間違い（大文字は小文字にする、句点の間違いなど）を意味します。
- 401 Unauthorized. サーバはクライアントからの暗号化キーを要求していますが取得できません。また、入力したパスワードが間違っている場合があります。
- 403 Forbidden/Access denied. 401 に類似したエラーです。サイトにアクセスするために特別な許可（登録の場合にはパスワードおよび/またはユーザ名）が必要になります。
- 404 Not Found. サーバは要求されたファイルを検索できません。ファイルは移動または削除されています。あるいは入力された URL またはドキュメント名が間違っています。これは最も一般的なエラーです。
- 500 Internal Server Error サーバコンフィグレーション上の問題により、HTML 文書を取得できませんでした。

➤ **ドメインのカスタムエラーページを表示するように Parallels Plesk Panel の Web サーバを設定するには、以下を実行してください。**

1. Parallels Plesk Panel でカスタムエラー文書のサポートをオンにします。
  - a. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webホスティング設定] に進みます。
  - b. [カスタムエラードキュメント] チェックボックスを選択します。
  - c. [OK] をクリックします。
2. [ドメイン] > **ドメイン名** > [仮想ディレクトリ] に進み、ルート Web ディレクトリのエラー文書一覧を見ます（ここに置いてあるエラー文書はすべてのドメイン Web ページに使用されています）。ある Web ディレクトリのエラーページをカスタマイズするにはそのディレクトリに進んでください。
3. [エラー文書] タブをクリックしてリストから必要なエラー文書をクリックします。



- このエラーページについて IIS が提供するデフォルト文書を使用するには、[タイプ] メニューから [デフォルト] を選択します。
- ドメイン上の `error_docs` ディレクトリに既に存在するカスタム HTML 文書を使用するには、[タイプ] メニューから [ファイル] を選択して [ロケーション] フィールドにファイル名を指定します。
- ドメイン上の `error_docs` 以外のディレクトリにあるカスタム HTML 文書を使用するには、[タイプ] メニューから [URL] を選択して [ロケーション] フィールドに文書へのパスを入力します。パスは仮想ホストルート（`<vhosts>\<domain>\httpdocs`）と関連している必要があります。

例えば、`forbidden_403_1.html` というファイルを作成して、それを `httpdocs` にある `my_errors` ディレクトリに保存したとします。このファイルをエラー文書として使用するには、以下のパスを [ロケーション] フィールドに入力する必要があります。 `/my_errors/forbidden_403_1.html`

---

**注：** カスタムエラー文書をサーバにアップロードするには、FTP およびファイルマネージャーの両方をご利用いただけます。デフォルトでは、すべてのエラー文書は `/vhosts/your-domain.com/error_docs/` ディレクトリ（デフォルトでは `C:\¥InetPub` に置かれています）に保存されています。

---

4. Webサーバが再起動すると、貴社のエラー文書を使用し始めます。

---

# ドメインの DNS ゾーン設定のカスタマイズ

新しいドメイン名ごとに、コントロールパネルにより、プロバイダが定義した構成プリセットに従って自動的に DNS ゾーンが作成されます。ドメイン名は自動設定に適合する必要がありますが、ドメイン名ゾーンのカスタム変更を実行する必要がある場合、これをコントロールパネルを使用して行うことができます。

---

注：ここから、DNS レコードに複数の変更を行って DNS ゾーンを一度に更新し、**[適用]** ボタンを押して変更を承認します。承認しなかった変更は保存されません。

---

➤ **ドメインの DNS ゾーンのリソースレコードを表示するには、以下の操作を実行します。**

[ドメイン] > **ドメイン名** > [DNS 設定]（[Web サイト] グループ内）に進みます。画面にこのドメインの全リソースレコードが表示されます。

ドメインエイリアスの DNS ゾーンのリソースレコードを修正する方法については、「サイトの追加ドメイン名の設定（ドメインエイリアス）」（参照ページ129）セクションを参照してください。

## このセクションの内容:

リソースレコードの追加 .....	155
リソースレコードの変更 .....	157
リソースレコードの削除 .....	159
元のゾーン設定の復元 .....	160

## リソースレコードの追加

➤ **ゾーンに新しいリソースレコードを追加するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [DNS設定] ( [Webサイト] グループ内) に進みます。
2. [新しいレコードの追加] をクリックします。
3. リソースレコードのタイプを選択し、適切なデータを指定します。
  - A レコードでは A レコードを作成するドメイン名を入力する必要があります。メインドメインのために A レコードを設定する場合は、入力フィールドは空欄にしてください。A レコードをネームサーバのために設定する場合は、ネームサーバのための適切な入力(例: ns1)をする必要があります。次に適切なドメイン名と関連づける IP アドレスを入力します。
  - A レコードでは A レコードを作成するドメイン名を入力する必要があります。メインドメインのために NS レコードを設定する場合は、入力フィールドを空欄にしてください。次に適切なネームサーバの名前を入力フィールドに入力します。この名前はフルネームである必要があります(例: ns1.myname.com)。
  - MX レコードでは MX レコード作成するドメイン名を入力する必要があります。メインドメインのために MX レコードを設定する場合は、入力フィールドを空欄にしてください。次にメールエクスチェンジャを入力します。これはあなたのメールサーバの名前です。リモートで 'mail.myhostname.com' という名前のメールサーバを稼働させている場合は、'mail.myhostname.com' と入力フィールドに入力します。次にメールエクスチェンジャの優先度を設定する必要があります。ドロップダウンボックスを使用して、優先度を選択します。0 が最高の優先度、50 が最低の優先度となります。リモートのメール交換サーバを使用する場合は、適切な A レコードおよび/または CNAME レコードを追加する必要があります。
  - CNAME レコードでは、まず CNAME レコードを作成するエイリアスドメイン名を入力します。次にエイリアスをつけるドメイン名を入力します。どのようなドメイン名を入力することも可能です。これは同じサーバ上である必要はありません。
  - PTR レコードでは、まずポインタを設定する IP アドレス/マスクを入力します。次にこの IP を移送する適切なドメイン名を入力します。
  - TXT レコードでは、SPF レコードの説明など、任意のテキスト文字列を入力できます。
  - SRV レコードについては、サービス名、プロトコル名、ポート番号、ターゲットホストを入力する必要があります。サーバおよびプロトコル名はアンダーライン記号で始める必要があります。適切なフィールドでサービスの優先度やサービスの重要度を指定することもできます。
4. [OK] をクリックしてデータを適用します。

---

注：DNS ゾーンの DNS レコードを変更し終わったら、DNS ゾーン画面（[DNS 設定]）の [適用] ボタンをクリックして変更を承認します。承認しなかった変更は保存されません。

---

## リソースレコードの変更

➤ リソースレコードのプロパティを修正するには、以下の操作を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定] ( [Webサイト] グループ内) に進みます。
2. 修正したいリソースレコードに対応する [ホスト] 列内のハイパーリンクをクリックします。
3. 必要に応じてレコードを修正し [OK] をクリックします。

➤ ドメインの SOA レコード内のエントリを修正するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定] ( [Webサイト] グループ内) に進みます。
2. [SOAレコード] をクリックします。
3. 希望する値を指定します。
  - [TTL] 他の DNS サーバがそのレコードをキャッシュに保存するまでの時間です。 Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 1 日です。
  - [更新] セカンダリネームサーバがプライマリネームサーバに対して、ドメインゾーンのファイルへ何か変更が加えられたかどうかを確認する頻度です。 Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 3 時間です。
  - [再試行] セカンダリサーバが失敗したゾーン転送を再試行するまで待つ時間です。 この時間は更新インターバルよりは短いのが普通です。 Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 1 時間です。
  - [期限切れ] そのゾーンが変更または更新されなかった場合、更新インターバルが経過した後、セカンダリサーバが問い合わせに回答するのを止めるまでの時間です。 Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 1 週間です。
  - [最小値] セカンダリサーバが負の応答をキャッシュするまでの時間です。 Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 3 時間です。
4. [OK] をクリックします。

IETF および RIPE 推奨のシリアル番号フォーマットを使用することが、一部のハイレベル DNS ゾーンで登録されたほとんどのドメイン（ほとんどはヨーロッパ）で必須となっています。ご使用のドメインがこれらのゾーンで登録されており、レジストラに SOA シリアル番号を拒否された場合、IETF および RIPE 推奨のシリアル番号フォーマットを使用すれば問題が解決します。

Parallels Plesk Panel サーバは UNIX タイムスタンプ構文を使用して DNS ゾーンを設定します。UNIX タイムスタンプは、1970 年 1 月 1 日 (Unix エポック) 以降の秒数です。32 ビットのタイムスタンプは、2038 年 6 月 8 日にオーバーフローしてしまいます。

RIPE は YYYYMMDDNN フォーマットの使用を推奨しています。YYYY が年 (4 桁)、MM が月 (2 桁)、DD が日 (2 桁) で NN がその日のバージョンです (2 桁)。YYYYMMDDNN フォーマットは 4294 年までオーバーフローしません。

➤ **ドメインの Start of Authority (SOA) シリアル番号フォーマットを YYYYMMDDNN に変更するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [DNS設定] ( [Webサイト] グループ内) に進みます。
2. [SOAレコード] をクリックします。
3. [IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを利用する] チェックボックスを選択します。

---

注： 選択したフォーマットで生成した SOA シリアル番号のサンプルをご覧ください。生成した番号が現在のゾーン番号よりも小さい場合、変更によってこのドメイン用の DNS が一時的に誤動作する場合があります。ゾーンの更新がインターネットユーザから見えない場合があります。

---

4. [OK] をクリックします。

## リソースレコードの削除

➤ ゾーンからリソースレコードを削除するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. 削除したいレコードに対応するチェックボックスを選びます。
3. [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

---

注：DNS ゾーンの DNS レコードを変更し終わったら、DNS ゾーン画面（[DNS 設定]）の [適用] ボタンをクリックして変更を承認します。承認しなかった変更は保存されません。

---

## 元のゾーン設定の復元

➤ サーバ規模のDNS設定に従って、元のゾーン設定を復元するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト]グループ内）に進みます。
2. [IPアドレス]ドロップダウンボックスで、そのゾーンを復元するために使うIPアドレスを選択して、wwwエイリアスがそのドメインに必要なかどうかを指定して[デフォルト]ボタンをクリックします。ゾーン設定が再作成されます。

➤ ドメインの *Start of Authority* (SOA) シリアル番号フォーマットをデフォルト (UNIX タイムスタンプ) に戻すには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト]グループ内）に進みます。
2. [SOAレコード] をクリックします。
3. [IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを利用する] チェックボックスの選択を外します。

---

注： 選択したフォーマットで生成した SOA シリアル番号のサンプルをご覧ください。生成した番号が現在のゾーン番号よりも小さい場合、変更によってこのドメイン用の DNS が一時的に誤動作する場合があります。ゾーンの更新がインターネットユーザから見えない場合があります。

---

4. [OK] をクリックします。



---

## 外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給

このサーバ上で Web サイトをホスティングし、そのサイトのプライマリ（マスター）ネームサーバとして機能するスタンドアロン DNS サーバがある場合は、コントロールパネルの DNS サーバが、セカンダリ（スレーブ）ネームサーバとして機能するように設定する必要があることもあります。

➤ **コントロールパネルの DNS サーバをセカンダリネームサーバとして機能させるには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [DNSサービスモードを切り替える] をクリックします。
3. プライマリ（マスター）DNSサーバのIPアドレスを指定します。
4. [追加] をクリックします。
5. サーバ上でセカンダリネームサーバを持つ必要があるWebサイトごとに、1から5のステップを繰り返します。

➤ **コントロールパネルの DNS サーバをゾーンのプライマリとして機能させるには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [DNSサービスモードを切り替える] をクリックします。そのゾーンの元のリソースレコードが復元されます。

Web サイトの中に外部ネームサーバ権限を持つものがある場合、外部ネームサーバによって使用されるサイトごとのコントロールパネル DNS サービスをオフにします。

➤ **外部ネームサーバが提供するサイトに対するコントロールパネルの DNS サービスをオフに切り替えるには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。

2. [ツール] グループの [DNSサービスの無効化] をクリックします。ゾーンのDNSサービスを無効にすると、画面が更新されるので、ネームサーバのリストだけが残ります。

---

注: リストにあるネームサーバのレコードは、システムに何の影響も与えません。ネームサーバのレコードは画面上に表示され、それらをクリックすると、外部権限を持つネームサーバ上にゾーンの設定が維持されていることを確認することができます。

---

3. 外部ネームサーバによって使用されているサイトごとに、1から3のステップを繰り返し、ローカルドメインネームサービスを無効にします。

➤ **権限のあるネームサーバ上に維持されているゾーンの設定を確認したい場合は、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [DNS設定] ( [Webサイト] グループ内) に進みます。
2. そのゾーンに対して権限のある適切なネームサーバをポイントするエントリーをリストに追加します。 [追加] をクリックしてネームサーバを指定し [OK] をクリックします。テストしたいネームサーバごとにこれを繰り返します。  
レコードがリスト内に表示されます。
3. 作成したレコードをクリックします。 Parallels Plesk Panelは、リモートネームサーバからゾーンファイルを検索し、リソースレコードをチェックして、ドメインのリソースが正しく解決されるようにします。  
結果が解釈され、画面上に表示されます。

---

## Web ホスティングタイプを物理的から転送へ変更

サーバ上のサイトを仮想（または物理的）ホスティングアカウントでホストしていて、それが他のサーバへ移動したためそのサイトについてはドメイン転送のみが必要になった場合は、そのホスティングアカウントを再構成する必要があります。

ホスティングタイプが変更されるとそのサイトに関連する全てのファイルおよびディレクトリもサーバから移動するので、サイト所有者は物理的ホスティングアカウントにあったサイトのホスティング構成を変更する前に、そのサイトがローカルにコピーしてあることを確認してください。

### ➤ ホスティング構成の再構成には以下を実行します。

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webサイト] グループタイトルメニュー > [ホスティングタイプの変更] に進みます。

2. [転送] オプションを選択してから、転送のタイプ（**フレーム転送**または**標準転送**）を選択します。

標準転送では、ユーザはそのサイトに転送され、実際のサイト URL がユーザのブラウザに示されます。従って、ユーザは別の URL へ転送されていることが常に分かります。フレーム転送では、ユーザはそのサイトが実際は別の場所にあることを知らずに転送されます。従って**フレーム転送**が望ましいのです。

3. 転送先のURLを指定します。このドメインがポイントしてほしい現在のWebサイトのアドレスです。

4. [OK] をクリックします。

## 他のサーバにホストされているサイトのドメイン名の使用（ドメイン転送）

➤ **他のサーバにホストされているWebサイトをポイントするドメイン名（複数の場合も含めて）を使用する必要がある場合は、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > [ドメインの作成] に進みます。

2. ドメイン名を指定します。

ユーザが例えば[www.your-domain.com](http://www.your-domain.com)のような共通・常用のURLによってサイトへアクセスすることを許可するには、[www] チェックボックスを選択したままにします。ドメイン名の前に www エイリアスをつけると、ユーザがブラウザに何を入力しても、そのサイトへ行くことができます。 [www.your-domain.com](http://www.your-domain.com) と [your-domain.com](http://your-domain.com)、どちらもそのサイトをポイントします。

3. 選択先のIPアドレスが複数ある場合、[IPアドレスの割り当て] メニューから必要なアドレスを選択します。

SSL(Secure Sockets Layer)データ暗号化を実行するために、E-コマースサイトはIPアドレス（他のサイトと共有でない）が必要であることにご注意ください。

4. [ドメインテンプレート設定を利用する] メニューの [テンプレートを使わずにドメインを作成する] オプションを選択したままにします。

5. [メール] および [DNS] チェックボックスを選択します。

6. [ホスティングタイプ] で [転送] オプションを選択します。

7. 転送先のURLを指定します。このドメインがポイントしてほしい現在のWebサイトのアドレスです。

8. 転送のタイプを選択します。[フレーム転送] または [標準転送] です。

標準転送では、ユーザはそのサイトに転送され、実際のサイト URL がユーザのブラウザに示されます。従って、ユーザは別の URL へ転送されていることが常に分かります。フレーム転送では、ユーザはそのサイトが実際は別の場所にあることを知らずに転送されます。従って**フレーム転送**が望ましいのです。

9. 転送先のURLを指定します。このドメインがポイントしてほしい現在のWebサイトのアドレスです。

10. [OK] をクリックします。

---

## Web サイトホスティングアカウント のアップグレード

➤ Web サイトの設定を変更するには、以下を実行してください。


1. [ドメイン] > ドメイン名に進みます。
2. より多くのディスク容量、帯域幅、その他のリソースを割り当てるには、  
[リソース使用量] をクリックします。
3. プログラミング言語およびスクリプトのサポートなどのホスティング機能を追加するには、[Webホスティング設定] をクリックします。
4. 期限の切れたWebサイトホスティングアカウントを更新（延長）するには、  
[リソース使用量] をクリックして、他の期間を [有効期限] に指定し、  
[OK] をクリックします。それから [中断解除] をクリックします。

### このセクションの内容:

多数の Web ホスティングアカウントへの類似の変更の実行 ..... 166

## 多数の Web ホスティングアカウントへの類似の変更の実行

➤ 多数のホスティングアカウントに対して同時にホスティングオプションを変更するには、以下を実行します。

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一括操作を実行したいドメイン名に該当するチェックボックスを選択します。
3.  [修正] をクリックします。
4. [ステータス] セクションで、ドメインを中断または中断解除できます。ドメインを中断または中断解除するには、[有効化] または [無効化] するためのオプションボタンを選択します。[変更しない] を選択すると変更されません。
5. [制限] セクションにはすべてのドメイン特有の制限が表示されます。制限を変更するには、リストの左側で適切なメニューを選択します。必要に応じて、設定を調整してください。
  - 制限を削除するには [無制限] を選択します。
  - 具体的な値で制限を設定するには [値] を選択して指定の値を数字で入力します。
  - [増加(+)] を選択し、値の種類具体的な単位またはパーセント) を選択して数値を入力し、指定の値 (具体的な単位またはパーセントで) だけ対応する限度を増加させます。
  - [減少(-)] を選択し、値の種類具体的な単位またはパーセント) を選択して数値を入力し、指定の値 (具体的な単位またはパーセントで) だけ対応する限度を減少させます。
  - 変更しない場合には [変更しません] 値が選択されたままにします。
6. [ホスティング] セクションにはホスティングパラメータのリストが表示されます。ドメインの機能の可用性を変更するには、[有効化] または [無効化] するために適切なオプションボタンを選択します。[変更しない] を選択すると変更されません。
7. [プリファレンス] セクションにはドメインプリファレンスのリストが表示されます。ドメインのプリファレンスを設定するには、[有効化] または [無効化] するために適切なオプションボタンを選択します。[変更しない] を選択すると変更されません。

8. [サービス] セクションでは様々なドメインサービスの可用性を定義することができます。それには、[有効化] または [無効化] するために適切なオプションボタンを選択します。[変更しない] を選択すると変更されません。
9. [OK] をクリックします。

---

## Web サイトの中断および中断解除

➤ **ドメイン (Web サイト) を中断するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] ドメイン名に進みます。
2. [中断] をクリックします。

ドメイン (Web サイト) は中断されます。その Web、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメイン所有者はコントロールパネルにログインできなくなります。

➤ **ドメイン (Web サイト) の中断を解除するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] ドメイン名に進みます。
2. [中断解除] をクリックします。

---

## Web サイトの削除

➤ **ドメイン(Web サイト)をその Web コンテンツごと削除するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] をクリックします。
2. 削除するドメイン名のチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

➤ **サブドメインとその Web コンテンツを削除するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > [サブドメイン] に進みます。
2. 削除したいサブドメインに対応するチェックボックスを選びます。
3. [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。



# メールサービスの使用

1つのメールアカウントで様々なメールサービスを利用できます。例えば、標準的なメールボックスとしてメールを受け取ったり、多数の宛先へ転送したり、送信者へ自動的に応答するようなメールアドレスを持つことができます。

➤ **外部メールサーバを持つ特定のドメイン下のメールボックスを提供するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [DNS設定]（[Webサイト]グループ内）に進みます。
2. [レコードタイプ]の列でMXレコードを指定し、左側の[ホスト]の列でそれぞれのリンクをクリックします。
3. [メールエクスチェンジャを入力]ボックスに外部メールサーバのホスト名（例えばmailserver.example.com）を入力します。
4. [OK] をクリックします。
5. [上位レベルへ] をクリックしてドメイン管理画面に戻ります。
6. [メールアカウント] をクリックします。
7. [メールアカウント] > [メール設定] をクリックします。
8. [ドメイン上でメールサービスを有効化する] チェックボックスの選択を外して、[OK] をクリックします。

## この章の内容:

メールボックスの作成 .....	171
メールにアクセス.....	172
スパムからのメールボックスの保護 .....	190
ウイルスからのメールボックスの保護.....	197
メールボックスの中断および中断解除.....	199
メールボックスの削除 .....	200
アカウントのメールボックスフォワーダへの変更を決定した場合のメールボックスサービスの無効化.....	200
単一メールアドレスへのメール転送の設定.....	201
複数メールアドレスへのメール転送の設定.....	203
メールフォワーダの削除.....	205
自動応答の設定.....	206
自動応答の無効化.....	208
存在しないユーザ宛メールの処理に対するサイト単位のプリファレンス（メール転送） .....	209
複数のメールアカウントへの類似変更の同時処理の導入.....	210
メーリングリストの保守 .....	211

---

## メールボックスの作成

➤ **メールボックスを作成するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メールアカウントの作成] に進みます。
2. ドメイン名が @ 記号の右側に表示され、あとはメールボックスに必要な名前を指定するだけです。  
ドットで区切ったユーザの名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。
3. メールボックスの所有者がメールボックスへのアクセスに使用するパスワードを指定します。
4. ユーザのコントロールパネル外観に関連する設定を指定します。インターフェース言語、テーマ（スキン）、メールボックスの所有者によりコントロールパネル内のカスタムボタンに表示される文字数の制限などです。
5. メールボックスの所有者がコントロールパネルで複数のセッションを同時に実行できるようにするには、[複数セッションを許可する] チェックボックスを選択したままにします。
6. [インターフェース画面が完全にロードされるまでコントロールパネルでユーザが操作するのを禁止する] チェックボックスを選択したままにしてください。  
そうすると、ユーザはコントロールパネルの準備ができるまでデータを送信したり操作を実行することができないようになります。
7. チェックマークが [メールボックス] チェックボックスに表示されることを確認してください。必要に応じて、このメールボックスおよび自動応答の添付ファイルで使用できるディスク容量を制限します。この場合、[メールボックスクォータ] で [サイズ入力] オプションを選択し、指定する値をキロバイトで入力します。[OK] をクリックします。
8. メールボックス所有者が自分のメールアカウントを管理するためにコントロールパネルにログインできるようにするには、[権限] をクリックして、[すべて選択] ショートカットをクリックして [OK] をクリックします。

これでメールボックスが作成され、Parallels Plesk Panelに専用のメール管理パネルが設定されました。管理パネルに入力する場合、メールボックス所有者はURL <https://your-domain.com:8443>を閲覧し、[ログイン] ボックスにメールアドレスを入力し、[パスワード] ボックスにメールボックスのパスワードを入力してから、[ログイン] をクリックします。

---

## メールにアクセス

メールを送受信するためにメールボックスにアクセスするには、以下の2つの方法があります。

- コンピュータ上にメールクライアントプログラムをセットアップして使用。
- ウェブブラウザを使用してウェブメールインターフェースに接続。

➤ **ウェブメールインターフェースにアクセスするには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メール] グループタイトルメニュー > [メール設定] に進みます。
2. [ウェブメール] メールから、必要なウェブメールアプリケーションを選択します。
3. [OK] をクリックします。

---

**注:**ドメインに対するウェブメールの有効化と無効化には、DNS ゾーンでの変更が伴うため、実際には、DNS 登録メカニズムの速度によりウェブメールを有効化および無効化する場合に一定の遅延が発生します。

---

➤ **ウェブメールにアクセスするには、以下を実行してください。**

ウェブブラウザで URL `webmail.example.com` を訪問します。ここで、`example.com` は貴社ウェブサイトのインターネットアドレスです。指示されたら、ユーザ名にメールアドレス全体を入力して（例えば `mail@example.com`）、Panel へのログインに使用するパスワードを入力します。

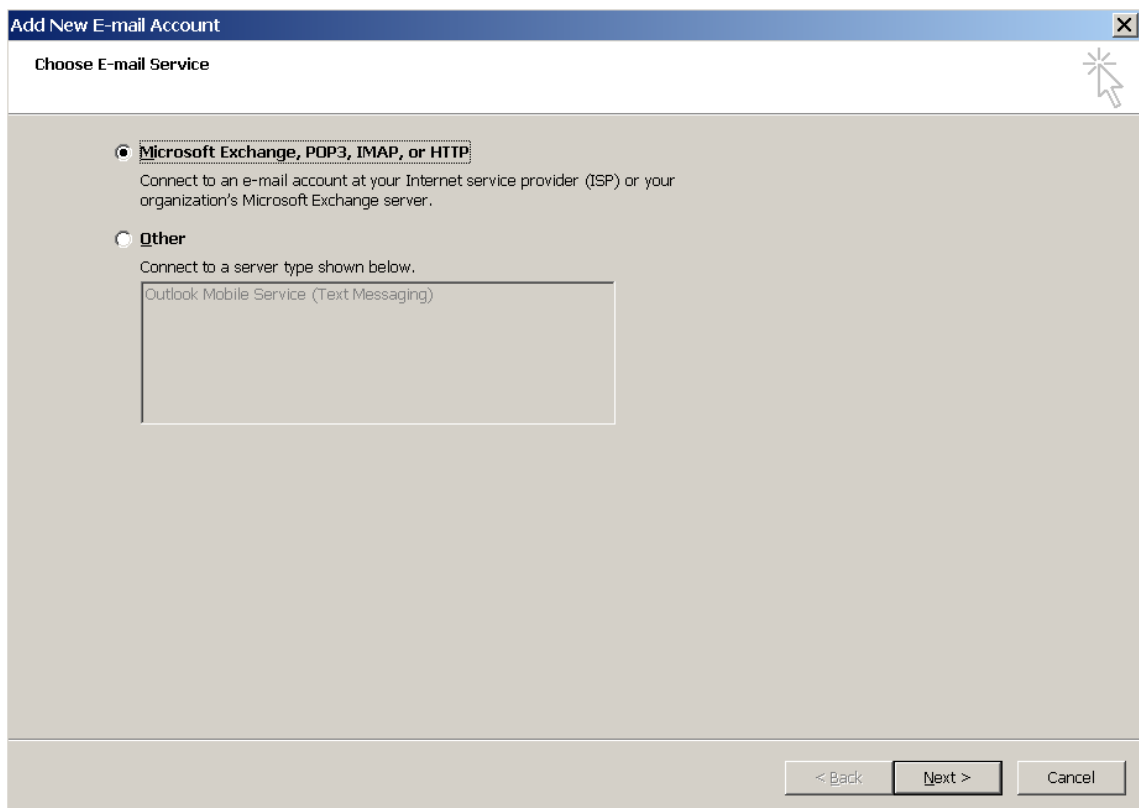
### このセクションの内容:

Microsoft Office Outlook 2007 の設定 .....	173
Microsoft Outlook Express 6 の設定 .....	176
Mozilla Thunderbird の設定 .....	180
Apple Mail の設定 .....	185

## Microsoft Office Outlook 2007 の設定

➤ **Microsoft Office Outlook 2007 を設定するには、以下を実行します。**

1. Microsoft Office Outlookを開きます。
2. [ツール] > [アカウント設定] に進みます。
3. [メール] タブで [新規] をクリックします。
4. [Microsoft Exchange、POP3、IMAP、またはHTTP] オプションを選択したままにします。 [次へ] をクリックします。



5. [サーバ設定または追加サーバタイプを手動で設定します] チェックボックスを選択します。 [次へ] をクリックします。

**Add New E-mail Account**

**Auto Account Setup**

Your Name:   
Example: Barbara Sankovic

E-mail Address:   
Example: barbara@contoso.com

Password:   
Retype Password:   
Type the password your Internet service provider has given you.

Manually configure server settings or additional server types

< Back   Next >   Cancel

6. [インターネットメール] オプションを選択して [次へ] をクリックします。

**Add New E-mail Account**

**Choose E-mail Service**

**Internet E-mail**  
Connect to your POP, IMAP, or HTTP server to send and receive e-mail messages.

**Microsoft Exchange**  
Connect to Microsoft Exchange for access to your e-mail, calendar, contacts, faxes and voice mail.

**Other**  
Connect to a server type shown below.  
Outlook Mobile Service (Text Messaging)

< Back   Next >   Cancel

7. 以下を指定します。

- 名前。
- メールアドレス。
- アカウントタイプ。メッセージのコピーをサーバに残したい場合は、IMAP オプションを選択します。サーバにメッセージを一切残したくない場合は、POP3 オプションを選択します。
- 受信メールサーバ。ドメイン名を入力します。例えば、example.com になります。
- 送信メールサーバ。ドメイン名を入力します。例えば、example.com になります。
- メールボックスにログインするユーザ名。メールアドレス全体を入力します。
- メールボックスにログインするパスワード。通常、このパスワードは Panel にログインするときに使用するパスワードと同じです。

**Add New E-mail Account**

**Internet E-mail Settings**  
Each of these settings are required to get your e-mail account working.

**User Information**

Your Name: John Doe  
E-mail Address: mail@example.com

**Server Information**

Account Type: POP3  
Incoming mail server: example.com  
Outgoing mail server (SMTP): example.com

**Logon Information**

User Name: mail@example.com  
Password: \*\*\*\*\*  
 Remember password  
 Require logon using Secure Password Authentication (SPA)

**Test Account Settings**

After filling out the information on this screen, we recommend you test your account by clicking the button below. (Requires network connection)

Test Account Settings ...

More Settings ...

< Back   Next >   Cancel

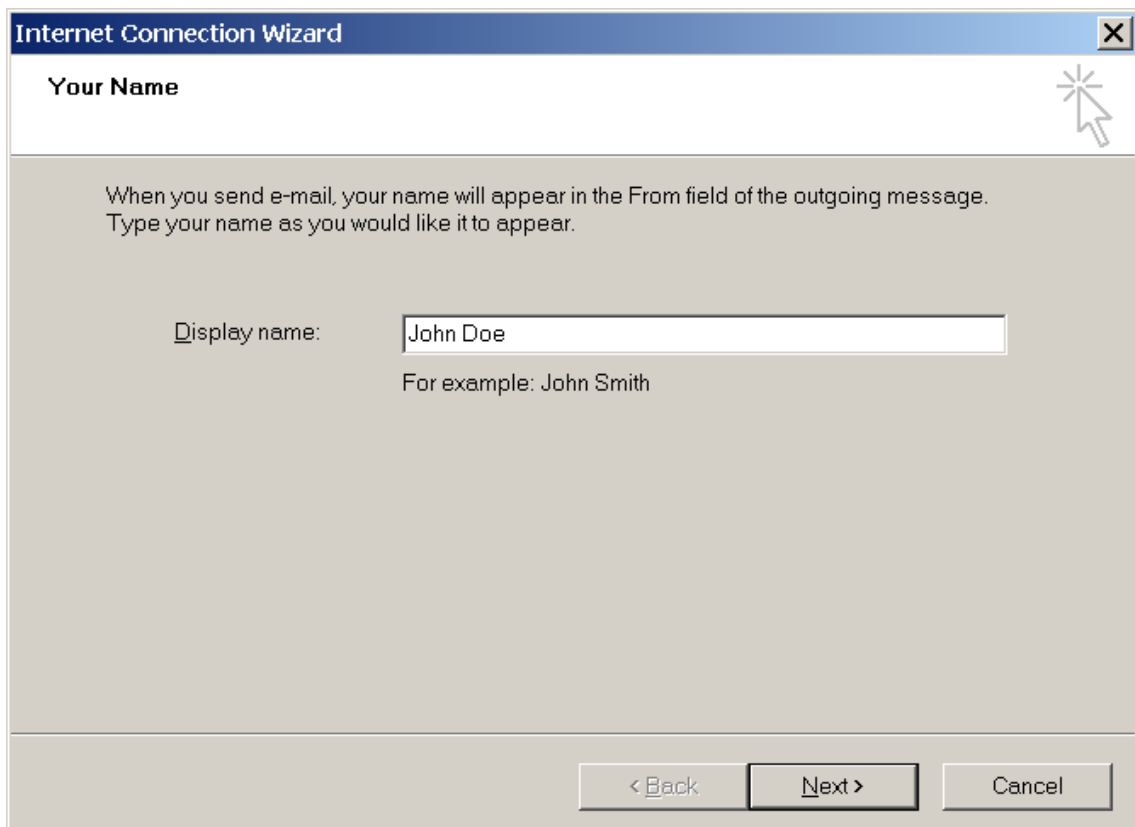
8. [次へ] をクリックします。
9. [終了] をクリックします。

## Microsoft Outlook Express 6 の設定

このセクションの内容は、Microsoft Outlook Express 6 に対して検証済みです。それより前または後のバージョンの Microsoft Outlook Express においては当てはまらない場合があります。

➤ **Microsoft Outlook Express を設定するには、以下を実行します。**

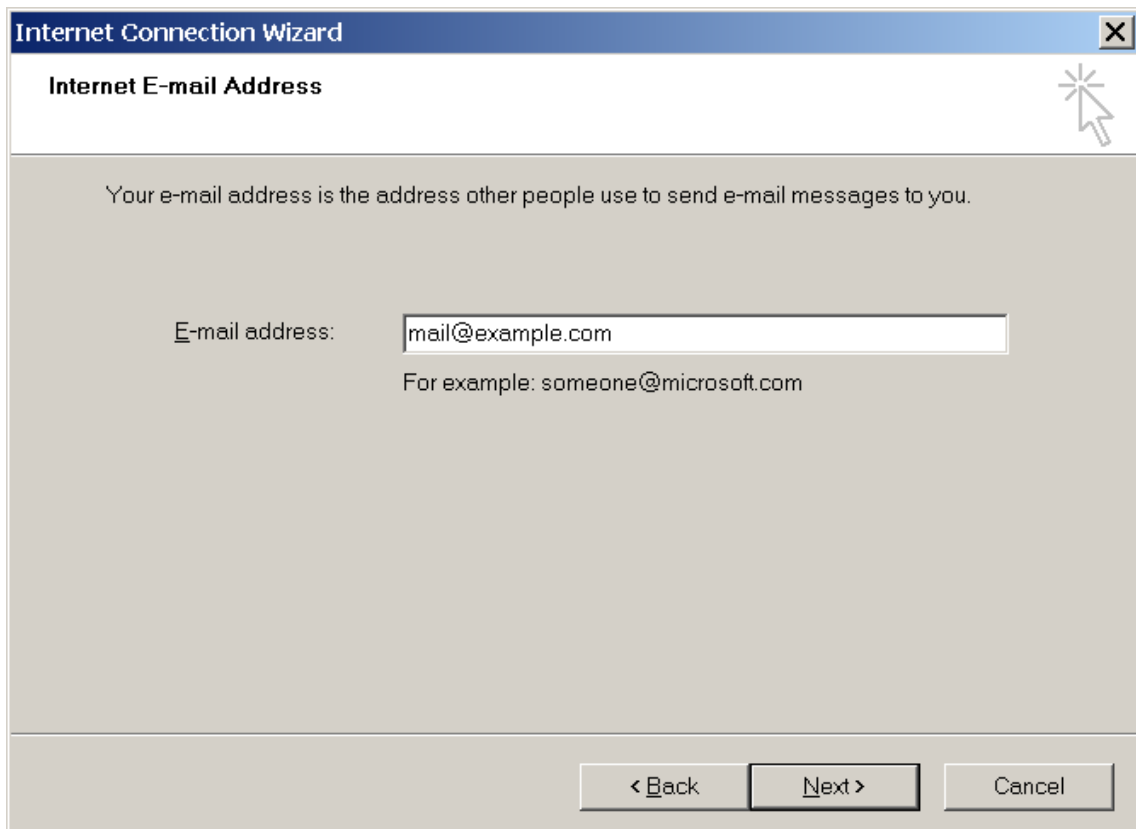
1. Microsoft Outlook Express を開きます。
2. [ツール] > [アカウント] に進みます。
3. [追加] ボタンをクリックし、[メール] 項目を選択します。
4. 送信する全てのメッセージに表示される名前を入力し、[次へ] をクリックします。



The screenshot shows a window titled "Internet Connection Wizard" with a close button (X) in the top right corner. The main heading is "Your Name". Below the heading is a text area with the instruction: "When you send e-mail, your name will appear in the From field of the outgoing message. Type your name as you would like it to appear." There is a text input field labeled "Display name:" containing the text "John Doe". Below the input field is the example text "For example: John Smith". At the bottom of the window are three buttons: "< Back", "Next >", and "Cancel".

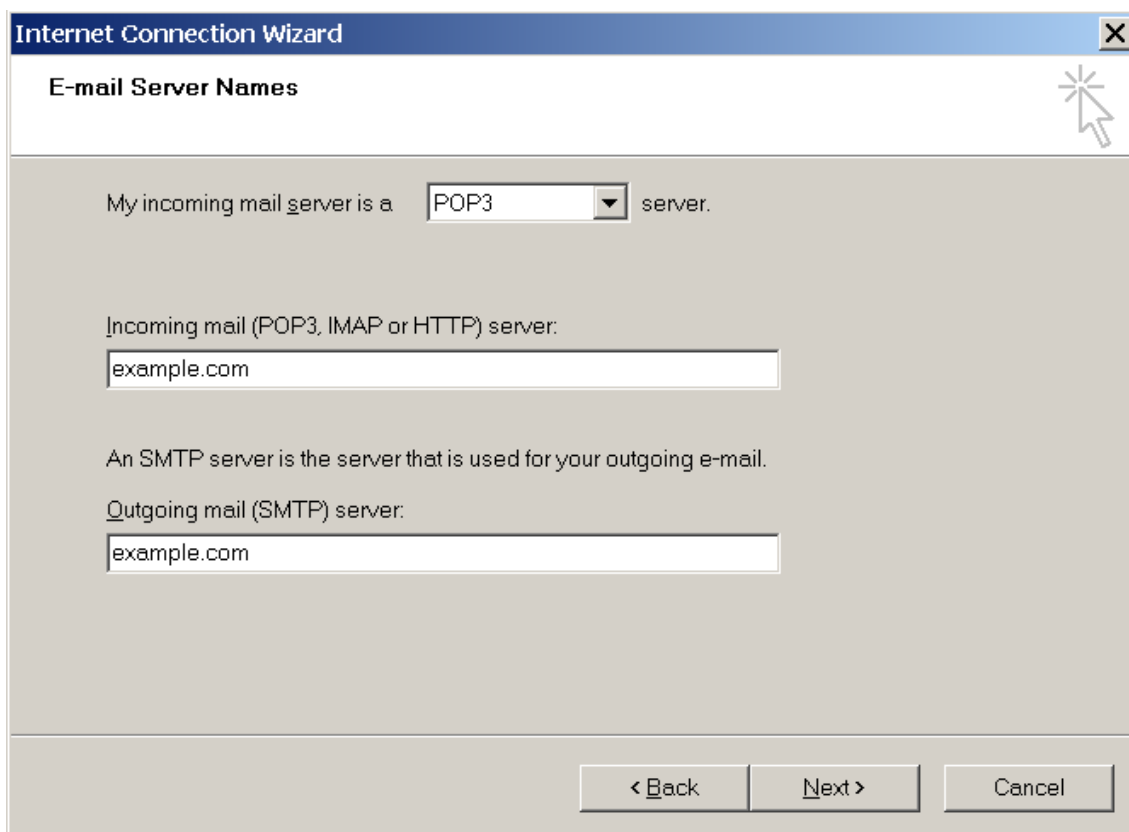
5. メールアドレスを入力して [次へ] をクリックします。





6. 以下の設定を指定します。

- 受信メールサーバのプロトコル。  
メッセージのコピーをサーバに残したい場合は、**IMAP** オプションを選択します。  
サーバにメッセージを一切残したくない場合は、**POP3** オプションを選択します。
- 受信メールサーバ。 ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。
- 送信メールサーバ。 ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。



The screenshot shows a window titled "Internet Connection Wizard" with a close button (X) in the top right corner. The main title of the dialog is "E-mail Server Names".

My incoming mail server is a  server.

Incoming mail (POP3, IMAP or HTTP) server:

An SMTP server is the server that is used for your outgoing e-mail.

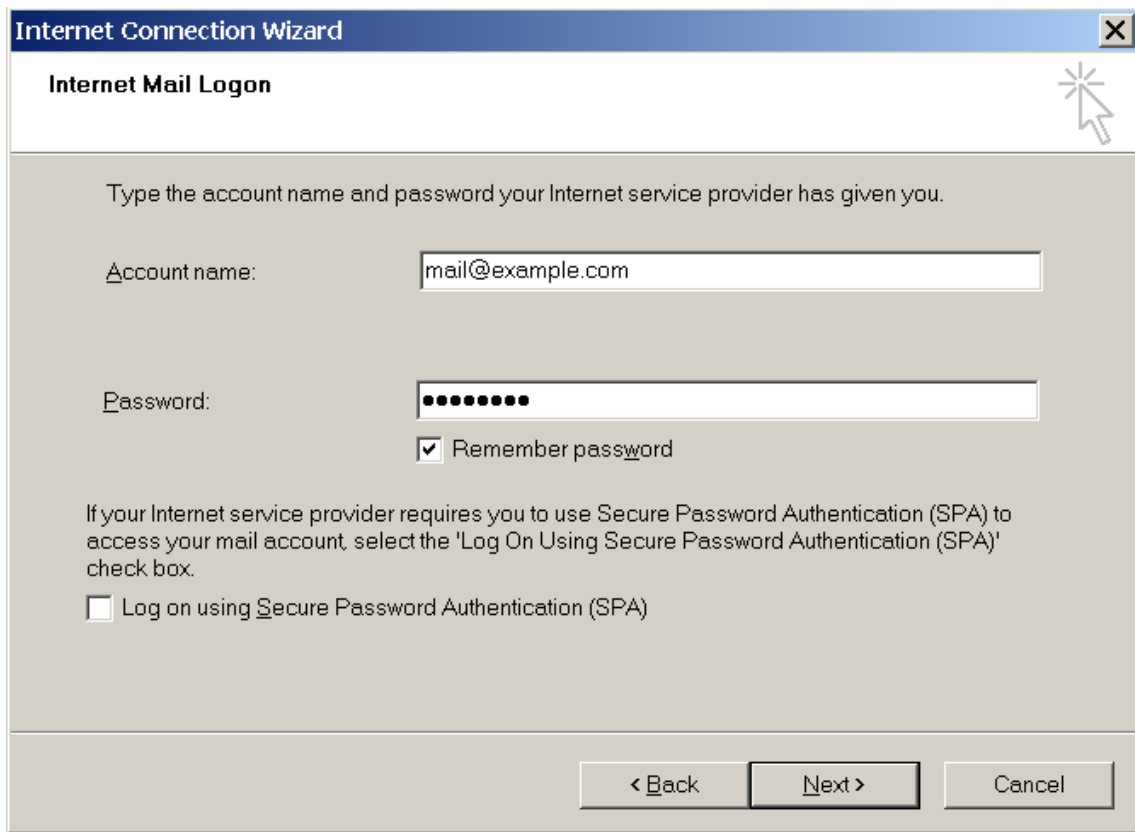
Outgoing mail (SMTP) server:

At the bottom right, there are three buttons: "< Back", "Next >", and "Cancel".

7. [次へ] をクリックします。

8. 以下を指定します。

- アカウント名。 [アカウント名] ボックスにメールアドレスを入力します。」
- パスワード。 通常、このパスワードは Panel にログインするときに使用するパスワードと同じです。
- [パスワードを記憶する] チェックボックス。 メールプログラムがメールサーバに接続し新規メールをチェックするたびに、パスワードの入力が要求されないようにする場合はそのボックスを選択したままにして、[次へ] をクリックします。



The screenshot shows a dialog box titled "Internet Connection Wizard" with a sub-header "Internet Mail Logon". The dialog contains the following elements:

- A title bar with a close button (X) in the top right corner.
- A sub-header "Internet Mail Logon" in the top left corner.
- A mouse cursor icon in the top right corner.
- Instructional text: "Type the account name and password your Internet service provider has given you."
- An "Account name:" label followed by a text input field containing "mail@example.com".
- A "Password:" label followed by a password input field containing ten dots.
- A checked checkbox labeled "Remember password".
- Additional text: "If your Internet service provider requires you to use Secure Password Authentication (SPA) to access your mail account, select the 'Log On Using Secure Password Authentication (SPA)' check box."
- An unchecked checkbox labeled "Log on using Secure Password Authentication (SPA)".
- Navigation buttons at the bottom: "< Back", "Next >", and "Cancel".

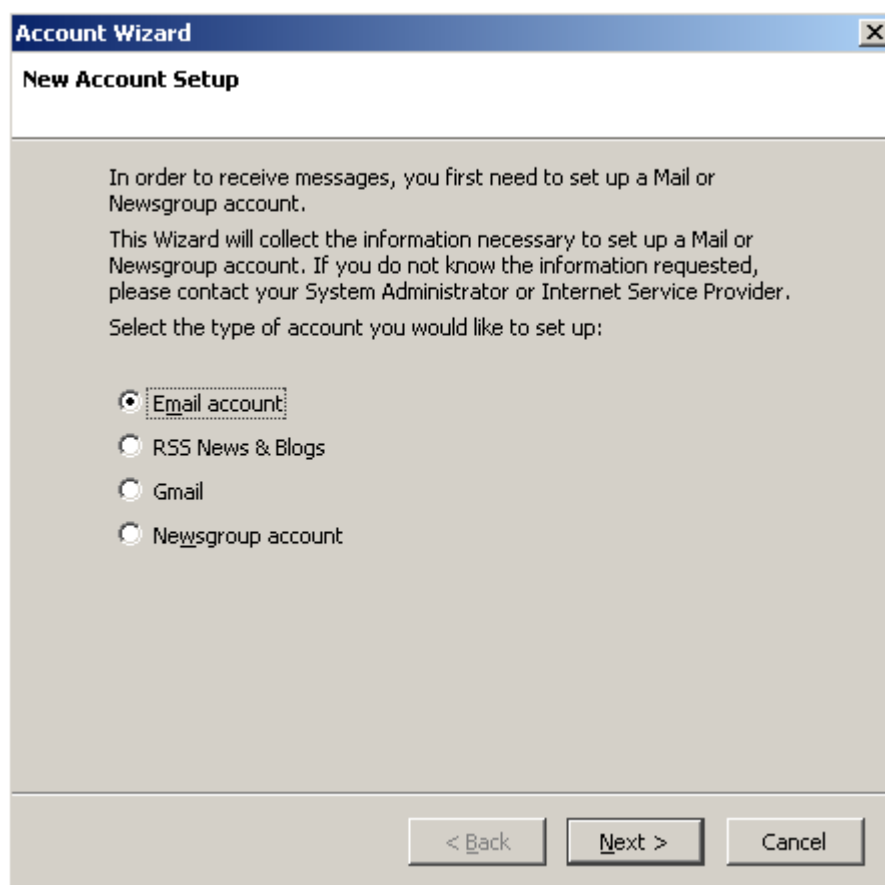
9. メールプログラムの設定を終了する場合は、[完了] をクリックします。

## Mozilla Thunderbird の設定

このセクションの内容は、Mozilla Thunderbird 2 に対して検証済みです。それより前または後のバージョンの Mozilla Thunderbird においては当てはまらない場合があります。

➤ **Mozilla Thunderbird を設定するには、以下を実行します。**

1. Mozilla Thunderbirdを開きます。
2. [ツール] > [アカウント設定] に進みます。
3. [アカウントを追加] をクリックします。  
アカウントウィザードが開きます。
4. [メールアカウント] オプションを選択したまま、[次へ] をクリックします。



5. 以下を指定します。
  - 名前（送信するすべてのメッセージに表示する場合）。
  - メールアドレス。

**Account Wizard** [Close]

**Identity**

Each account has an identity, which is the information that identifies you to others when they receive your messages.

Enter the name you would like to appear in the "From" field of your outgoing messages (for example, "John Smith").

Your Name:

Enter your email address. This is the address others will use to send email to you (for example, "user@example.net").

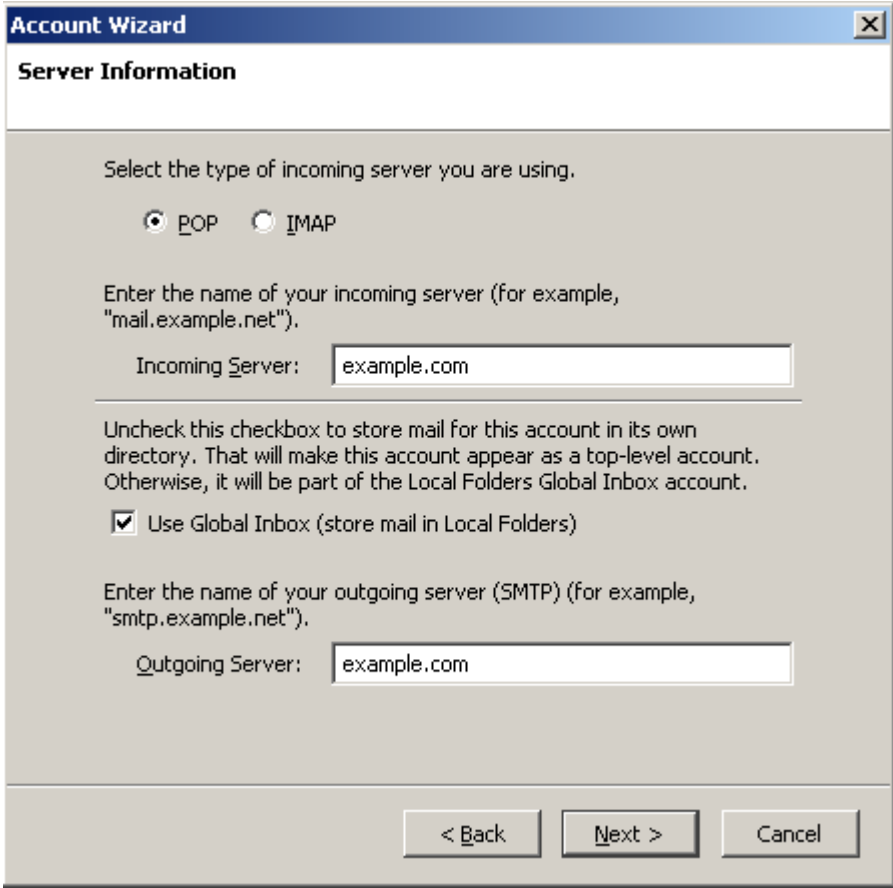
Email Address:

< Back    Next >    Cancel

6. [次へ] をクリックします。

7. 以下を指定します。

- 受信メールサーバのプロトコル。  
メッセージのコピーをサーバに残したい場合は、**IMAP** オプションを選択します。  
サーバにメッセージを一切残したくない場合は、**POP3** オプションを選択します。
- 受信サーバアドレス。 ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。
- 送信サーバアドレス。 ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。



**Account Wizard** [X]

**Server Information**

Select the type of incoming server you are using.

POP    IMAP

Enter the name of your incoming server (for example, "mail.example.net").

Incoming Server:

Uncheck this checkbox to store mail for this account in its own directory. That will make this account appear as a top-level account. Otherwise, it will be part of the Local Folders Global Inbox account.

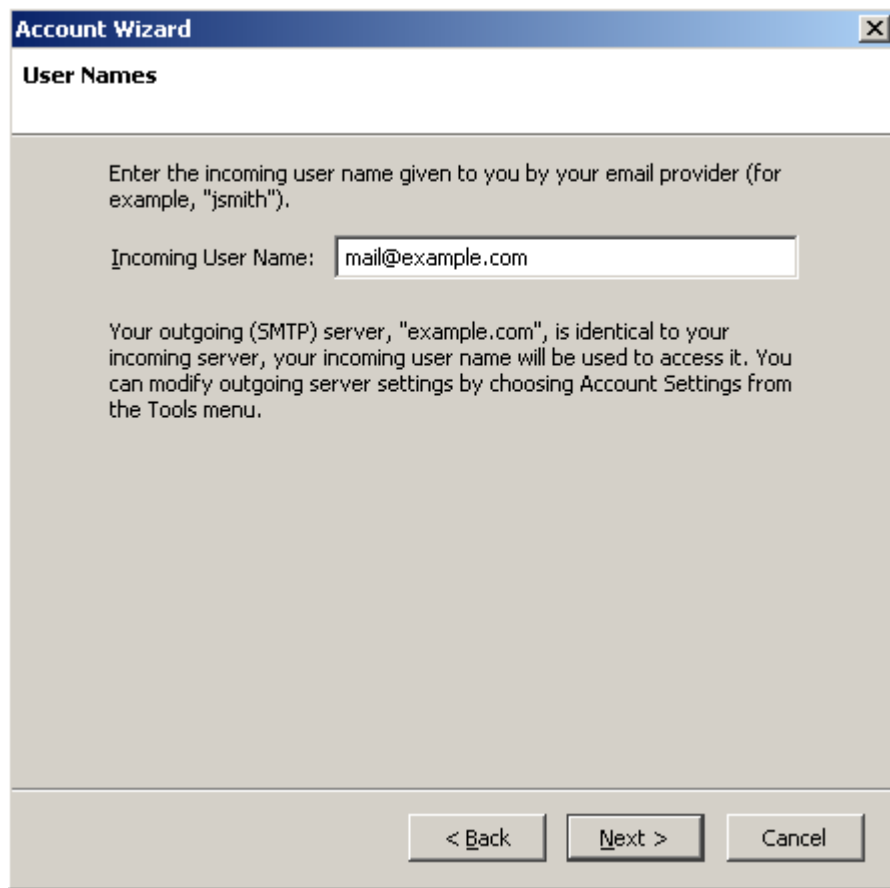
Use Global Inbox (store mail in Local Folders)

Enter the name of your outgoing server (SMTP) (for example, "smtp.example.net").

Outgoing Server:

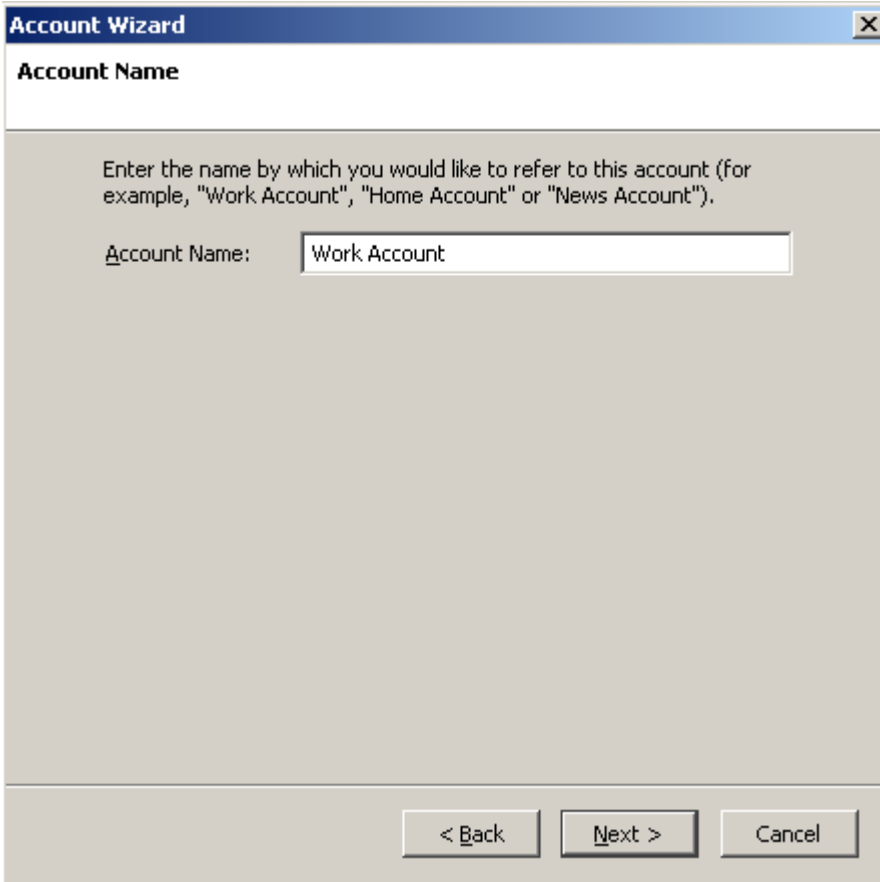
< Back   Next >   Cancel

8. [次へ] をクリックします。
9. [受信サーバアドレス] ボックスに、メールアドレス全体を入力します。



10. [次へ] をクリックします。

11. このアカウントを参照する際の名前（例：Work Account）を入力し、[次へ] をクリックします。



**Account Wizard** [X]

**Account Name**

Enter the name by which you would like to refer to this account (for example, "Work Account", "Home Account" or "News Account").

Account Name:

< Back    Next >    Cancel

12. 入力した情報が正しいことを確認し、**【完了】** をクリックします。
13. **【OK】** をクリックして、アカウント設定ウィザードを閉じます。



## Apple Mail の設定

このセクションでは、Apple Mail 3.6 (Leopard) について説明します。他のバージョンの Apple Mail には当てはまらない場合があります。

➤ **Apple Mail を設定するには、以下を実行してください。**

1. Apple Mail を実行します。

初めての実行であり、メールアカウントを設定していない場合は、次のステップは省略してください。Apple Mail が直接、新規メールアカウントの作成画面を表示します。

2. 以下を実行して、メールアカウントの追加ウィザードを開きます。

- a. [メール] > [プリファレンス...] をクリックします。
- b. [アカウント] タブを選択します。
- c. 左下隅の [+] ボタンをクリックします。

3. 以下のアカウント情報を入力します。

- フルネーム
- メールアドレス
- Panel にログインするときのパスワード

**Add Account**

You'll be guided through the necessary steps to set up an additional mail account.

To get started, fill out the following information:

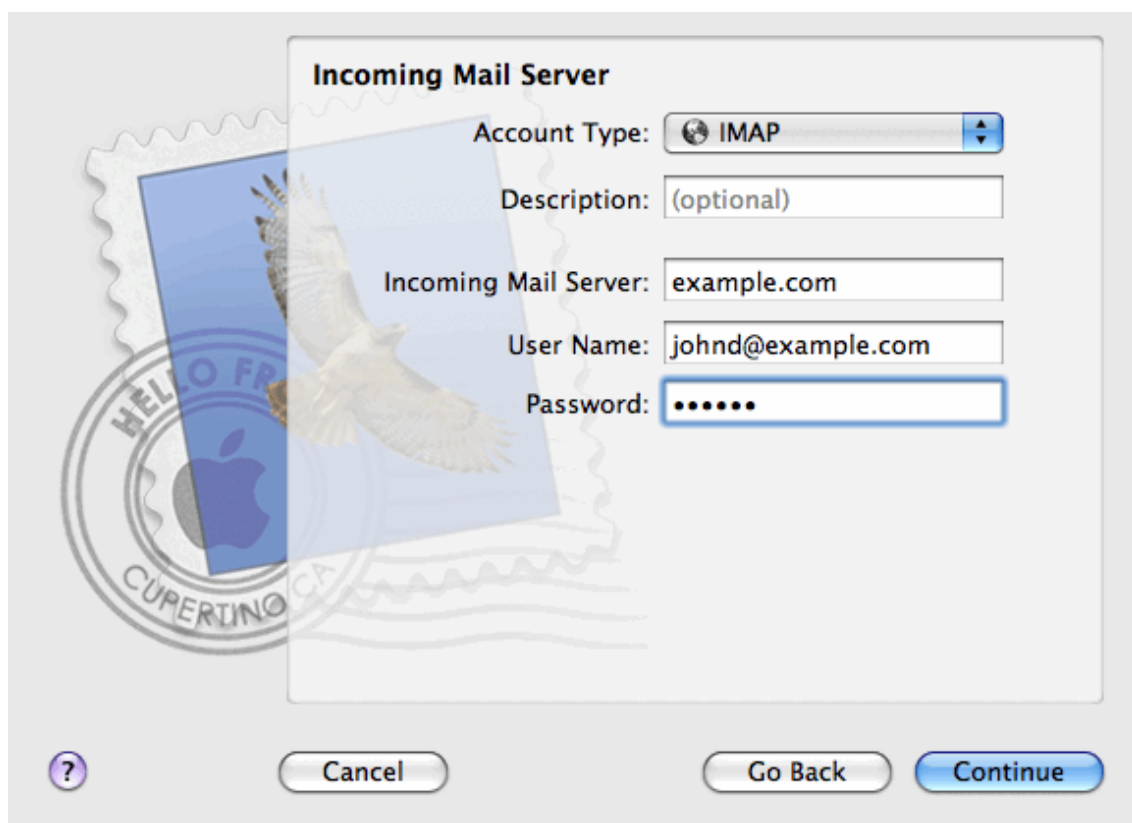
Full Name:

Email Address:

Password:

? Cancel Go Back Continue

4. **【続行】** をクリックします。
5. 以下の受信メールサーバ情報を入力します。
  - **アカウントタイプ:** 使用するプロトコルを選択します (IMAP または POP)。IMAP を選択すると、メッセージがサーバに保存されます。
  - **受信メールサーバ:** メールサービスを提供するドメインの名前を入力します (メールアドレスの @ 記号の後ろです)。
  - **ユーザ名:** メールアドレス全体を入力します。
  - **パスワード:** そのままにします (Apple Mail が前のステップから取得します)。



6. **【続行】** をクリックします。
7. (オプション) 受信メールセキュリティオプションを指定します。
  - a. **【Use Secure Sockets Layer (SSL)】** チェックボックスを選択します。
  - b. 認証方法を選択します。

何を選択すればよいか分からない場合は、デフォルトのままにしてください。Apple Mail は、Panel に組み込まれているメールサーバが、選択したアカウントタイプ (POP または IMAP) 用の SSL をサポートする場合にのみ、この設定画面を表示します。



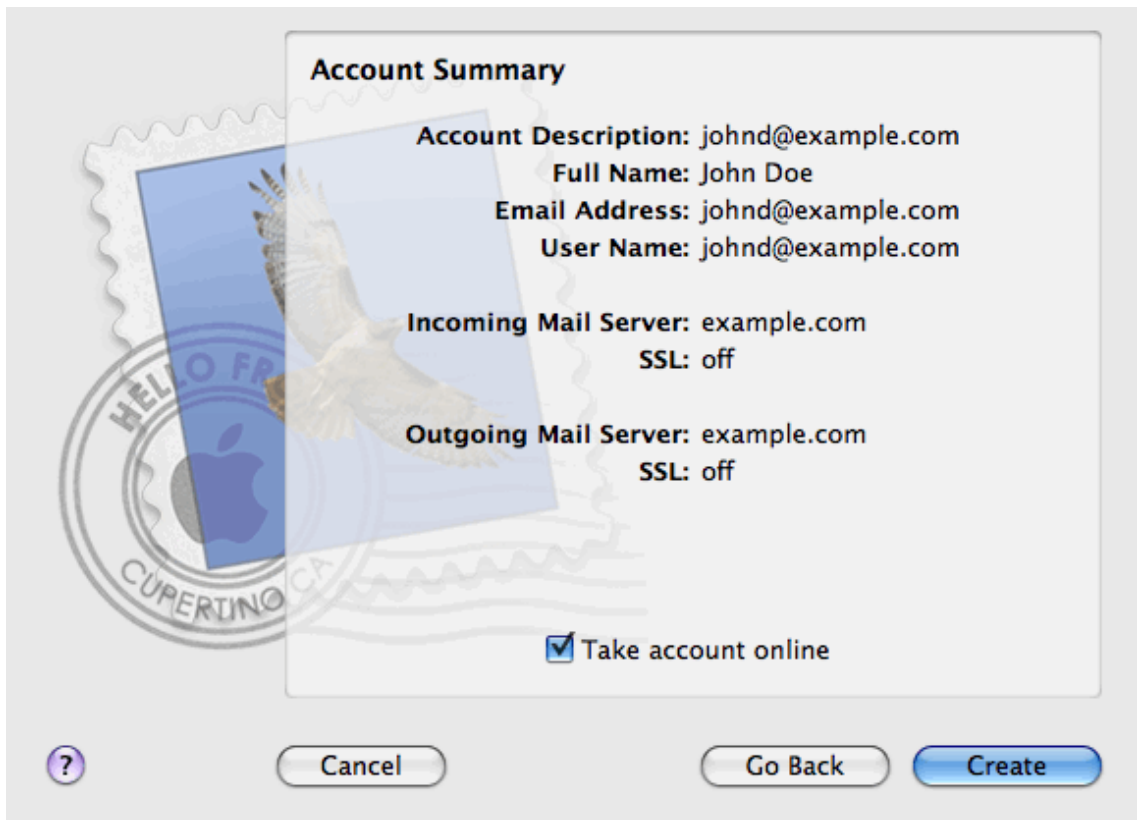
8. [続行] をクリックします。
9. 以下の送信メールサーバ情報を入力します。
  - 送信メールサーバ: メールサービスを提供するドメインの名前を入力します (メールアドレスの @ 記号の後ろです)。
  - Use only this server: 選択済み。
  - Use Authentication: 選択済み。
  - ユーザ名: メールアドレス全体を入力します。
  - パスワード: そのままにします (Apple Mail が前のステップから取得します)。



10. **【続行】** をクリックします。

Apple Mail が、作成されるメールアカウントの概要を表示します。

11. **【Take account online】** チェックボックスを選択して、**【Create】** をクリックします。



## スパムからのメールボックスの保護

不要な通信からメールボックスを保護するには、インターネットフォーラムにメールアドレスを発行せずに、SpamAssassin ソフトウェア内のサーバ側スパムフィルタを有効にします。また、プロバイダに依頼して、DomainKeys に基づくスパムやフィッシング詐欺からの保護をオンに有効にします。

DomainKeys は送信者の認証に基づいています。受領システムは、特定のドメインから送信されたとするメールに対して、そのメールが確かにそのドメインにメールを送信することが認証されている個人またはシステムから送信されたものであるかどうかを、DomainKeys が提供する仕組みによって検証します。送信者を検証した結果、照合されなければ受領システムはそのメールを削除します。着信メールの検証を有効にできるのはプロバイダだけですが、サーバポリシーが許可すれば、ドメインから送信されたメールの署名を有効にできます。それには、**[ドメイン] > ドメイン名 > [メール] グループタイトルメニュー > [メール設定] > [送信メールメッセージを電子署名するために DomainKeys SPAM 検知システムを利用する]** オプションを使用します。

Linux ベースのホスティングアカウントを使用している場合、グレイリストに基づいたスパム防止を使用することもできます。グレイリストとは、以下のように作用するスパム防止システムです。サーバに送信された各メールメッセージについて、送信者および受信者のメールアドレスがデータベースに記録されます。初めてメッセージが送信されて来た場合は、その送信者および受信者のアドレスはまだデータベースにリストされておらず、サーバは一時的にそのメッセージを SMTP エラーコードで拒否します。メールが正当なものであり、送信サーバが適切に設定されている場合、メールは再び送信され、そのメッセージは受諾されます。そのメッセージがスパムによって送信されたものだった場合、メール送信は再試行されません。スパムは通常何千人もの受信者にメールを一括送信しており、わざわざ再送はしません。

グレイリスト保護システムは、サーバ全体およびユーザごとの、メール送信者のブラックリストおよびホワイトリストも考慮します。ホワイトリストに掲載されている送信者からのメールはグレイリストチェックを通さずに受諾され、ブラックリストに掲載されている送信者からのメールは常に拒否されます。

グレイリストをサポートしているコンポーネントがサーバにインストールされている場合は、グレイリストは常にすべてのドメインに対して自動的に有効になります。個々のドメインのグレイリスト保護が有効か無効かどうかは、Parallels Plesk Panel を介して切り替えることができます（**[ドメイン] > ドメイン名 > [メール] グループタイトルメニュー > [メール設定] > [このドメイン下の全メールアカウントについて、グレイリスティングのスパム防止を有効にします]** オプション）。

メールアドレスを発行する必要がある場合、プライマリメールアドレスにディスポーザブルメールアドレス、すなわちメールエイリアスを作成し、これを代わりに発行します。メールエイリアスに送信されたメッセージはすべて、メールボックスに到着します。スパムが到着し始めたら、そのエイリアスを削除し別のエイリアスを作成します。別のドメインまたは別のメールサーバにメールボックスを保有している場合、ディスポーザブルメールフォワーダを設定できます。

## このセクションの内容:

補足的ディスポーザブルメールアドレス（メールエイリアス）の設定 .....	191
SpamAssassin スпамフィルタの設定 .....	192

# 補足的ディスポーザブルメールアドレス（メールエイリアス）の設定

➤ **メールボックスにメールエイリアスを設定するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メールアカウント] > メールアドレス > [新しいメールエイリアスの追加] に進みます。
2. エイリアスに追加する名前を入力し、[OK] をクリックします。

追加したメールアドレス（メールエイリアス）宛てのメッセージは、メールボックスに到着します。現在使用しているメールエイリアスのリストはドメインのメールアカウント一覧を表示するページで [エイリアスの表示] をクリックすると表示されます。

➤ **メールボックスからメールエイリアスを削除するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メールアカウント] > メールアドレスに進みます。
2. 削除するエイリアスに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。

## SpamAssassin スпамフィルタの設定

削除できない、または削除する必要のないメールに宛てた不要な通信を受け取る場合、メールボックスにスパムフィルタを設定することを検討してください。このためには、以下を実行します。

- プロバイダが Parallels Plesk Panel に SpamAssassin スпамフィルタをインストールしている場合は、それを有効にします。
- メールプログラムの操作を自宅とオフィスのどちらのコンピュータで行うかを選択して、スパムフィルタリングソフトウェアをインストールします。

### このセクションの内容:

スパムフィルタの有効化.....	193
スパム検出の精度の向上.....	195
スパムフィルタのデータベースの消去.....	196
スパムフィルタの無効化.....	196



## スパムフィルタの有効化

➤ **メールボックスのスパムフィルタを有効にするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メールアカウント] > **メールアドレス** > [SPAM フィルタリング] に進みます。

2. 以下の設定を行います。

- **SpamAssassin スпамフィルタを有効にします。** スпам防止を有効にするには、このオプションを選択します。
- **メッセージを SPAM として判断するスコア値。** この設定はスパムフィルタの感度を調整します。SpamAssassin は、各メッセージのコンテンツおよび件名行に対して複数の異なるテストを実行します。その結果、各メッセージに複数のポイントが記録されます。ポイントが高くなるほど、メッセージがスパムである可能性が高くなります。例えば、件名行および本文にテキスト文字列「BUY VIAGRA AT LOW PRICE!!!」を含むメッセージの特定は 8.3 ポイントになります。デフォルトでは、スコアが 7 ポイント以上のメッセージがすべてスパムと分類されるようにフィルタ感度が設定されます。
- 現在の設定で多くのスパムメッセージを受け取る場合、**[スパムとしてみなすのに必要なスコアの数]** ボックスの値を 6 などに下げてください。
- スпамフィルタでジャンクとみなされたためにメールを受信できない場合、**[スパムとしてみなすのに必要なスコアの数]** ボックスの値を高くし、フィルタ感度を下げてください。

---

**注：** スпамフィルタの精度をさらに高めるために、受信するメールメッセージでスパムフィルタをトレーニングできます（次のセクションの、「スパム検出の精度を高めるための指示」を参照してください）。

---

- **スパムメッセージの処理方法。** スпамフィルタの精度を確実なものにする場合、スパムと認識されたすべての受信メッセージを自動的に削除するようにフィルタを設定できます。この場合、**[削除]** オプションを選択します。ローカルコンピュータのソフトウェアでメールをフィルタリングする場合は、**[スパムとしてマークしてメールボックスに残す]** オプションを選択し、スパムとして認識されたメッセージをスパムフィルタでマークする方法を指定します。  
「X-Spam-Flag: YES」および「X-Spam-Status: Yes」ヘッダーがデフォルトではメッセージソースに付加され、またスパムフィルタにより件名行の先頭に特定のテキスト文字列が追加されます。希望の記号や文字の組み合わせをメッセージの件名に含めるには、**[スパムと認識された各メッセージの件名の最初に以下のテキストを追加]** ボックスに入力してください。スパムフィルタにメッセージの件名を変更させたくない場合は、このボックスを空白のままにしてください。件名にメッセージのスコアを含めたい場合は、このボックスに **SCORE** と入力してください。
- **スパム検出警告文。** スпамフィルタがメールメッセージにスパムであると表示された文章を含めるようにするには、このボックスに文章を入力してください。

- **信頼する言語。** 定義済み文字セットが定義済みの、指定した言語で書かれたメールメッセージはスパムフィルタを通過し、スパムの表示はされません。
3. [OK] をクリックして設定を保存してください。
  4. 特定のドメインや送信者からのメールを受信したくない場合は、[ブラックリスト] タブをクリックしてスパムフィルタのブラックリストにそれぞれの項目を追加します。
    - ブラックリストに項目を追加するには、[アドレスを追加] をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを[参照] で指定し [OK] をクリックします。もしくは、[リストから] オプションを選択し [メールアドレス] ボックスにメールアドレスを入力します。その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。アスタリスク (\*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一字を意味します 例えば、以下ようになります。 [address@spammers.net](#), [user?@spammers.net](#), [\\*@spammers.net](#) )。 [\\*@spammers.net](#) を指定すると spammers.net というドメインからの全てのメールをブロックします。追加したエントリを保存するには、[OK] をクリックして追加を確認して、もう一度 [OK] をクリックしてください。
    - ブラックリストからエントリを削除するには、[ブラックリスト] タブからエントリを選択して [削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。
  5. 特定の送信者からのメールを確実に受信するには、[ホワイトリスト] タブをクリックしてスパムフィルタのホワイトリストにそのメールアドレスまたは完全なドメイン名を追加します。
    - ホワイトリストにエントリを追加するには、[アドレスの追加] をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを[参照] で指定し [OK] をクリックします。もしくは、[リストから] オプションを選択し [メールアドレス] ボックスにメールアドレスを入力します。その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。アスタリスク (\*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一字を意味します 例えば、以下ようになります。 [address@mycompany.net](#), [user?@mycompany.net](#), [\\*@mycompany.net](#) )。 [\\*@mycompany.net](#) を指定すると mycompany.net というドメインのメールアドレスがすべてホワイトリストに追加されます。追加したエントリを保存するには、[OK] をクリックして追加を確認して、もう一度 [OK] をクリックします。
    - ホワイトリストからエントリを削除するには、[ホワイトリスト] タブからエントリを選択して [削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。
  6. スпамフィルタの設定が終了したら、[OK] をクリックします。

## スパム検出の精度の向上

スパムの精度は、メールボックス内に保存されたメールメッセージでスパムフィルタをトレーニングすることで改善できます。

➤ **スパム検出の精度を改善するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] > メールアドレス > [スパムフィルタリング] > [トレーニング] に進みます。

---

注：Parallels Plesk Panel for Linux/Unix プラットフォームの場合、各メッセージの左の列にアイコンが表示されます。このアイコンから、メッセージがスパムと認識される (❗) か、非スパムと認識される (✔) か、認識不可である (⊖) かがわかります。メッセージでスパムフィルタのトレーニングを実施し、結果をスパムフィルタのデータベースに記録している場合、右側の列にアイコン ⚙ が表示されます。

---

2. スパムフィルタをトレーニングします。

通常は、件名行と送信者名を調べるとメッセージがスパムかどうか分かります。件名行と送信者名から手がかりが得られない場合、E-mail プログラムまたは Web メールインターフェースを使用してメッセージ内を調べてみて下さい。

- メッセージにスパムとマークする場合は、対応するチェックボックスを選択し、「SPAM です」をクリックします。
- メッセージに非スパムとマークする場合は、対応するチェックボックスを選択し、「SPAM ではありません」をクリックします。
- スパムフィルタのデータベースから特定のメッセージに関する情報を削除するには、対応するチェックボックスを選択し、「取り消します」をクリックします。

3. トレーニングが終了したら、メールプログラムまたは Web メールインターフェースを使用して、メールボックスからスパムメールを削除できます。

## スパムフィルタのデータベースの消去

間違ってスパムフィルタに大量のスパムメールを非スパムと学習させた場合、またはその逆の場合、スパムフィルタの学習結果が間違ったものになる可能性があります。スパムフィルタのデータベースを消去するには、以下を実行します。

➤ **スパムフィルタのデータベースを消去するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メールアカウント] > **メールアドレス** > [スパムフィルタ] > [トレーニング] タブに進みます。
2. [データ削除] ボタンをクリックします。

## スパムフィルタの無効化

➤ **メールボックスのスパムフィルタを無効にするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メールアカウント] > **メールアドレス** > [スパムフィルタ] に進みます。
2. [SpamAssassinスパムフィルタを有効にします] チェックボックスの選択を外し、[OK] をクリックします。

---

# ウイルスからのメールボックスの保護

システムをウイルスから防御する場合、疑わしいメールの添付ファイルを開かず、サーバ側のアンチウイルス保護サービスがホスティング会社から提供されている場合これを有効にし、ファイアウォールとアンチウイルスソフトウェアがパーソナルコンピュータにインストールされていることを確認します。そしてオペレーティングシステムを常に最新の状態に維持し、適宜、セキュリティホットフィックスおよびパッチをインストールします。

## このセクションの内容:

アンチウイルス保護の有効化 .....	197
アンチウイルス保護の無効化 .....	198

## アンチウイルス保護の有効化

➤ **メールボックスのアンチウイルス保護を有効にするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メールアカウント] > **メールアドレス** > [ウイルス保護] に進みます。
2. 使用するメールスキャンモードを選択します。受信メール、発信メール、または送受信メールに対してスキャンを有効にできます。

---

注：サーバで Kaspersky アンチウイルスを使用している場合、スキャン設定の調整に [スキャン設定] アイコンを使用できます。スキャン設定に関する情報を表示するには、ナビゲーションペインの [ヘルプ] ショートカットをクリックしてください。

---

3. [OK] をクリックします。

## アンチウイルス保護の無効化

- メールボックスのアンチウイルス保護を無効にするには、以下を実行します。
- 1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] > メールアドレス > [ウイルス保護] に進みます。
- 2. [ウイルスをスキャンしない] オプションを選択して [OK] をクリックします。

---

## メールボックスの中断および中断解除

➤ メールボックスのメールサービスを一時的に中断するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] > メールアドレスに進みます。
2. [ツール] グループの [メールボックス] をクリックします。
3. [メールボックス] チェックボックスを解除します。
4. [OK] をクリックします。

➤ メールボックスのメールサービスを再開するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] > メールアドレスに進みます。
2. [ツール] グループの [メールボックス] をクリックします。
3. [メールボックス] チェックボックスを選択します。
4. [OK] をクリックします。

➤ ドメイン内のすべてのメールボックスについてメールサービスを一時的に中断するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] に進みます。
2. [ツール] グループの [スイッチオフ] をクリックします。

➤ ドメイン内のすべてのメールボックスについてメールサービスを再開するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] に進みます。

2. [ツール] グループの [スイッチオン] をクリックします。

---

## メールボックスの削除

- **メールボックスを削除するには、以下を実行します。**
1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] に進みます。
  2. 削除するメールボックスのチェックボックスを選択します。
  3. [削除] をクリックします。
  4. 確認画面が表示されたら、削除を確認して [OK] をクリックします。

---

## アカウントのメールボックスフォワードへの変更を決定した場合のメールボックスサービスの無効化

既存のメールアカウントをメールフォワードまたはメーリングリストとして使用する予定がある場合、メールボックスサービスを無効にすることをお奨めします。メールボックスですべての受信メッセージを保存し、転送後も自動的に削除されないようにします。従って、アカウントで「メールボックス + メールフォワード」の設定を選択する場合は、必ず、時々メールボックスをクリーンアップしてください。

- **メールボックスの全てのメッセージを破棄するアカウントのメールボックスサービスを無効にするには、以下を実行します。**
1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] > メールアドレス > [メールボックス] に進みます。
  2. [メールボックス] チェックボックスを解除します。
  3. [OK] をクリックします。



---

## 単一メールアドレスへのメール転送の設定

➤ メールを受け付けるメールアドレスを設定し、このメールを別のメールアドレスに転送するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [転送の作成] に進みます。
2. メールフォワーダに変更するメールアドレスをを選択するか、[新しいメールアドレスの追加] をクリックして新しいメールアドレスを設定します。
3. [次へ >>] をクリックします。

ドメイン名が @ 記号の右側に表示されるため、あとは名前を入力するだけです。ドットで区切った名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。

4. [転送] チェックボックスを選択して、メールを転送する宛先メールアドレスを入力します。
5. [終了] をクリックします。

### このセクションの内容:

メールフォワーダの中断および中断解除 ..... 202

## メールフォワーダの中断および中断解除

➤ メールフォワーダを中断するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] > メールアドレス > [転送] に進みます。
2. [転送] チェックボックスを解除します。
3. [OK] をクリックします。

➤ メールフォワーダの中断を解除するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] > メールアドレス > [転送] に進みます。
2. [転送] チェックボックスを選択します。
3. [OK] をクリックします。

---

## 複数メールアドレスへのメール転送の設定

➤ メールを受け付けるメールアドレスを設定し、このメールを複数の別のメールアドレスに転送するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] > メールアドレス > [メールグループ] に進みます。

2. [新しいメンバーを追加] をクリックします。

複数のメールアドレスへのメール転送を有効にする前に、1つ以上のメールアドレスを追加する必要があります。

3. [メールアドレス]入力ボックスに必要な外部メールアドレスを入力するか、チェックボックスでリストから1つまたは複数のメールアカウントを選択する、あるいは両方の作業を行います。

4. [OK] をクリックします。

5. [スイッチオン] をクリックします。

### このセクションの内容:

受信者アドレスの追加および削除 .....	204
複数メールアドレスへのメール転送の無効化 .....	205

## 受信者アドレスの追加および削除

- **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストに、外部メールアドレスを追加するには、以下を実行してください。**
    1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] > メールアドレス > [メールグループ] に進みます。
    2. [新しいメンバーを追加] をクリックします。
    3. [メールアドレス] 入力フィールドに、該当する外部メールアドレスを入力します。
    4. [OK] をクリックします。
  
  - **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストから、外部メールアドレスを削除するには、以下を実行してください。**
    1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] > メールアドレス > [メールグループ] に進みます。
    2. リストから削除したいメールアドレスのチェックボックスを選択します。
    3. [削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。
  
  - **転送された E-mail 通信を受け取るメールアカウントのリストに、サーバに登録された E-mail アドレスを追加するには、以下を実行します。**
    1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] > メールアカウント > [グループ] に進みます。
    2. [利用可能なメールグループ] リストで、該当する複数のメールフォワードを選択します。
    3. [追加 >>] をクリックします。
    4. [OK] をクリックします。
- サーバに登録されたメールアドレスも、外部メールアドレス追加の手順(上記をご参照ください)に従って更新リストに追加することができます。
- **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストから、サーバに登録されたメールアドレスを削除するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メールアカウント] > **メールアカウント** > [グループ] に進みます。
2. [次のメールグループのメンバー] リストで、該当する複数のメールフォワーダを選択します。
3. [≪削除] をクリックします。
4. [OK] をクリックします。

サーバに登録されたメールアドレスも、外部メールアドレス削除の手順(上記をご参照ください)に従って更新リストから削除することができます。

## 複数メールアドレスへのメール転送の無効化

- **複数メールアドレスへのメール転送をオフに切り替えるには以下を実行します。**
1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メールアカウント] > **メールアドレス** > [メールグループ] に進みます。
  2. [スイッチオフ] をクリックします。

---

## メールフォワーダの削除

- **メールフォワーダを削除するには、以下を実行します。**
1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メールアカウント] に進みます。
  2. 削除するメールフォワーダのチェックボックスを選択します。
  3. [削除] をクリックします。
  4. 確認画面が表示されたら、削除を確認して [OK] をクリックします。

## 自動応答の設定

休暇に入る予定があり、しばらくの間メールをチェックできない場合、アドレスにメールを送信した送信者に対して、自動的に休暇通知が送信されるように設定しておくことができます。これは自動応答とも呼ばれる、自動応答機能を使用して行います。休暇通知以外に、組織では自動応答を使用して、オーダーや技術サポートの受領と、これらの迅速な処理を顧客に通知することができます。自動応答には、プレーンテキストまたは HTML 形式で事前に作成されたメッセージを含めること、また添付ファイルを含めることもできます。

➤ **メールボックスの自動応答を設定するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メールアカウント] > **メールアドレス** > [自動応答] に進みます。
2. 自動応答にファイルを添付する予定がない場合は、手順3に進みます。自動応答にファイルを添付するには、以下を実行します。
  - a. [ツール] グループの [ファイル添付] アイコンをクリックします。
  - b. [参照] をクリックしてファイルを探し、選択した後 [ファイル送信] をクリックします。

ファイルが添付ファイル保存に追加され、このファイルを別の複数の自動応答に追加できるようになります。
  - c. 終了したら [上へ] をクリックし、次の手順に進みます。
3. [ツール] グループの [新しい自動応答を追加] アイコンをクリックします。
4. 自動応答を設定します。
  - a. [自動応答名] ボックスに、この自動応答の名前を入力します。

例えば、休暇通知などです。
  - b. 不在の間、受信メールを別のメールアドレスに転送する場合、[自動応答の後、オリジナルメッセージを指定されたメールアドレスに転送する] ボックスにメールアドレスを指定します。
  - c. 受信するメールメッセージへの応答に、この自動応答を送信する場合は、[条件] グループで [常に返信する] オプションを選択した状態にします。メッセージテキストまたは件名行に特定の語句を含むメールメッセージにのみ自動的に応答する場合は、適切なオプションを選択し、入力ボックスに語句の組み合わせを入力します。

- d. デフォルトでは受信メールの件名が自動応答で送信するメッセージの件名に挿入されます。カスタムの件名を使用するには、**[応答]** 件名入力ボックスにカスタム件名を入力します。
  - e. こちらから送信されたメッセージが自動応答であると相手側が想定できないため、相手側が自動応答に対して返答する場合があります。このため、**[返信先アドレス]** として自分のメールアドレスを指定する必要があります。
  - f. 自動応答メッセージの形式（プレーンテキストまたはHTML）と、文字のエンコード方式（UTF-8を推奨）を指定します。HTML自動応答メッセージにHTMLタグを使用する場合、**[HTML]** オプションを選択します。
  - g. **[返信テキスト]** フィールドにメッセージを入力します。
  - h. 必要に応じて、ファイルを添付します。この場合、**[新しい添付ファイルの追加]** ボタンをクリックし、以前に添付保存にアップロードしていたファイルに対応するチェックボックスを選択し、**[OK]** をクリックします。添付ファイルを自動応答から削除するには、該当するチェックボックスを選択して**[削除]** をクリックします。
  - i. 同じメールアドレスへの1日あたりの自動応答の数を制限するには、**[制限]** 内の各入力ボックスに上限数を入力します。  
デフォルトでは同じメールアドレスに対する応答として1日あたり10回までに設定されています。
  - j. メールサーバの負荷を減らすために、自動応答が記憶する固有のアドレスの数を制限できます。それには、**[保存-]** ボックスに上限数を入力します。
5. **[OK]** をクリックします。
  6. **[ツール]** グループの**[スイッチオン]** アイコンをクリックします。

---

## 自動応答の無効化

➤ **メールボックスの自動応答を無効にするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] > メールアドレス > [自動応答] に進みます。
2. [スイッチオフ] をクリックします。

自動応答が無効になりました。自動応答の設定はコントロールパネルから削除されていないため、この自動応答を次に使用する必要が生じる場合、上記の手順を繰り返し、最後の手順で [スイッチオン] をクリックします。

➤ **不要になった自動応答設定を削除するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] > メールアドレス > [自動応答] に進みます。
2. 設定名に対応するチェックボックスを選択し、 [削除] をクリックします。



---

## 存在しないユーザ宛メールの処理に対するサイト単位のプリファレンス (メール転送)

誰かがドメインに存在しないメールアドレスに対してメールメッセージを送信した場合、デフォルトでは、メールサーバはメールを受信し、処理して、このような受信者がドメイン内に存在しないと認識した後、「this address no longer accepts mail (このアドレスはメールを受け取ることができません)」という通知をつけて送信者にメールを返します。この場合、次の選択が可能です。

- そのメールをすべて送信者に返信し続ける（[拒否] または [メッセージつきで拒否します] オプション）
- そのメールをすべて指定したメールアドレスに転送する（[キャッチ転送] オプション）
- そのメールをすべて指定した IP アドレスを持つ外部メールサーバに転送する（[IP アドレスを持つ外部メールサーバに転送] オプション）（Windows ホスティングに限り使用可能）
- このようなメールを受け取らず、送信者に通知せずに拒否する（[拒否] オプション）


この設定により、多くの場合ランダムに生成されたユーザ名に送信される大量のスパムにより生じた、メールサーバの負荷を減らすことができます。ただし、スパマーの側からすれば、この設定によりメールサーバのスキャンで有効なメールアドレスを検出する時間を多少短縮できます。

➤ **存在しないユーザへのメールの処理に対するサイト単位の設定を行うには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メール] グループタイトルメニュー > [メール設定] に進みます。
2. 必要なオプションを選択して、必要に応じて情報を指定します。
3. [OK] をクリックします。

---

## 複数のメールアカウントへの類似変更の同時処理の導入

- 複数のメールアカウントへの類似変更の同時処理を導入するには、以下を実行します。
1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント] に進みます。
  2. 設定を変更したいメールアカウントに対応するチェックボックスを選択します。
  3.  [修正] をクリックします。
  4. 必要に応じて、設定を調整してください。
    - [スイッチオン] を選択して、選択したメールアカウントの各オプションを有効にします。
    - [スイッチオフ] を選択して、選択したメールアカウントの各オプションを無効にします。
    - 関連オプションを変更したくない場合は [変更しない] オプションを選択したままにします。
  5. [OK] をクリックします。

---

## メールリングリストの保守

顧客にオファーおよびプロモーションを配信する、ニュースレターを運営する、あるいはサイトの閲覧者に最新の更新について通知する場合、サイトにメールリングリストを設定し、ユーザをメールリングリストに登録するか、ユーザに登録を勧める必要があります。

メールリングリストは1度に多くのユーザへの宣伝ができるので便利です。メールリングリストには、情報やニュースレターを投稿する単一のメールアドレスの下にまとめられた、メールアドレスのリストが保存されています。

### このセクションの内容:

メールリングリストの設定 .....	212
ユーザの登録および登録解除 .....	213
メールリングリストへの投稿 .....	213
メールリングリストの削除 .....	214


## メーリングリストの設定

➤ **メーリングリストを設定するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メーリングリスト] に進みます。
2. [スイッチオン] をクリックして、メーリングリストサービスを開始します。
3. [新しいメーリングリストの追加] をクリックします。
4. メーリングリストに必要な名前を指定します。  
部署名、メーリングリストのトピック、その他のラテン記号テキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。
5. メーリングリストの管理に使用するパスワードを指定します。
6. メーリングリスト管理者のメールアドレスを指定します。
7. [メーリングリスト作成を管理者に通知する] チェックボックスを選択したままにしておきます。  
指定した管理者のメールアドレスでのメーリングリストの使用および維持に関する指示が表示されます。メッセージを記録用に保管しておいて下さい。
8. [OK] をクリックします。

メーリングリストは、デフォルト設定で操作できます。しかしながら、モデレーションの有効化、投稿内容のフィルタリング、メッセージのアーカイブなどを実行できるように設定することができます。

➤ **メーリングリストを設定するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メーリングリスト] に進みます。
2. 該当するメーリングリストのメールアドレスの横の  アイコンをクリックします。  
ログイン画面が表示されます。
3. リスト管理者のパスワードを入力し、[Let me in ...] をクリックします。

➤ **または、メーリングリストの設定には、以下の方法でアクセスできません (Linux ホスティング)。**

1. WebブラウザでURL <http://lists.your-domain.com/mailman/admin/listname>を入力します。your-domain.comは使用しているドメイン名、*listname*はメーリングリストの名前（すなわちメーリングリストのメールアドレスの@記号の左側の部分）です。  
ログイン画面が表示されます。
2. リスト管理者のパスワードを入力し、[Let me in ...] をクリックします。

メーリングリストにニュースレターを発行したりその他の情報を投稿するには、メーリングリストのメールアドレスへメールで送信します。すべての登録ユーザが受け取ります。

## ユーザの登録および登録解除

- **メーリングリストにユーザを登録するには、以下を実行します。**
  1. [ドメイン] > *ドメイン名* > [メーリングリスト] > *メーリングリスト名* > [新しいメンバの追加] に進みます。
  2. ユーザのメールアドレスを指定します。
  3. [OK] をクリックします。
- **メーリングリストからユーザを登録解除するには、以下を実行します。**
  1. [ドメイン] > *ドメイン名* > [メーリングリスト] > *メーリングリスト名* に進みます。
  2. ユーザのメールアドレスの左側のチェックボックスを選択します。
  3. [削除] をクリックします。
  4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

## メーリングリストへの投稿

メーリングリストにニュースレターを発行したりその他の情報を投稿するには、メーリングリストのメールアドレスへメールで送信します。すべての登録ユーザが受け取ります。

## メーリングリストの削除

➤ サイトからメーリングリストを削除するには、以下を実行します

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メーリングリスト] に進みます。
2. 削除するメーリングリストアドレスのチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. 確認画面が表示されたら、削除を確認して [OK] をクリックします。

## 統計の表示

- **サイトが使用するディスク容量および帯域幅の情報を表示するには、以下を実行してください。**

ホームページで、適切な [統計] ショートカットをクリックします。

- **サイトの閲覧者数、閲覧元の国、およびサイトで閲覧されたページの内容を調べるには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Web統計] に進みます。
2. サイトの特定のエリア間でダウンロードもしくはアップロードした Web ページまたはファイルの統計を閲覧するには、以下を実行します。
  - 帯域幅使用状態を月別に表示するには、[帯域幅使用状態の履歴] をクリックします。
  - 帯域幅利用量をこのドメイン内の FTP 別、Web 別、メールサービス別に表示するには、[トラフィック使用レポート] をクリックします。
  - ハイパーテキスト転送プロトコル (HTTP) でサイトから転送された Web ページの統計を表示するには、[Web 統計] をクリックします。
  - 保護付きハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS) でサイトから転送された Web ページの統計を表示するには、[Web 統計 SSL] をクリックします。
  - ファイル転送プロトコル (FTP) で転送されたファイルの統計を表示するには、[FTP 統計] をクリックします。
  - パスワードなしの匿名アクセスのファイル転送プロトコル (FTP) 経由で転送されたファイルの統計を表示するには、[Anonymous FTP 統計] をクリックします。

---

注：アカウント上で Webalizer 統計パッケージを使用している場合、表示されるグラフレポートをカスタマイズすることができます。その手順については「Web 統計表示のプリファレンスの調整」セクションを参照してください。

---

または、次の URL を表示することによってサイトの Web 統計を確認できます。  
<https://your-domain.com/plesk-stat/webstat> ユーザ名とパスワードの入力画面が表示されたら、FTP アカウント信用情報を指定します。

すべての Web サイトおよびホスティングアカウントについての連結レポートを表示するには、[ドメイン] > [統計の表示] に進みます。

以下はレポートの共通操作です。

- 詳細を表示するには、[レポート] ドロップダウンメニューから [フルレポート] オプションを選択します。
- レポートに表示される情報の量を調整するには、^ [カスタマイズ] をクリックし、既存のレポートテンプレートを変更します（この場合、レポートテンプレート名をクリック）か、新しいレポートテンプレートを作成します（この場合、[新しいレポートの追加] をクリックします）。次に、レポートの各セクションで必要な情報の量を指定します。どの情報も必要としない場合は [なし] を、詳細な概要が必要な場合は [サマリー] を、詳細なレポートが必要な場合は [フル] をそれぞれ選択します。[デフォルトレポートとして使用] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。カスタムレポートレイアウトを削除するには、レポートレイアウト名の対応するチェックボックスを選択して、[削除] をクリックします。
- レポートを印刷するには、[印刷] をクリックします。別のブラウザウィンドウにレポートが表示されます。ブラウザのメニューから [ファイル] > [印刷] オプションを選択して、レポートを印刷します。
- メールでレポートを送信するには、[レポート] グループの右側にある入力ボックスに受信者のメールアドレスを入力して、[メールにより送信] をクリックします。自分が受信者である場合、メールアドレスを指定する必要がありません。システムはデフォルトで、使用中のユーザがレポート受信者と想定し、使用中のユーザのコントロールパネルアカウントに登録されたメールアドレスを指定します。
- レポートを毎日、毎週、または毎月自動的に生成し、メールで配信するには、[レポート送信] をクリックし、「レポート生成とメールによる配信の自動化」（221 ページ）のセクションの指示に従ってください。

## この章の内容:

Webalizer による Web 統計表示のプリファレンスの調整 .....	217
レポート生成とメールによる配信の自動化 .....	221
ログファイルの表示およびログファイルの再利用の設定 .....	223



---

# Webalizer による Web 統計表示のプリファレンスの調整

デフォルトでは、統計ユーティリティは自分のサイトから、すなわち自分専用の Web ページから行った Web ページおよびその他のファイルに対する要求をカウントし、報告します。よって、ユーザのブラウザが自分のサイトから、スクリプト、カスケードスタイルシート、メディアファイルなどの他のファイルの参照を含む単一の Web ページを要求した場合、統計ユーティリティはこれらのファイルの参照を、自分の Web ページを閲覧したかのように報告します。このため、デフォルトの設定では、利用量の統計は正確性を欠くことになります。

これに対応するため、次のような操作が可能です。

- 上記のような内部参照、および他のサイトからの参照を隠す。
- 複数のサイトからの参照をグループ化し、単一の場所から参照されたかのように見せかける。
- ダイレクトリクエストを隠す。ユーザがブラウザに URL を入力した自分のサイトにアクセスした場合、ダイレクトリクエストが自分の Web サーバに送信されます。

## このセクションの内容:

自分のサイトおよび他のサイトからの内部参照の表示および非表示 .....	218
他のサイトからの参照のグループ化とグループ解除 .....	219
ダイレクトリクエストの表示と非表示 .....	220

## 自分のサイトおよび他のサイトからの内部参照の表示および非表示

➤ **内部参照および他のサイトからの参照を隠すには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web統計] > [プリファレンス] に進みます。
2. [エントリを隠す] をクリックします。
3. [エントリのタイプ] ドロップダウンボックスで、[リファラ] 値を選択したままにしておきます。
4. [リファラ] フィールドに、Web統計レポートにリファラを表示する必要のないドメイン名を入力します。  
「\*」ワイルドカード文字を使用すると、ドメイン名の一部を指定できます。
5. [OK] をクリックします。

➤ **参照を表示するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web統計] > [プリファレンス] に進みます。
2. 非表示にするエントリに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
3. 内容を確認して [OK] をクリックします。

## 他のサイトからの参照のグループ化とグループ解除

➤ **特定のサイトからの参照をグループ化するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web統計] > [プリファレンス] > [グループ化されたリファラ] タブ > [グループ化されたリファラ] に進みます。
2. 特定のサイトのすべてのリファラに表示するグループ名を入力します。
3. [リファラ] 入力ボックスに、すべてのリファラをグループ化するサイト（ドメイン名）を指定します。  
「\*」ワイルドカード文字を使用すると、ドメイン名の一部を指定できます。
4. [OK] をクリックします。

➤ **特定のサイトからの参照をグループ解除するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web統計] > [プリファレンス] > [グループ化されたリファラ] タブに進みます。すべてのリファラグループ名がリストに表示されます。
2. 必要なグループ名に対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
3. 内容を確認して [OK] をクリックします。

## ダイレクトリクエストの表示と非表示

- **ダイレクトリクエストを非表示にするには、以下を実行します。**
  1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web統計] > [プリファレンス] に進みます。
  2. [エントリを隠す] をクリックします。
  3. [エントリのタイプ] ドロップダウンボックスで、[ダイレクトリクエスト] 値を選択します。
  4. [OK] をクリックします。
  
- **ダイレクトリクエストを表示するには、以下を実行します。**
  1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web統計] > [プリファレンス] に進みます。  
非表示のエントリがすべてリストに表示されます。
  2. [ダイレクトリクエスト] に対応するチェックボックスを選択し、 [削除] をクリックします。
  3. 内容を確認して [OK] をクリックします。

---

## レポート生成とメールによる配信の自動化

➤ **アカウントの連結レポートを定期的に受信するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [レポート] > [レイアウト] に進みます。
2. [名前] の列でレポートタイプをクリックします。
3. [レポート送信] をクリックします。
4. [新しい配送スケジュール] をクリックします。
5. システムに登録されたメールアドレスへのレポートを受信するには、[受取者] ドロップダウンメニューから [クライアント] の値を選択します。別のメールアドレスへのレポートを受信するには、[送信先のEメールアドレスを指定] オプションを選択し、メールアドレスを入力します。
6. [送信頻度] ドロップダウンメニューから、送信間隔を選択します。レポートは毎日、毎週、毎月のいずれかの間隔で送信できます。
7. [OK] をクリックします。

➤ **アカウントステータスレポートの送信スケジュールを変更するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [レポート] > [レイアウト] > レポート名 > [レポート送信] に進みます。
2. [頻度] の列で、変更する送信スケジュールに対応するハイパーリンクをクリックします。
3. 必要に応じて設定を調整し [OK] をクリックします。

➤ **アカウントステータスレポートの受信を停止するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [レポート] > [レイアウト] > レポート名 > [レポート送信] に進みます。
2. 送信スケジュールに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

➤ **特定のドメインやWeb サイトに関する詳細レポートを定期的に受信するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [レポート] > [レイアウト] > レポート名 > [レポート送信] に進みます。
2. [送信スケジュールの追加] をクリックします。
3. システムに登録されたメールアドレスへのレポートを受信するには、[受取者] ドロップダウンメニューから [クライアント] の値を選択します。別のメールアドレスへのレポートを受信するには、[指定したメールアドレス] オプションを選択し、メールアドレスを入力します。
4. [送信頻度] ドロップダウンメニューから、送信間隔を選択します。レポートは毎日、毎週、毎月のいずれかの間隔で送信できます。
5. [OK] をクリックします。

➤ **詳細なドメインやWeb サイトレポートの送信スケジュールを変更するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [レポート] > [レイアウト] > レポート名 > [レポート送信] に進みます。
2. [頻度] の列で、変更する送信スケジュールに対応するハイパーリンクをクリックします。
3. 必要に応じて設定を調整し [OK] をクリックします。

➤ **アカウントステータスレポートの受信を停止するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [レポート] > [レイアウト] > レポート名 > [レポート送信] に進みます。
2. 送信スケジュールに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。


## ログファイルの表示およびログファイルの再利用の設定

Web サーバへの全ての接続とサーバに見つからないファイルの要求は、ログファイルに登録されます。これらのログファイルはサーバ上で実行される統計ユーティリティで分析され、オンデマンドでグラフィカルレポートで表示されます。これらのログファイルをコンピュータにダウンロードして、サードパーティ製の統計ユーティリティで処理したり、Web サーバをデバッグするためにログファイルのコンテンツを調べることができます。

➤ **これらのログファイルが増大するのを防ぐために、ログファイルの自動クリーンアップと再利用を有効にする必要があります。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ログマネージャ] > [ログローテーション]に進みます。
2. [ツール] グループの [スイッチオン] をクリックします。 [スイッチオフ]しか表示されない場合、ログの再利用がすでに有効になっています。
3. ログファイルを再利用する時期、およびサーバに格納する各ログファイルのインスタンス数を指定します。 ログファイルを圧縮するか、処理の後にメールアドレスに送信するかを指定します。
4. [OK] をクリックします。

➤ **ログファイルのコンテンツを表示する、またはコンピュータにダウンロードするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ログマネージャ]に進みます。 ログファイルのリストが表示されます。
2. 以下のいずれかを実行します。
  - ログファイルの表示する行数を、最後から数えた行数で指定し、[プリファレンス] グループの入力ボックスに数字を入力します。
  - ログファイルのコンテンツを表示するには、ファイル名をクリックします。
  - コンピュータにファイルをダウンロードするには、必要なファイルに対応するアイコンをクリックします。
  - サーバから処理済みのログファイルを削除するには、対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。 削除を確認して [OK] をクリックします。

# データのバックアップと復元

最新バージョンのバックアップユーティリティおよび復元ユーティリティをコントロールパネルにインストールしている場合、次の作業が可能です。

**ドメインを含むアカウントのバックアップ。** バックアップアーカイブには、すべてのコントロールパネル設定や、アカウントおよびドメイン (Web サイト) 関連のデータが含まれます。

**個々のドメイン (Web サイト) をバックアップ。** バックアップアーカイブには、ドメイン管理者アカウントやドメイン (Web サイト) やメールサービス (メールボックスや Horde Turba アドレスブック連絡先一覧、アンチスパムやアンチウィルスの設定など) 関連のすべてのデータが含まれます。

**バックアップのスケジュール。** バックアップのスケジュールリングはアカウントとドメインの両方に対して行うことができます。

**バックアップアーカイブからデータを復元**

## この章の内容:

FTP リポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定 .....	225
ドメインを含むアカウントのバックアップ .....	226
個別ドメイン (Web サイト) のバックアップ .....	227
データベースのバックアップ (Windows ホスティング) .....	228
バックアップのスケジュールリング .....	229
バックアップアーカイブからのデータの復元 .....	230
データベースの復元 .....	231
バックアップファイルリポジトリの維持 .....	233
データベースのバックアップファイルリポジトリの維持 (Windows ホスティング) .....	235



---

## FTP リポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定

- ▶ バックアップファイルの保存にFTP サーバを使用する場合はコントロールパネルを適切にセットアップする必要があります。
1. 必要なリポジトリへ移動してください。
    - アカウントレベルのリポジトリには、[ホーム] > [バックアップマネージャ] > [パーソナル FTP レポジトリ設定] に進みます。
    - ドメインレベルのリポジトリへは、[ドメイン] > ドメイン名 > [バックアップマネージャ] > [パーソナル FTP レポジトリ設定] に進みます。
  2. 以下の設定を指定します。
    - FTP サーバの IP アドレスまたはホスト名
    - バックアップファイルを保存したいサーバのディレクトリ
    - FTP アカウントにアクセスするユーザ名とパスワード
  3. [OK] をクリックします。

---

## ドメインを含むアカウントのバックアップ

➤ **ドメインを含むアカウントのバックアップを作成するには以下を実行します。**

1. ホームページで [バックアップマネージャ] をクリックします。
2. [バックアップ] をクリックします。
3. 以下を指定します。
  - バックアップファイル名の接頭語および説明。 任意のファイル名は指定できませんが、バックアップファイル名に接頭語を追加するようにコントロールパネルを設定できます。 コントロールパネルが、バックアップファイル作成の日時を（グリニッジ標準時間で）自動的にバックアップファイル名に追加することにご注意ください。
  - バックアップファイルの分割。 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。
  - バックアップファイルを保存する場所。 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
  - バックアップするデータ。 アカウントおよび Web サイト関連の設定だけ、または全 Web サイトコンテンツの設定をバックアップできます。
  - バックアップ完了時のメール通知。 バックアップ完了の通知を受け取りたい場合は、メールアドレスを入力します。
4. [バックアップ] をクリックします。 バックアップ処理が開始され、進捗状況が [現在のバックアップタスク] タブに表示されます。 [更新] ボタンを使用して、画面上の情報を更新できます。 バックアップが終了すると、選択したリポジトリにバックアップファイルが保存されます。

---

## 個別ドメイン (Web サイト) のバックアップ

➤ **ドメイン (Web サイト) をバックアップするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [バックアップマネージャ] に進みます。
2. [バックアップ] をクリックします。
3. 以下を指定します。
  - バックアップファイル名の接頭語および説明。 任意のファイル名は指定できませんが、バックアップファイル名に接頭語を追加するようにコントロールパネルを設定できます。 コントロールパネルが、バックアップファイル作成の日時を (グリニッジ標準時間で) 自動的にバックアップファイル名に追加することにご注意ください。
  - バックアップファイルの分割。 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。
  - バックアップファイルを保存する場所。 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
  - バックアップするデータ。 Web ホスティング設定だけ、または Web ホスティングと全サイトコンテンツをバックアップできます。
  - バックアップ完了時のメール通知。 バックアップ完了時にメール通知を送信したい場合は、メールアドレスを入力します。
  - バックアップが終了するまで Web サイトを中断。 バックアップ中に、誰にもサイトのコンテンツまたは設定を変更されたくない場合は、該当のチェックボックスを選択します。
4. [今すぐバックアップ] をクリックします。 バックアップ処理が開始され、進捗状況が [現在のバックアップタスク] タブに表示されます。 [更新] ボタンを使用して、画面上の情報を更新できます。

バックアップが終了すると、バックアップファイルはこのユーザアカウントのリポジトリに保存され、この後 [ドメイン] > **ドメイン名** > [バックアップマネージャ] で表示される場所からアクセスできます。

---

## データベースのバックアップ (Windows ホスティング)

➤ データベースのバックアップを作成するには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース] に進みます。
2. バックアップするデータベースに対応するチェックボックスを選択し、[バックアップ] をクリックします。
3. バックアップファイルの名前を指定して [OK] をクリックします。
4. 作成したバックアップファイルをダウンロードするには、バックアップ処理が終了した後に次のページでファイル名をクリックします。ファイルを保存する場所を選択し、[保存] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。

➤ ドメイン上の全データベースのバックアップを作成するには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進み、[データベース] フィールドで [すべてのドメインリポジトリ] が選択されているのを確認して、[バックアップ] をクリックします。
2. バックアップファイルの名前を指定して [OK] をクリックします。
3. 作成したバックアップファイルをダウンロードするには、バックアップ処理が終了した後に次のページでファイル名をクリックします。ファイルを保存する場所を選択し、[保存] をクリックします。
4. [OK] をクリックします。

---

## バックアップのスケジュールリング

- データのバックアップをスケジュールするには、以下を実行してください。
- バックアップするデータのタイプに該当するバックアップファイルリポジトリに移動します。
    - アカウント設定および Web サイトコンテンツをバックアップするには、[ホーム] > [バックアップマネージャ] に進みます。
    - Web サイトをバックアップするには、[ドメイン] > ドメイン名 > [バックアップマネージャ] に進みます。
  - スケジュールバックアップ設定。
  - [このバックアップタスクを有効化する] チェックボックスを選択して以下を指定します。
    - バックアップをいつ、どのくらいの頻度で実行するか。
    - バックアップファイル名。
    - バックアップファイルの分割。多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。ボリュームサイズが 4095 メガバイトを超えることはできないことにご注意ください。
    - バックアップファイルを保存する場所。バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
    - リポジトリに保存されるバックアップファイルの最大数。バックアップファイルを再利用する場合は、数字を入力します。この制限に達した場合、最も古いバックアップファイルが削除されます。
    - バックアップエラーにおけるメール通知。バックアップが正常に実行されない場合にメール通知を送信するには、メールアドレスを入力します。
    - バックアップするデータ。設定だけ、あるいは設定と Web サイトコンテンツをバックアップできます。
  - [OK] をクリックします。

---

## バックアップアーカイブからのデータの復元

▶ バックアップファイルからデータを復元するには、以下を実行してください。

1. バックアップファイルがあるバックアップファイルリポジトリに移動します。
  - アカウント設定および Web サイトコンテンツを復元するには、[ホーム] > [バックアップマネージャ] に進みます。
  - Web サイトを復元するには、[ドメイン] > **ドメイン名** > [バックアップマネージャ] に進みます。
2. バックアップファイル名をクリックします。
3. 以下の設定を指定します。
  - **復元するデータのタイプ。**
  - **復元タスクが完了するまでドメイン (Web サイト) を中断する。** これを選択すると、サイトのコンテンツや設定を復元中に、ユーザがそれらを変更した場合に発生する可能性のある競合が回避されます。
  - **復元タスクが完了したときにメール通知を送信する。** 復元タスクが完了したときにコントロールパネルから通知が欲しい場合は、メールアドレスを入力します。
  - **競合解決ポリシー。** 復元中に競合が発生した場合に実行することを指定します。
4. [復元] をクリックします。

データの復元中にエラーまたは競合が発生した場合は、適切な解決を選択するようにウィザードから指示されます。画面の指示に従ってウィザードを完了します。

注：データの復元における上書きモードは、すべてのオブジェクトはシステム内に現在あるかどうかに関係なくバックアップファイルから復元されることを意味します。上書きモードは以下のように動作します。

- バックアップファイルからのオブジェクトまたは設定が Parallels Plesk Panel にない場合、それらが Parallels Plesk Panel に作成または設定されます。
- バックアップファイルからのオブジェクトまたは設定が Parallels Plesk Panel にある場合、それらがバックアップファイルからのオブジェクトまたは設定に置き換わります。
- バックアップファイルからのオブジェクトまたは設定が Parallels Plesk Panel にあり、バックアップファイルにはない場合、現在 Parallels Plesk Panel にあるオブジェクトまたは設定は変更されません。

---

## データベースの復元

➤ データベースが既に存在しており、その内容の復元だけを行えばいい場合は、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース] > データベース名 > [データベースバックアップリポジトリ] に進み、リストからバックアップファイルを選択して [復元] をクリックします。

サーバにバックアップファイルがなければ、ローカルマシンからサーバリポジトリにバックアップファイルをアップロードできます。詳細は「サーバへデータベースのバックアップファイルのアップロード」のセクションをご覧ください。

2. 該当のチェックボックスを選択して復元を確認し、[OK] をクリックします。

MS SQL データベースを復元すると、一部のデータベースユーザが孤立する場合があります。これらのユーザがデータベースにアクセスしてデータベースを使用できるようにするには、修復する必要があります。詳細は「孤立したデータベースユーザの回復」のセクションをご覧ください。

➤ データベースが存在せず最初から再作成する必要がある場合は、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース] に進み、[新しいデータベースの追加] をクリックします。
2. データベースの名前とタイプ、および復元するデータベースのサーバを入力します。

---

注：新しいデータベース名を指定できますが、正しいデータベースタイプを選択する必要があります。例えば MySQL データベースを復元する場合は、MySQL データベースタイプを選択します。

---

3. [バックアップファイルよりデータベースをリストアする] チェックボックスを選択します。
4. データベースのバックアップファイルの場所を指定します。ローカルマシンからバックアップファイルをアップロードすることも、サーバ上にあるファイルを指定することもできます。
5. 復元されるデータベースのデフォルトユーザ名およびパスワードを入力します。
6. [OK] をクリックします。

MS SQL データベースを復元すると、一部のデータベースユーザが孤立する場合があります。これらのユーザがデータベースにアクセスしてデータベースを使用できるようにするには、修復する必要があります。詳細は「孤立したデータベースユーザの回復」のセクションをご覧ください。

## このセクションの内容:

孤立したデータベースユーザの回復 ..... 232

# 孤立したデータベースユーザの回復

MS SQL データベースを復元すると、一部のデータベースユーザが孤立する場合があります。これらのユーザがデータベースにアクセスしてデータベースを使用できるようにするには、修復する必要があります。

➤ **データベースに孤立したユーザがないかどうか確認するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース] > データベース名に進みます。
2. 正しく機能するために修復が必要な孤立したユーザが複数あるという警告が表示されたら、修復が必要な孤立したユーザがあるということです。

➤ **孤立したユーザを修復するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース] > データベース名に進み、修復する孤立したユーザに対して [修復] ボタンをクリックします。
2. このユーザのパスワードを入力して [修復] をクリックします。  
パスワードが指定されていないシステムユーザである場合は、パスワードフィールドを空にして修復を実行してください。
3. 孤立したユーザをすべて修復するまで、ステップ1-2を繰り返します。



---

## バックアップファイルリポジトリの維持

このセクションでは、以下に関して説明します。

- 他のコンピュータに保存されているバックアップファイルのアップロード。
- 他のコンピュータへのバックアップファイルのダウンロード。
- バックアップリポジトリからの冗長バックアップファイルの削除。

### このセクションの内容:

バックアップファイルのサーバへのアップロード .....	233
サーバからのバックアップファイルのダウンロード .....	234
サーバからのバックアップファイルの削除 .....	234

## バックアップファイルのサーバへのアップロード


➤ **バックアップファイルをコントロールパネルでバックアップリポジトリにアップロードするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [バックアップマネージャ] に進みます。
2. [サーバレポジトリにファイルアップロードする] をクリックします。
3. [参照] をクリックして、必要なバックアップファイルを選択します。
4. [OK] をクリックします。

バックアップファイルが、バックアップリポジトリにアップロードされます。

## サーバからのバックアップファイルのダウンロード

➤ バックアップファイルをバックアップリポジトリからダウンロードするには以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [バックアップマネージャ] に進みます。
2. ダウンロードするバックアップファイルに対応する  アイコンをクリックします。
3. バックアップファイルを保存する場所を選択し、[保存] をクリックします。

バックアップファイルが、バックアップリポジトリからダウンロードされます。

## サーバからのバックアップファイルの削除

➤ バックアップファイルをバックアップリポジトリから削除するには以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [バックアップマネージャ] に進みます。
2. 削除するバックアップファイルに対応するチェックボックスを選びます。
3. [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

---

## データベースのバックアップファイルリポジトリの維持 (Windows ホスティング)

データベースのバックアップファイルは自分のデータベースバックアップリポジトリに保存されており、[ドメイン] > *ドメイン名* > [バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] をクリックすればアクセスできます。各データベースには固有のバックアップファイルリポジトリがあります。特定のデータベースのバックアップファイルを見るには、[データベース] メニューからデータベースを選択します。デフォルトでは、データベースバックアップリポジトリはドメイン上の全データベースのバックアップファイルを表示します。

データベースバックアップリポジトリで以下を実行できます。

- 他のコンピュータに保存されているデータベースのバックアップファイルのアップロード
- 他のコンピュータへのデータベースのバックアップファイルのダウンロード
- データベースバックアップリポジトリからの冗長データベースバックアップファイルの削除

### このセクションの内容:

サーバへデータベースのバックアップファイルのアップロード .....	236
サーバからデータベースのバックアップファイルのダウンロード .....	237
サーバからデータベースのバックアップファイルの削除.....	237

## サーバへデータベースのバックアップファイルのアップロード


➤ バックアップファイルをバックアップリポジトリにアップロードするには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ]に進み、[バックアップファイルのアップロード]をクリックします。
2. バックアップファイルをアップロードするリポジトリのデータベースを、[データベース名]メニューから選択します。
3. [参照...] をクリックして、必要なバックアップファイルを選択します。
4. バックアップファイルがアップロードされたらすぐにデータベースの内容を復元したい場合は、[アップロードを実行次第、データベースバックアップをリストアする] チェックボックスを選択したままにします。
5. [OK] をクリックします。

データベースのバックアップファイルが、指定したデータベースのバックアップリポジトリにアップロードされます。

## サーバからデータベースのバックアップファイルのダウンロード

➤ バックアップファイルをバックアップリポジトリからダウンロードするには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [バックアップ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進みます。
2. [データベース] メニューから、バックアップファイルを参照するデータベースを選択します。ドメイン上の全データベースのバックアップファイルを参照するには、[すべてのドメインデータベース] を選択したままにします。
3. ダウンロードするデータベースのバックアップファイルに対応する  アイコンをクリックします。
4. バックアップファイルを保存する場所を選択し、[保存] をクリックします。

バックアップファイルが、バックアップリポジトリからダウンロードされます。

## サーバからデータベースのバックアップファイルの削除

➤ バックアップファイルをバックアップリポジトリからダウンロードするには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進みます。
2. [データベース] メニューから、バックアップファイルを参照するデータベースを選択します。ドメイン上の全データベースのバックアップファイルを参照するには、[すべてのドメインデータベース] を選択したままにします。
3. 削除したいデータベースバックアップファイルに対応するチェックボックスを選びます。✗ [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

# タスクのスケジューリング

特定の時間にサーバでスクリプトを実行する必要がある場合、システムで自動的にスクリプトが実行されるタスクスケジューラをプロバイダのサーバで実行します。

## この章の内容:

タスクのスケジューリング (Linux ホスティング) .....	239
タスクのスケジューリング (Windows ホスティング) .....	241
タスク実行の中断および再開 .....	242
タスクのキャンセル .....	243

## タスクのスケジューリング（Linux ホスティング）

➤ **タスクをスケジューリングするには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [スケジューリング済みタスク] に進みます。
2. ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
3. [新しいタスクのスケジュール] をクリックします。
4. コマンドを実行する時間を指定します。
  - 分 - 0~59 の値を入力
  - 時 - 0~23 の値を入力
  - 日 - 1~31 の値を入力
  - 月 - 1~12 の値を入力するか、ドロップダウンボックスから月を選択
  - 曜日 - 0~6（日曜日が 0）の値を入力するか、ドロップダウンボックスから曜日を選択

UNIX クローンタブエントリ形式を使用して、時間をスケジュールできます。この形式では、次の作業を実行できます。

- 複数の値をコンマ区切りで入力します。ハイフンで区切った 2 つの数字は、包括的範囲を意味します。例えば、ある月の 4 日、5 日、6 日、20 日にタスクを実行するには、「4-6,20」と入力します。
- アスタリスクを挿入すると、そのフィールドに入力できるすべての値を指定できます。例えば、タスクを毎日実行するには、[日] テキストボックスに「\*」と入力します。

N ごとに実行するようにタスクをスケジュールするには、「\*/N」の組み合わせを入力します。N はそのフィールドの適切な値です（分、時、日、月）。例えば、[分] フィールドに「\*/15」を入力すると、15 分ごとに起動するようにタスクがスケジュールされます。

月および週は省略名（Aug、Jul、Mon、Sat などの最初の 3 文字）で入力できます。ただし、省略名はコンマで区切ったり、数字と一緒に指定することができません。

5. 実行するコマンドを指定します。 [コマンド] 入力ボックスに入力します。

例えば、バックアップ作成タスクを指定した時間に実行して、バックアップファイルをメールアドレスに送信するには、次のコマンドを「コマンド」入力ボックスに指定する必要があります。

```
/usr/local/psa/admin/sbin/backupmng
```

6. [OK] をクリックします。



## タスクのスケジューリング (Windows ホスティング)

➤ **ドメインのタスクをスケジューリングするには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [スケジューリング済みタスク] に進みます。
2. [新しいタスクのスケジュール] をクリックします。
3. [説明] フィールドにタスクの名前を入力します。
4. [スケジューラからの通知] でスケジューラがタスクを実行したときにそれを通知するかどうかを指定します。以下のオプションをご利用いただけます。
  - [送信しない] - 通知しません。
  - [デフォルトメールに送信] - デフォルトメールアドレスに通知を送信します。
  - [指定するメールアドレスに送信] - 対応するフィールドで指定したメールアドレスに通知を送信します。このオプションを選択したら、右側のフィールドにメールアドレスを入力する必要があります。
5. 実行するコマンドを指定します。[実行ファイルへのパス] 入力ボックスに入力します。オプションとともにコマンドを実行する必要がある場合は、それを [引数] フィールドに入力します。
  - 例えば、ディスク容量をカウントして example.com および example.net ドメインの詳細を見るために統計計算タスクを実行する場合、[実行ファイルへのパス] 入力ボックスに以下のパスを指定する必要があります。  
C:\Program Files\Parallels\Plesk\admin\bin\statistics.exe  
そして以下のオプションを [引数] フィールドに入力します。
    - disk-usage-process-domains=example.com, example.net  
-verbose
  - 自分の php スクリプトをタスクスケジューラを用いて実行するには、以下のパスを [実行ファイルへのパス] 入力ボックスに指定する必要があります。  
C:\Program Files  
(x86)\Parallels\Plesk\Additional\PleskPHP5\php.exe  
そしてそのスクリプトの場所を [引数] フィールドに入力します。  
C:\Inetpub\vhosts\mydomain.tld\httpdocs\myscript.php
6. [タスクの優先順位] フィールドで適切な優先度を選択します。タスクの優先順位は [低] か [中] か [高] に設定できます。

7. [時]、[日]、[月]、[曜日] フィールドから適切なチェックボックスを選択して、コマンドをいつ実行するかを指定します。
8. [OK] をクリックしてタスクをスケジューリングするか、[今すぐ実行する] をクリックしてタスクをスケジューリングしてすぐに実行します。

---

## タスク実行の中断および再開

➤ **スケジューリングされたタスクの実行を一時的に中断するには以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [スケジューリング済みタスク] に進みます。
2. タスクが実行されたシステムユーザアカウントを選択します。
3. 中断するタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスを解除し、[OK] をクリックします。

➤ **スケジューリングされたタスクを再開するには以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [スケジューリング済みタスク] に進みます。
2. タスクが実行されたシステムユーザアカウントを選択します。
3. 実行を再開したいタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

---

## タスクのキャンセル

- **タスクをキャンセルするには、以下の操作を実行します。**
1. ホームページで、ドメイン名をリストから選択します。
  2. スケジューリング済みタスク。
  3. タスクが実行されたシステムユーザアカウントを選択します。
  4. スケジューリングを解除するタスクの左側のチェックボックスを選択します。
  5. **[削除]** をクリックします。
  6. 削除を確認して **[OK]** をクリックします。




# コントロールパネルへの接続と FTP サービスのモニター

## この章の内容:

コントロールパネルへの接続のモニタリング .....	244
FTP サービスへの接続のモニタリング .....	245






---

## コントロールパネルへの接続のモニタリング

- **現在コントロールパネルにログインしている顧客名を探すには、以下を実行します。**
1. [ホーム] > [アクティブセッション] に進みます。自分も含めたすべてのセッションが表示され、次の詳細が表示されます。
    - **タイプ。** セッションを確立したコントロールパネルユーザのタイプ
      -  : クライアント向け
      -  : ドメインまたは Web サイト所有者向け
      -  : メールボックス所有者向け
    - **ログイン。** ユーザがログインしたときのログイン名
    - **IP アドレス。** コントロールパネルにアクセスした IP アドレス
    - **ログイン時間。** ユーザがコントロールパネルにログインした日時
    - **アイドル時間。** ユーザがログイン中にコントロールパネルで何も作業を行っていない時間
  2. ユーザセッションのリストを更新するには、[更新] をクリックします。
  3. ユーザセッションを終了するには、各チェックボックスを選択し、[削除] をクリックし、削除を確認してから [OK] をクリックします。

# FTP サービスへの接続のモニタリング

Parallels Plesk Panel は、ホスティングサーバに以下の FTP サーバプログラムのいずれかがインストールされている場合に限り、アクティブな FTP セッションを表示できません。

- Microsoft [FTP 7.0](#) (Windows ホスティング)
  - Gene6 FTP サーバ (Windows ホスティング)
  - Serv-U FTP サーバ (Windows ホスティング)
  - ProFTPd (Linux/UNIX ホスティング)
- **FTP を使用してサーバに接続しているユーザ名、そのユーザが作業しているディレクトリ名、およびサーバ間でアップロードまたはダウンロードを行っているファイル名を確認するには、以下を実行します。**
1. [ホーム] > [アクティブセッション] に進みます。
  2. [FTPセッション] タブをクリックします。自分も含めたすべてのセッションが表示され、次の詳細が表示されます。
    - **タイプ。** セッションを確立したユーザのタイプ
      -  : コントロールパネルに登録していないユーザ向け
      -  : 匿名 FTP ユーザ向け
      -  : ドメインまたは Web サイト管理者向け
      -  : サブドメイン管理者向け
      -  : Web ユーザ (個別のドメイン名を持たない個人 Web ページの所有者) 向け
    - **ステータス。** FTP 接続の現在のステータス
    - **FTP ユーザログイン。** FTP アカウントへのアクセスに使用したログイン名
    - **ドメイン名。** FTP ユーザが現在接続しているドメイン
    - **現在のロケーション。** FTP ユーザが現在いるディレクトリ
    - **ファイル名。** 操作中のファイル名
    - **速度。** 転送速度 (キロバイト)
    - **完了 (%)。** パーセンテージで示されるファイル移行の進捗度
    - **IP アドレス。** FTP アカウントにアクセスしている IP アドレス

- **ログイン時間。** 現在のユーザがログインしてからの経過時間
- **アイドル時間。** FTP を使用してサーバに接続している間に、ユーザが何も作業を行っていない時間
- FTP セッションのリストを更新するには **[更新]** をクリックします。
- セッションを終わらせるには、該当するチェックボックスをチェックして、**[削除]** をクリックします。

---

## リモートデスクトップ (Windows ホスティング) 経由でサーバにアクセス

リモートデスクトップ (RDP) アクセス機能によって Parallels Plesk Panel にリモートログインして標準 Microsoft Windows デスクトップインターフェース経由で相互作用ができます。

➤ **リモートデスクトップインターフェース経由でサーバにアクセスするには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [リモートデスクトップ] に進みます。
2. [ターミナルセッションの画面解像度] メニューでセッションの画面解像度を設定します。

---

注：解像度が高いと相互作用のスピードが落ち、より多くの帯域幅を使用します。

---

3. ブラウザによって接続方法を選択します。
  - **Microsoft RDP ActiveX** - 他のブラウザでは動作しないため、Internet Explorer ブラウザの使用が推奨されています。初めてこの方法を使用する場合は、Internet Explorer のセキュリティ設定で許可されていれば、必要な ActiveX コンポーネントをブラウザが自動的にインストールします。ブラウザにセキュリティアラートが表示された場合は、ブラウザオプションでセキュリティレベルを一時的に低くしてみてください。
  - **properoJavaRDP** - Internet Explorer では動作しないため、Netscape、Mozilla、Firefox ブラウザの使用が推奨されています。Opera の 8.0 以上のバージョンだけがサポートされています。このコンポーネントは JRE (Java Runtime Environment) がシステムにインストールされていることが必要です。JRE は <http://java.sun.com/j2se/1.5.0/download.jsp> からインストールすることができます (バージョン 1.4 以上)。

---

注：

---

Internet Explorer または Mozilla を使用する場合は Microsoft Windows のターミナルサービスコンフィグレーションコンソールを開いて ([開始]>[管理タスク])、サーバ設定画面でユーザごとに [ライセンスング] オプションを設定する必要があります。

4. [OK] をクリックします。新規ウィンドウが開きます。
5. システムにログインします。デフォルトで Parallels Plesk Panel はドメインの FTP/Microsoft FrontPage ログインを使用しています。どの有効なログイン名およびパスワードでもできます。

6. システムにログインしたあとは通常のWindowsデスクトップのようにして作業を開始できます。

➤ **リモートデスクトップセッションを終了するには以下を実行してください。**

- リモートデスクトップセッションのブラウザウィンドウをクローズします。この方法だとセッションはデスクトップから切り離されますが、サーバ上で動作し続けるので、次回ログインしたときにリモートデスクトップは前の状態を維持しています。  
または
- セッションから完全に出たい場合は [スタート] > [ログオフ] を選択します



# ヘルプデスクを使用した顧客の問題 解決およびプロバイダへのサポート 要求

ホスティング会社がコントロールパネルにヘルプデスクを統合している場合は、それを使用して以下を実行できます。

- 問題をプロバイダのテクニカルサポートスタッフへ報告する
- 顧客(ウェブサイト所有者)から問題のレポートまたはサポート要求を受け取る

---

**注:** ヘルプデスクが利用できない場合は、Panel のナビゲーションペインにヘルプデスクへのリンクが表示されません。 その場合は、他の方法でホスティングサービスプロバイダにお問い合わせください。

---

## この章の内容:

ヘルプデスクでのトラブルチケットの表示.....	250
サービスプロバイダへの問題レポートの提出.....	251
トラブルチケットへのコメントおよびクローズ.....	251

---

## ヘルプデスクでのトラブルチケットの表示

- ユーザからの新規チケットを確認したり、提出したチケットの状態を表示するには、以下を実行します。
1. ナビゲーションペインの [ヘルプデスク] ショートカットをクリックします。ご自身や顧客が提出した全てのチケットが一覧に表示され、次の補足情報が表示されます。
    - ID: 投稿時にシステムによって割り当てられる ID 番号
    - チケットのタイトル: チケット投稿者が入力した問題の概略
    - チケットの状態: 新規、再オープン、クローズ
    - 投稿者のタイプ: コントロールパネルに表示されるチケットの発信元のユーザーアカウントまたはメールアドレス。クライアント、ドメイン管理者、コントロールパネルへのアクセス権を持つメールユーザ、またはメールでチケットを投稿したユーザ
    - 投稿者の名前: チケットの投稿者の名前、ドメイン所有者が投稿したチケットのドメイン名、またはメールで投稿されたチケットのメールアドレス
    - 更新日: チケットが更新(コメントの追加や状態の変更)された日
    - カテゴリ: チケットを関連付けるカテゴリ
  2. チケットの内容を表示するには、チケットIDまたはチケット件名をクリックします。

---

## サービスプロバイダへの問題レポートの提出

➤ **新規の問題レポートをサービスプロバイダに提出するには以下を実行します。**

1. [ヘルプデスク] > [新しいチケットを追加] に進みます。

---

注: ヘルプデスクが利用できない場合は、Panelのナビゲーションペインにヘルプデスクへのリンクが表示されません。その場合は、他の方法でホスティングサービスプロバイダにお問い合わせください。

---

2. チケットの件名を入力し、関連するカテゴリを選択して問題の説明を入力してください。
3. [OK] をクリックします。

チケットはシステムを通してプロバイダに送信されます。問題が解決したらメールで通知が来ます。

---

## トラブルチケットへのコメントおよびクローズ

➤ **問題が解決された後、チケットをクローズする、またはコメントを投稿するには、以下を実行します。**

1. ナビゲーションペインの[ヘルプデスク]ショートカットをクリックします。
2. 作業を行うチケットを探し、その件名かID番号をクリックします。
3. チケットをクローズ、再オープンするには、またはチケットにコメントを投稿するには、[イベント]ドロップダウンボックスから実行する作業を選択し、必要に応じて[新規コメント]入力フィールドに新しいコメントを入力します。
4. [OK] をクリックして送信します。